令和２年度

特別支援教育体制整備推進事業に係る
「実践推進校研究事業」実施報告書

香川県立高松養護学校

目　次

１．取組の背景・・1

２．事業実績・・・2
（1）本校の個別の教育支援計画の様式と構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（2）本校の個別の教育支援計画の作成と運用スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（3）個別の教育支援計画の作成と活用に関わる１年間の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（4）個別の教育支援計画活用の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
①保護者との連携による個別の教育支援計画の活用の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
②学校関係者との連携による個別の教育支援計画の活用の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・9
③関係機関との連携による個別の教育支援計画の活用の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

３．成果・・13
（1）個別の教育支援計画の活用実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
①保護者との連携による個別の教育支援計画の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
【事例１　保護者との連携】
②学校関係者との連携による個別の教育支援計画の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
【事例２　寄宿舎との連絡会】【事例３　寄宿舎との連絡会】
③学校関係者との連携、関係機関との連携による個別の教育支援計画の活用・・・・・・・・・・22
【事例４　医療的ケア室との連携とサービス担当者会議】
④関係機関との連携による個別の教育支援計画の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
【事例５　サービス担当者会議】【事例６　サービス担当者会議】
【事例７　移行支援会議】【事例８　移行支援会議】
（2）個別の教育支援計画活用について「よかった」と評価された理由・・・・・・・・・・・・・・45
①学校関係者の回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
②保護者の回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
③関係機関の回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
（3）本校の個別の教育支援計画取組の趣旨を伝えるためのリーフレット・・・・・・・・・・・・・46

４．今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
（1）合理的配慮の記載・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
（2）本校個別の教育支援計画取組の趣旨を伝えるためのリーフレットの活用・・・・・・・・・・・51
（3）サービス担当者会議の参加の在り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

参考文献・・・53

資料

様式２

令和２年度特別支援教育体制整備推進事業に係る
「実践推進校研究事業」実施報告書

香川県立高松養護学校

１．取組の背景

香川県立高松養護学校（以下本校）では、家庭や学校と並んで、児童生徒の生活や活動の場所の一つである福祉事業所との連携を図ることは児童生徒の今の生活の質を向上させるために重要であると捉え、校外関係機関との連携を推進するツールとして、個別の教育支援計画の整備、活用を進めてきた。さらに、構築した校外関係機関との連携システムを校内において応用することで、校内関係者との連携を強化するツールとして活用されるようになってきた。本校の個別の教育支援計画は、連携を強化するツールとしての役割とともに、各学部間を通して一貫した教育的支援の連続性を保つためのツールとしても活用されている。

平成２９年改訂の学習指導要領では、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受ける児童生徒については、個別の教育支援計画の作成が義務づけられた。しかし、藤井(2017)は、個別の教育支援計画が学校と関係機関との連携に寄与していない状況を明らかにし、日常的に教育活動や関係機関との連携に活用できるよう作成と活用の在り方の抜本的な改善の検討を指摘している。

昨年度の取組では、本校における個別の教育支援計画の整備と、具体的な活用の場・機会がセットになることで計画の活用と更新が促され、指導や支援の改善、児童生徒の「より豊かな生活」の実現を示した。しかし、連携訪問、巡回相談、教育相談等で小学校、中学校に在籍する障害のある児童生徒の実際の計画を見せてもらうと、学校によって作成の状況は様々であり、教育的支援の連携や連続性のためのツールと言われながら、実際にそのように運用できている学校は多くはないという現状である。そこで今年度は、本校の保護者、学校関係者、関係機関から個別の教育支援計画活用の取組の効果に関する具体的なエピソードを収集し、そのエピソードとともに活用している個別の教育支援計画を挙げる。そして、個別の教育支援計画を活用し保護者、校内・校外機関が連携し児童生徒の学習や生活の質の向上、「豊かな生活」の実現に向けた取組についての実践事例を示す。それにより個別の教育支援計画の作成や活用について模索している他校において、本校の取組が一助となり、特別な教育的支援が必要な児童生徒にとって、より一層の切れ目ない支援体制の構築、「より豊かな生活」への実現に貢献することを本事業の目的とする。

２．事業実績

（１）本校の個別の教育支援計画の様式と構成

本校の個別の教育支援計画の様式は（図１）から（図４）で構成されている。調査票①（図１）は、障害名や家族構成等の本人に関するプロフィール、調査票②（図２）は、医療や労働、福祉など本人を支援している関係機関の一覧である。調査票①②で児童生徒の基本的な情報を記入し把握した上で、個別の教育支援計画Ⅰ（図３）において、本人や保護者の願い、感じている課題（困っていることなど）の聞き取りを行い、今より豊かな生活のイメージを本人と保護者で共有した上で、教師の教育的知識や経験をもとに今より豊かな生活のために必要な教育的ニーズを明らかにする。そして児童生徒の教育的なニーズを受けて、個別の教育支援計画Ⅱ（図４）では、支援目標や支援の内容（手立て）を具体化させ、さらに保護者や校内外の関係者と連携して「誰が」「何をするか」を具体的に計画していく。

高等部３年生は、卒業後の就労や生活支援等への円滑な移行のために、学校で行ってきた個別の教育支援計画の支援目標や支援の内容（手立て）について、卒業後の生活に沿うように、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱ(移行支援用)（図５）（図６）の作成を行う。

記入例　教育支援計画調査票①

（更新日　令和　○年　○月　○日）
香川県立高松養護学校

ふりがな 氏名	たかまつ　たろう 高松　太郎	性別	男	生年月日	平成　△年　△月　△日
ふりがな 保護者氏名	たかまつ　じろう 高松　次郎	現住所	（〒　○○○　－△△△△　） 香川県高松市○○町○○番地 ＴＥＬ　○○○（△△△）□□□□		
病名等	例　脳性まひ　ダウン症　○○症候群など				
手帳	身障　○　種　　○　級　　療育　　△				
合併症（例えば心臓疾患、ぜんそく等、あれば記入）					発作の有無 有
通学方法（交通手段と距離）だいたいでかまいません 例　母が自家用車で送迎　約５ｋｍ 路線バス 自家用車とスクールバス（朝のみ）			その他 例　センター入所 寄宿舎入舎（水、木週2回）		

家族構成	続柄	氏名	備考
	父	高松　○○	
	母	高松　△△	
	兄	高松　＊＊	
	妹	高松　？？	
	祖母	香川　××	Ｈ１５．○　死亡

チェック欄（担任名記入）

小１	小２	小３	小４	小５	小６
中１	中２	中３	高１	高２	高３

（図１）調査票①様式

記入例　教育支援計画調査票②（支援関係機関一覧）

（更新日　令和　○年　○月　○日）

中学部１年　氏名（　高松　○○　）

		中学部　１　年　（５月３１日現在）	変更
医療	医療	主治医　病院名 中央病院　小児科　○○先生	
		他のかかりつけ医・病院名 リハセンター・・・整形外科　○○先生 小児科　△△先生 香川小児病院・・・小児科　□□先生 ○○病院・・・　眼科××先生	小児科　○○病院△△先生（H27.5） 訪問看護　△△病院□□看護師（H28.4）
		PT、OTなど　担当者名　回数 PT　リハセンター○○先生　月２回 OT　リハセンター△△先生　週１回 ST　○○病院　××先生　月１回	
		手術歴（歯科除しない） ハムストリングス延長のための手術 バクロフェンポンプの埋め込み手術	気管切開手術（H27.7） 胃ろう手術（H28.9）
		医療的ケア 鼻腔からの経管栄養で留置 導尿	痰の吸引（H27.9） 胃ろうからの栄養注入（H28.10）
		装具・補助具（相談先、事業所名、担当者名） 車いす　○○工房　担当○○　（H26.4） 座位保持いす　△△店（H26.7） ヘッドギア　△△店（H27.8）	短下肢装具　○○工房　（H26.7） ＰＣウォーカー　△△店　（H27.8）
福祉	福祉	相談先（事業所名、担当者） 高松市障害者生活支援センター　担当○○役職名	障害者生活支援センター　◇◇　担当△△役職名
		サービスの種類・事業所名 短期入所　○○事業所　（H27.4～） 児童デイサービス　□○事業所（H27～） 身体介護、移動支援　○○事業所	短期入所　××事業所に変更（H28.8） 学童保育（放課後支援）スペース○○（H28.12） 日中一時支援　◎○事業所（H29.2） 通園Ｂ型事業　○○事業所（H29.2） 福祉タクシー（有償）　（H29.3）
労働	労働	○○作業所体験（夏休み） △△作業所見学	××施設見学（H28.12）
その他	その他	交流学習、親の会、地域の活動グループ、劇練会、学習塾など（名称・内容・回数） △△遊例会　動作訓練による学習　週1回 ○○月例会　動作訓練による学習　月1回 ××会　音楽療法　月２回 タブレット型情報端末購入（H28.9）	○○親の会　学生ボランティアによる余暇活動（H28.9） WOCA（ステップ　バイ　ステップ）購入（H29.2）

チェック欄（担任名記入）

中１	中２	中３
○○　△△		

（図２）調査票②様式

記入例　個別の教育支援計画　Ⅰ

○○部　○年　高松太郎

香川県立高松養護学校
作成者氏名　　㊞　令和　年　月　日

（困っていることなど）現在の課題	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・帰宅後にすることがない。 ・最近首や背中が痛くなることが多い。 ・パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
	保護者	・側わんが進行しているようで心配である。 ・話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。 ・勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。
（つけたい力など）現在の願いや	本人	・もっと外出していろいろな所に行きたい。 ・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の状態をできるだけ維持してほしい。 ・親が連れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・話が伝わらないとすぐにあきらめてしまうので、あきらめないで相手に伝えてほしい。 ・タブレット型情報端末を利用して、少しでも自分で学習活動ができるようになってほしい。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　筋力をつけて、もっとスムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B　タブレット型情報端末など、扱いやすい教材や学習用具で学習できるようにする。
C　保護者以外の人とも外出できるようになる。
D　自分の意思をはっきりと言葉で伝えられるようになる。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・□□病院ＰＴ（Ａ） ・○○事業所（ＢＣＤ） ・△△事業所（ＤＥ） ・寄宿舎（ＡＢＤＥ） ・自立活動室（ＡＢ） ・学校歯科医（Ｅ）	・寄宿舎連絡会（H28.4.20） ・自立活動室との打合せ会（H28.5.1） ・教科担任によるケース会（H28.5.17） ・綾野Ｄｒによる摂食指導（H28.5.30） ・□□病院ＰＴ見学・支援内容に関する相談（H28.7） ・サービス担当者会議（H28.7.10）

この支援計画を了承します。　　令和　年　月　日　氏名

（図３）個別の教育支援計画Ⅰ様式

記入例　個別の教育支援計画Ⅱ

○○部　○年　高松　太郎

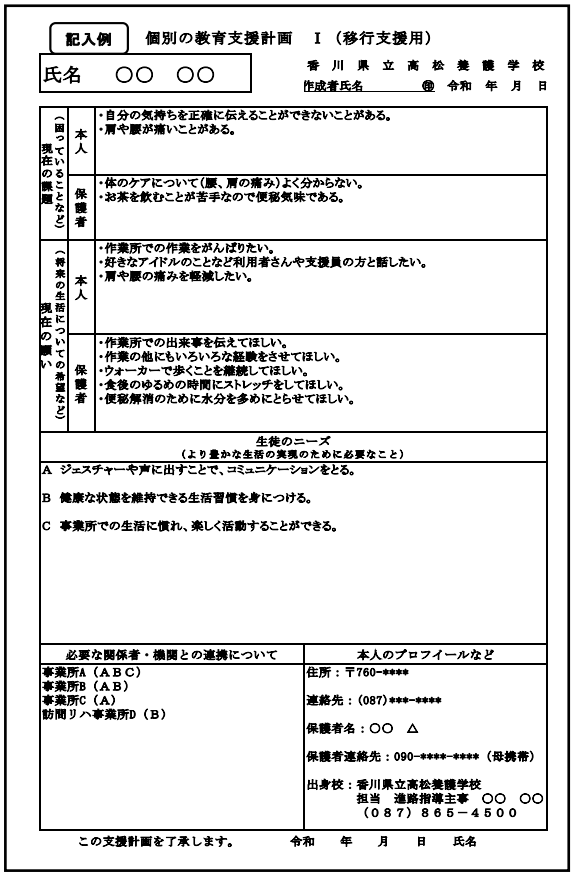
香川県立高松養護学校
作成者氏名　　㊞　令和　年　月　日

支援目標	支援の内容：学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
A　全身の筋力をつけ、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。 B　メモやノートを楽に取れるようにする。 C　保護者以外の人と外出して楽しむことができる。 D　いろいろな人に自分の意思を伝えられるようになる。	A　給食場までの移動の際にＰＣウォーカーで移動する距離を増やしていく。 A　寄宿舎でも1日に1回ＰＣウォーカーで廊下を1往復する機会を設ける。 B　授業のなかで、タブレット型情報端末のデジタルノート用アプリケーションを組み合わせながら、効率の良い方法を検討する。 B　教科担任間でのケース会を実施し、ノートテイクについての共通理解を図る。 C　移動支援サービスを活用し、保護者なしでの外出の経験を増やす。 C　校外学習で買い物や映画鑑賞等の経験を広げる。 D　10月より携帯型情報端末のコミュニケーション支援用アプリケーションを使って、意思を相手に伝える学習を開始する。	高松 香川 田村(舞) 香川 高山 教科担任 保護者 高松 香川 高松 香川 谷口(自)	A　体の変化に伴って、歩行する際の助言を保護者や担任に行う。 B　放課後等デイサービスで宿題に取り組む時にも、タブレット型情報端末を使用できるように環境を整える。 C　本人や保護者の希望に応じたサービス等利用計画を作成する。 D　意思が伝わるまで、根気よく関くよう職員間で共通理解を図る。	○○病院：○○ＰＴ（H28.7） ○○事業所：○○さん（H28.5.30） ○○相談支援専門員（H28.6.10） ○○サポート：○○ヘルパー（H28.7.10）

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

この支援計画を了承します。　　令和　年　月　日　氏名

（図４）個別の教育支援計画Ⅱ様式



記入例　個別の教育支援計画　Ⅰ（移行支援用）

氏名　○○　○○

香川県立高松養護学校
作成者氏名　㊞　令和　年　月　日

現在の課題（困っていることなど）	本人	・自分の気持ちを正確に伝えることができないことがある。 ・肩や腰が痛いことがある。
	保護者	・体のケアについて（腰、肩の痛み）よく分からない。 ・お茶を飲むことが苦手なので便秘気味である。
現在の願い（将来の生活についての希望など）	本人	・作業所での作業をがんばりたい。 ・好きなアイドルのことなど利用者さんや支援員の方と話したい。 ・肩や腰の痛みを軽減したい。
	保護者	・作業所での出来事を伝えてほしい。 ・作業の他にもいろいろな経験をさせてほしい。 ・ウォーカーで歩くことを継続してほしい。 ・食後のゆるめの時間にストレッチをしてほしい。 ・便秘解消のために水分を多めにとらせてほしい。

生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　ジェスチャーや声に出すことで、コミュニケーションをとる。

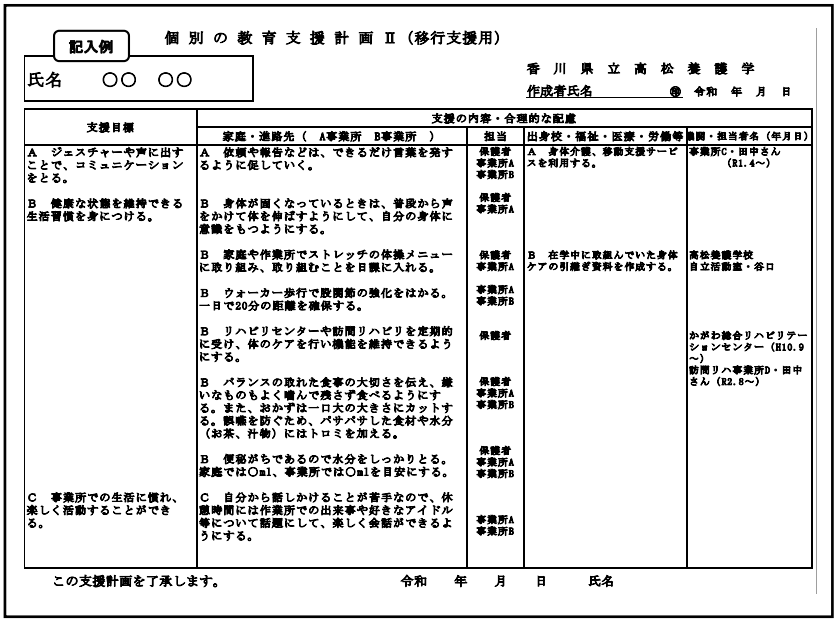
B　健康な状態を維持できる生活習慣を身につける。

C　事業所での生活に慣れ、楽しく活動することができる。

必要な関係者・機関との連携について	本人のプロフィールなど
事業所A（A B C） 事業所B（A B） 事業所C（A） 訪問リハ事業所D（B）	住所：〒760-**** 連絡先：(087)***-**** 保護者名：○○　△ 保護者連絡先：090-****-****（母携帯） 出身校：香川県立高松養護学校 担当　進路指導主事　○○　○○ （087）865－4500

この支援計画を了承します。　令和　年　月　日　氏名

（図５）個別の教育支援計画Ⅰ（移行支援用）様式



記入例　個別の教育支援計画Ⅱ（移行支援用）

氏名　○○　○○

香川県立高松養護学
作成者氏名　㊞　令和　年　月　日

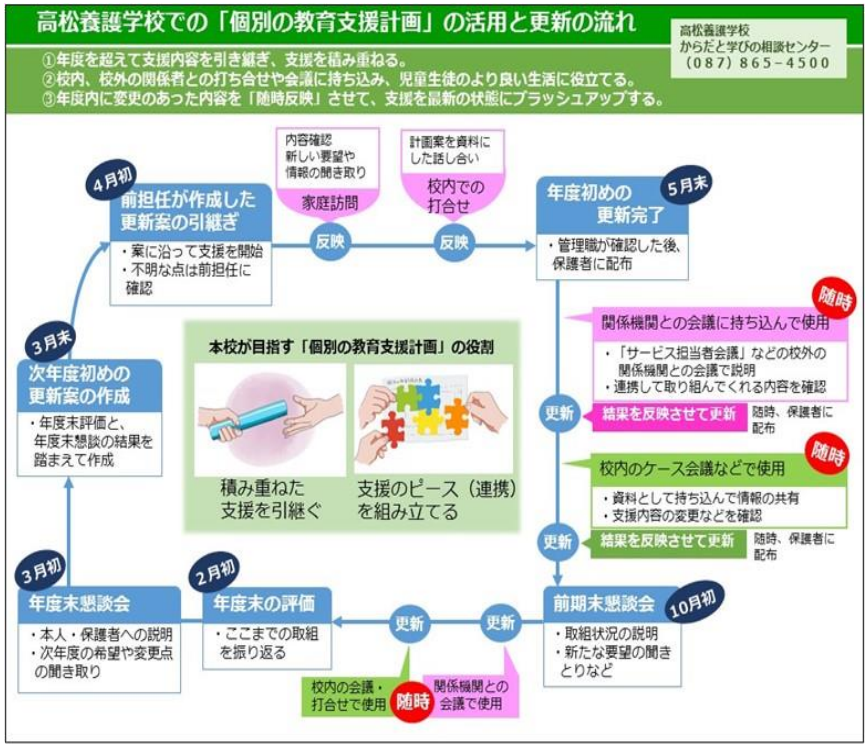
支援目標	支援の内容・合理的な配慮			
	家庭・進路先（　A事業所　B事業所　）	担当	出身校・福祉・医療・労働等	機関・担当者名（年月日）
A　ジェスチャーや声に出すことで、コミュニケーションをとる。	A　依頼や報告などは、できるだけ言葉を発するように促していく。	保護者 事業所A 事業所B	A　身体介護、移動支援サービスを利用する。	事業所C・田中さん（R1.4～）
B　健康な状態を維持できる生活習慣を身につける。	B　身体が固くなっているときは、普段から声をかけて体を伸ばすようにして、自分の身体に意識をもつようにする。	保護者 事業所A		
	B　家庭や作業所でストレッチの体操メニューに取り組み、取り組むことを日課に入れる。	保護者 事業所A	B　在学中に取組んでいた身体ケアの引継ぎ資料を作成する。	高松養護学校 自立活動室・谷口
	B　ウォーカー歩行で股関節の強化をはかる。一日で20分の距離を維保する。	事業所A 事業所B		
	B　リハビリセンターや訪問リハビリを定期的に受け、体のケアを行い機能を維持できるようにする。	保護者		かがわ総合リハビリテーションセンター（H10.9～） 訪問リハ事業所D・田中さん（R2.8～）
	B　バランスの取れた食事の大切さを伝え、嫌いなものもよく噛んで残さず食べるようにする。また、おかずは一口大の大きさにカットする。誤嚥を防ぐため、パサパサした食材や水分（お茶、汁物）にはトロミを加える。	保護者 事業所A 事業所B		
	B　便秘がちであるので水分をしっかりとる。家庭ではO㎖、事業所ではO㎖を目安にする。	保護者 事業所A 事業所B		
C　事業所での生活に慣れ、楽しく活動することができる。	C　自分から話しかけることが苦手なので、休憩時間には作業所での出来事や好きなアイドル等について話題にして、楽しく会話ができるようにする。	事業所A 事業所B		

この支援計画を了承します。　令和　年　月　日　氏名

（図６）個別の教育支援計画Ⅱ（移行支援用）様式

（２）本校の個別の教育支援計画の作成と運用スケジュール

個別の教育支援計画は、児童生徒の教育的なニーズを明らかにし、支援に関わる関係者と情報を共有し、作成した計画を実践し適切に評価・改善を行い次学年、進路先に引き継いでいく一貫した教育的支援の連続性を保つためのツールである。学年ごと（新転入生を除く）に新しい計画書を作るものではなく、転入学から卒業まで切れ目なく連続したひとつの計画書である。そのことをふまえ、本校では、年度初めの個別の教育支援計画の作成を「計画の更新」、その後、会議等で使用し、会議内容を個別の教育支援計画に反映させる場合は、「随時更新」といったキーワードを使うようにしている。（図７）



（図７）「更新・随時更新」を示した本校の個別の教育支援計画年間運用スケジュールのチャート図

（３）個別の教育支援計画の作成と活用に関わる１年間の流れ

	本人・保護者	担任・学校	関係者・機関	作成と活用の相関関係
２月		・「サービス利用調査票」（図８）「個別の教育支援計画作成のための事前調査票」（図９）新転入生保護者配布。		引継ぎ・更新（作成） 活用・随時更新
	・「個別の教育支援計画作成のための事前調査票」小３、小６、中３保護者へ配布と提出。 ・「サービス利用調査票」高３を除く在校生保護者へ配布と提出。			
４月	・新転入生保護者「個別の教育支援計画作成のための事前調査票」、「サービス利用調査票」提出。	・個別の教育支援計画、職員への全体周知会（資料「個別の教育支援計画　更新・作成の手引き」参照）。		活用・随時更新
	・新・転入生担任は、調査票①②、個別の教育支援計画Ⅰの作成。保護者へ調査票①②、個別の教育支援計画Ⅰの内容確認後、調査票①②修正訂正、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱの作成。 ・昨年度から在籍する児童生徒の担任は、前学年で作成された調査票①②、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱ（次年度シート）を確認し、必要に応じて加筆修正。保護者へ調査票①②、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱの確認後、変更があれば加筆修正。			
５月末		・調査票①②、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱ完成（更新）。		活用・随時更新
６月	・保護者へ調査票①②、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱと「個別の教育支援計画の配布と活用について」（図１０）の説明を行い配布。			活用
	・配布された個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱに署名し、家庭用ファイルに綴じる。	個別の教育支援計画の家庭での保管方法、校内・校外の関係者との会議の資料とすること、個別の教育支援計画を配布行う場合は、承諾の確認を行う内容を記載。		

更新した個別の教育支援計画の実施

関係機関との会議、ケース会、校内部門との連絡会・打ち合わせ等に個別の教育支援計画を持って行き、担任は「サービス担当者会議マニュアル」（図１１）等を使って、支援目標、支援内容の取組の確認・協力依頼を行う。

・会議等で決まった関係者の支援内容を反映させて、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱに加筆修正を行い(随時更新)、保護者へ配布。

・会議で支援内容の変更がない場合は、随時更新を行わない。

・保護者は、関係機関、校内関係者に更新した個別の教育支援計画の配布を行う。

更新または随時更新した個別の教育支援計画の実施

１０月

前期末懇談会

・保護者や本人に個別の教育支援計画の進捗・更新状況の説明。見直し等の確認。

２月

・個別の教育支援計画Ⅱの「支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項」の記入(更新)。

３月

年度末懇談会

・保護者や本人へ教育支援計画Ⅱ「支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項」の説明を行う。

・小３、小６、中３児童生徒担任は、「サービス利用調査票」、これまで作成した個別の教育支援計画Ⅰと照らし合わせて「個別の教育支援計画作成のための事前調査」について保護者へ確認。

・小３、小６、中３児童生徒以外の担任は、「サービス利用調査票」、個別の教育支援計画Ⅰの変更の有無について保護者へ確認。

活用

評価

活用・随時更新

活用・随時更新

活用・随時更新

	・保護者へ個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱを配布。			引継ぎ・更新(作成) ⇔ 活用・随時更新
	・配布された個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱに日付と署名欄に署名し、家庭用ファイルに綴じる。	・次年度在籍する児童生徒の次年度シートの作成。 ・次年度在籍する児童生徒の調査票②、個別の教育支援計画Ⅰ、次年度用のシート完了(更新)。		

本校の個別の教育支援計画の作成と活用の特徴は、学年が変わると新しいものを作るのではなく、前年度の教育的ニーズや支援目標、関係機関を支援内容が確実に引き継がれるよう、前年度の担任が年度末に、次年度の個別の教育支援計画の更新案をある程度まで作成をして引き継ぐところにある。また、作成、活用、評価、引き継ぎといった一年間を通して作成(更新)が行われているが、関係機関とのサービス担当者会議、ケース会議等は時期を問わず開催されている。そのため個別の教育支援計画を会議に持ち込み、会議で共通理解された内容を個別の教育支援計画に加筆修正を加える随時更新は、年間を通じてなされ、個別の教育支援計画は常に最新な状態に保つようにしている。

R2年度支援サービス(福祉・医療など)調査票 (締切2月28日)

支援教育部

・お子様がどのような支援サービスを利用しているかを把握させていただくための調査です。
・また、担任がお子様の生活の様子を理解するためのものでもあります。
・個別の教育支援計画の作成・更新や活用にもつながるものですので、ご協力よろしくお願いいたします。

学部(小・中・高)　年　組　氏名

＊該当するところに○をつけ、必要事項を記入してください。

福祉

◎相談支援事業所(たかまつ、あい、ましみず、ピア、野の花、結、ふらっと、オリーブなど・・)や相談支援専門員の方に相談したことはありますか？
(　　)はい　　(　　)いいえ

◎サービス等利用計画を作成してもらっていますか？
(　　)はい　　(　　)いいえ

相談支援事業所名	担当の相談支援員の名前

＊福祉サービスの利用について

<施設利用タイプ>

◎「放課後等デイサービス」や「日中一時支援」を利用している。→(　　)はい　(　　)いいえ

事業所名	利用頻度:利用状況

◎「短期入所(ショートステイ)」を利用している。→(　　)はい　(　　)いいえ

事業所名	利用頻度:利用状況

<居宅支援タイプ>

◎「移動支援(外出支援)」を利用している。→(　　)はい　(　　)いいえ

事業所名	利用頻度:利用状況

◎「身体介護(入浴支援などの居宅介護)」を利用している。→(　　)はい　(　　)いいえ

事業所名	利用頻度:利用状況

<その他 or 有料のもの>

◎「介護タクシー」や「レスパイトサービス」などを利用している。→(　　)はい　(　　)いいえ

事業所名	利用頻度:利用状況

※裏面もあります。

医療

◎主治医について

病院名:医師名	受診の頻度:受診内容

◎主治医以外に受診しているドクターについて

病院名:医師名	受診の頻度:受診内容

◎PT・OT・ST・ORT(視能訓練)など受けている医療訓練について

病院名:セラピスト名	訓練の頻度:訓練内容

その他(地域資源の活用 or 施設入所など)

◎月例会・地域訓練会・スポーツクラブ・塾・スイミングなど、地域で活用しているものについて
施設(リハビリテーションセンター等)に入所している場合も、以下に記入してください。

サポートファイル「かけはし」についての質問です

◎サポートファイル「かけはし」を作成している。
(　　)はい　(　　)いいえ→◆へ

◆サポートファイル「かけはし」を作成したいので、ファイルの書式がほしい。
(　　)はい　(　　)いいえ

＊現在、生活していくうえで、困っていることがあれば、以下の欄に記入してください。
また、支援サービスについて相談したいことがある方も、以下の欄にご記入ください。

2／28(金)までに担任へご提出をお願いします。この調査票に記入しきれなかったことなどは口頭でお伝えいただくと、担任がお子様の生活状況を理解するのに役立ちます。ご協力ありがとうございました。

(図８) 児童生徒の生活状況を把握するためのサービス利用調査票

保護者各位

令和２年度　個別の教育支援計画作成のための事前調査

（対象学年：小学部１年、小学部４年、中学部１年、高等部１年）

香川県立高松養護学校

＿＿＿＿学部＿＿＿＿年＿＿＿＿組　児童生徒名（　　）

このシートは、学校と保護者がお子様にとって適切な指導と支援について考える資料になります。このシートを参考資料とし学校、家庭での取り組みなどについて話し合いを行い、個別の教育支援計画を作成します。
「現在の課題（本人・保護者）」「現在の願い（本人・保護者）」の項目欄に、下記に例として示した領域を参考に具体的な願いをお書きください。（在校生の方は、お渡ししている個別の教育支援計画にこれまでにお聞きしている内容が載せてあります。）

	健康・身体機能	身辺処理・生活	社会性・行動	学習
領域	健康面 姿勢 移動 手指の動き など	食事 排せつ 衣服の着脱 片付け 用具の使用・活用 役割（手伝い、係活動） 金銭の扱い など	指示や話の内容理解 意思の伝達 集団行動・遊び 決まりの理解や遂行 人との関わり 感情のコントロール 危機回避・危機予知 など	聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 計算すること 推論すること 描くこと など

【現在の課題（困っていることなど）】
・現在の生活や学習の中で、困っていることやできてほしいことなどを記入します。
・お子様と十分お話の上、記入してください。お子様が気持ちを伝えられない場合は、推察して可能な限り記入してください。

現在の課題（困っていることなど）	本人	
	保護者	
現在の願い（つけたい力など）	本人	
	保護者	

【現在の願い（つけたい力など）】
・より豊かな生活の実現に向けて取り組んでもらいたいこと、支援してほしいことについて本人や保護者の方の率直な希望を記入してください。
・お子様と十分お話の上、記入してください。お子様が気持ちを伝えられない場合は、推察して可能な限り記入をしてください。

（図９）本人・保護者の願い等を聞き取るための事前調査票

保護者各位

香川県立高松養護学校
校長　百合　公明

個別の教育支援計画の配布と活用について

「個別の教育支援計画」は、障がいのある幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、長期的な視点で支援していくという考えのもと、学校が中心となって関係機関と連携し、的確な教育を行うことを目的に作成しております。年度初の個別の教育支援計画の更新・作成ができましたので、配布いたします。また、「個別の教育支援計画」について下記のとおりご協力をお願いいたします。

１　配布時の内容確認と保管方法について

・「支援計画Ⅱ」のシートに内容確認の署名欄があります。更新・作成した「個別の教育支援計画書」について了承していただける場合は、署名をお願いします。
・　転入学時にお渡ししているファイルに、今回お渡ししたシートをとじて保管して下さい。ファイルを紛失したなどお困りの際は担任にご連絡ください。

２　「個別の教育支援計画」活用について

・　校内・校外の関係者との会議の資料にします。会議後、話し合った内容を「個別の教育支援計画」に書き加えて、更新を行います。更新を行った「個別の教育支援計画」は、保護者の方（リハセンター生以外）を通じて、会議の参加者に配布をお願いするようになります。

※　会議時、関係者に「個別の教育支援計画」を配布して説明等に利用します。事前に配布に関して担任から口頭での確認をさせていただきますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。不都合がありましたら担任にお申し出ください。

（図１０）「個別の教育支援計画の配布と活用について」保護者宛て説明プリント

サービス担当者会議　参加者マニュアル

支援教育部

サービス担当者会議は、児童・生徒のサービス利用状況や過ごし方の情報を得たり、学校での指導や支援の様子について共通理解したりできる機会です。有意義な話し合いになるように、ご協力よろしくお願いいたします。

１　会議前について

（１）サービス担当者会議で個別の教育支援計画を提示・配布してもよいか、保護者への事前確認をお願いします。
（２）配布の了承を得た場合、個別の教育支援計画Ⅰ、Ⅱを会議参加者人数分プリントアウトしておいてください。会議の資料として配布します。

２　会議について

（１）相談支援事業所の方が進行を行います。
（２）学校の様子を尋ねられることがあります。学校での様子や取り組み等について話をしてください。
（３）「個別の教育支援計画活用の仕方」（※裏面）にしたがって個別の教育支援計画の内容説明と役割分担についての話を行ってください。
＊個人情報が含まれた資料の取り扱いにご注意下さい。
＊外部の方を含めた会議です。言葉の表現についても、十分にご配慮をお願いします。

３　会議終了後について

（１）個別の教育支援計画Ⅰ、Ⅱの更新について
※会議後、２週間以内に個別の教育支援計画の更新を行ってください。
【個別の教育支援計画Ⅰ】
①「連携の記録・履歴」欄に「サービス担当者会議（RO.O.O）」と記載する。
②右上の日付けを更新する。

【個別の教育支援計画Ⅱ】
「福祉・医療・労働等」欄に連携して取り組む内容の確認ができた場合更新する。
①「福祉・医療・労働等」「機関名担当者名（年月日）」欄に記載する。
②右上の日付けを更新する。

（２）連携の記録
Disc1→児童生徒用個人データ→データ作成・保存フォルダ→個別の教育支援計画の中の各児童生徒のフォルダ内にある連携の記録フォルダ「校外機関との会議・打合せ・見学」に概要を入れる。

（３）個別の教育支援計画Ⅰ、Ⅱの更新後について（個別の教育支援計画Ⅰのみ更新した場合は必要ありません）
①　学年主任→部主事にチェックをしてもらってください。
②　個別の教育支援計画Ⅰ、Ⅱを会議参加者人数分プリントアウトして、保護者へ配布してください。→保護者から、関係機関に個別の教育支援計画を配布してもらってください。

個別の教育支援計画活用の仕方

会議の中の学校の取組について伝える時間に、個別の教育支援計画の確認・更新を行います。

※会議の前に相談専門員の方に個別の教育支援計画の確認・更新を行う時間を取ってもらうように依頼してください。

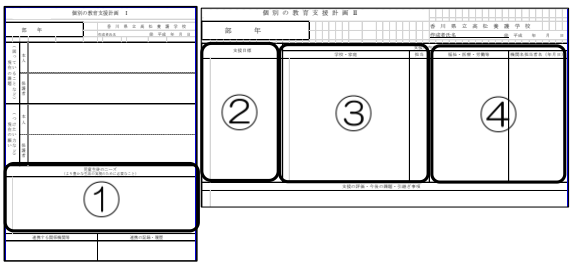
【サービス担当者会議での個別の教育支援計画の確認・更新の流れ】（例）
「個別の教育支援計画の確認をさせていただきます」

１．　支援計画Ⅰの児童生徒のニーズの説明（①）
「学校が考えている豊かな生活に向けての優先課題は（①の説明：A、B、C・・・）です。」

２．　支援計画Ⅱの支援目標及び学校と家庭での取組の説明（②、③）
「学校では、①の実現に向けて②の目標を設定し、保護者と協力して③に取り組んでいます。」
「Aの目標については、（③のAに対応する部分を説明）」
「Bの目標については、（③のBに対応する部分を説明）」
「Cの目標については、（③のCに対応する部分を説明）」・・・
「（必要に応じて）取組の進捗状況を説明します。」

３．　関係機関などでの取組の確認・協力依頼（継続する支援の確認も含む）（④）
□「これらの支援目標（②A、B、C・・・）に関連して、現在取り組まれていることはありますか？」
「連携して取り組んでいただけることはありますか？」「今後、できそうなことはありますか？」
□「これらの支援目標（②A、B、C・・・）に関連して、変更点はありますか？」
「新しく取り組まれていることはありますか？」

※支援目標に関連した内容で、関係機関に協力や役割分担してもらえる内容があれば④に記入します。



（図１１）サービス担当者会議参加者マニュアル（改訂後）

（４）個別の教育支援計画活用の実際

本校では、個別の教育支援計画を校内・校外の会議に持ち込み、校内・校外関係機関との連携ツールとして活用を図っている。関係者・関係機関が集まり、個別の教育支援計画をもとに、児童生徒の支援目標や支援内容について共通理解を図ったり、役割分担を行うための情報交換を行ったりしている。（図１２）は、「児童生徒の個別の教育支援計画の具体的な活用場面」を示している。本校の個別の教育支援計画Ⅱは、支援目標に対して、まず本人と保護者、担任で連携する取組を核に、寄宿舎や自立活動室など校内部門との連携、そして校外の関係機関との連携へと広げていくことができるように考え作られている（図１３）。それぞれの場面で個別の教育支援計画の活用を行い、会議等で決まった関係者の支援内容等を個別の教育支援計画に反映させ、随時更新を行うようにしている。

①保護者との連携による個別の教育支援計画の活用の状況　【事例１　保護者との連携】

児童生徒にとっても最も身近な支援者である保護者とは、前期末と年度末懇談会において個別の教育支援計画の進捗状況について説明を行ったり、家庭での状況について聞き取りを行ったりしている。また、本人や保護者のニーズの変更の確認を行い、話し合った結果、加筆修正等あれば更新を行う。本校では保護者が送迎を行っている家庭もあり、その時に話し合ったことを個別の教育支援計画に反映させるケースもある。

②学校関係者との連携による個別の教育支援計画の活用の状況

ア　学部学年での打合せ・ケース会議等

学校関係者による活用場面、「学部学年での打合せ・ケース会議等」では、年度初めに行われるケースが多いが、児童生徒に関わる教職員が集まり、支援目標や支援内容について共通理解を図ったり、役割分担の確認を行ったりしている。そうすることで、児童生徒に関わる教職員が行う支援内容の認識が明確になり、一貫した指導支援が可能になる。また、教科担当の教職員は、支援目標や内容に配慮した授業内容を考え実施を行っている。

イ　学級担任と自立活動室の打合せ

本校は肢体不自由を主な障害とする児童生徒のための特別支援学校であり、身体のケアや方法等の指導や助言を行う自立活動室が学級とは別に設けられ、専門の教職員がいる。「自立活動室の打合せ」では、年度初めに学級との打合せが行われており、そこで話し合われた結果を担任が個別の教育支援計画Ⅱに記載することになっている。また、打合せ以降、継続して自立活動室の教職員と担任が連携して、児童生徒の身体のケアや身体の指導等について協議を行い、協力して児童生徒の指導や支援の実施にあたっている。

ウ　学級担任と寄宿舎との連絡会　【事例２　寄宿舎との連絡会】【事例３　寄宿舎との連絡会】

住所が遠隔地や交通不便地のため、通学が困難な児童生徒のために本校では寄宿舎を設置している。「寄宿舎との連絡会」では、寄宿舎から通学している中学部、高等部の生徒について、寄宿舎指導員と担任との情報交換を年間３回行っている。連絡会には、担任が個別の教育支援計画を寄宿舎に持参し、寄宿舎と協力して取組む支援目標や支援内容等についての確認を行い、寄宿舎で

は、話し合われた内容を寄宿舎が作成している「特記事項記録」に記録し、担任と確認を行った支援内容の実施を行っている。さらに、学校では寄宿舎の支援目標や支援内容の情報を得ることで、学校での取組みに反映させている。

エ　学級担任と学校看護師との医療的ケア児童生徒の連絡会、学校看護師による学校関係者とのケース会議　【事例４　医療的ケア室との連携　サービス担当者会議】

本校では、学校看護師が医師の指導の下、経管栄養(チューブやカテーテルなどを使い、胃や腸に必要な栄養を直接注入すること)、たんの吸引（自身の力で痰や唾液などの分泌物を吐きだすことが困難な児童生徒対し口腔内、のど、鼻腔、気管などに溜まっている分泌物を、吸引器などを利用して体外に出すこと）等の医療的ケアを行っている。医療的ケアを必要とする児童生徒が１９名在籍する。学校看護師と担任の間で情報交換等を行う医療的ケア児童生徒の連絡会、ケース会議が、今年度より行われるようになった。年度初めに行われる医療的ケア児童生徒の連絡会では、医療的ケア児童生徒の個別の教育支援計画について必要に応じて担任より説明を行い、児童生徒の教育的ニーズ、支援目標、支援内容の情報共有を行った。年間を通して開催されているケース会議では、担任と学校看護師が協議する中で、学校看護師が担う支援内容が決まれば個別の教育支援計画に反映させる試みを始めている。さらに、今年度より福祉サービス事業所を利用している医療的ケア児童生徒のサービス担当者会議に、医療的ケア児等コーディネーター、担当看護師が参加するようになった。個別の教育支援計画の学校看護師の担当部分について関係機関と情報を共有し新たな役割が決まれば個別の教育支援計画に追記するようにしている。

③関係機関との連携による個別の教育支援計画の活用の状況

ア　福祉機関との連携　【事例５　サービス担当者会議】【事例６　サービス担当者会議】【事例７　サービス担当者会議】【事例８　サービス担当者会議】

本校に在籍する児童生徒の約８割が放課後等デイサービスなどの福祉サービス事業所を利用している。家庭や学校と並んで、児童生徒の生活や活動の場所の一つである福祉サービス事業所との連携を図ることは児童生徒の今の生活の質を向上させるために重要であると考え、児童生徒の相談支援事業所が主催するサービス担当者会議に学校も参加している。そこで連携を推進するツールとして、個別の教育支援計画の活用を行っている。サービス担当者会議は、障害福祉サービス等の利用計画書（指定相談支援事業者が、障害福祉サービス等の利用を希望する障害者の総合的な援助方針や解決すべき課題を踏まえ、適切なサービスの組み合わせ等について検討し、作成するもので、サービス利用者を支援するための支援計画）の説明、福祉支援サービス給付に必要な手続き等が行われる。児童生徒の利用している福祉サービス事業所の担当者が一同に集まり、相談支援事業所が計画した支援目標や役割分担を確認・協議する会議である。そこに学校が参加することで、家庭と学校、放課後等デイサービス事業所において、お互いの状況や課題などの情報交換を行うことが可能となっている。本校では、サービス担当者会議に、学校が作成した個別の教育支援計画を持ち込み、支援目標や内容を説明し、福祉サービス事業所の担当者と情報交換を行い、支援について学校と共通して取組む内容、役割分担して取組む内容の確認を行っている。福祉サービス事業所の

担当者の取組みが決まれば、福祉サービス事業所において学校と連携した取組みが行われる。会議後、担任が個別の教育支援計画Ⅱに内容を反映させ更新を行い、更新した個別の教育支援計画は保護者を通じて福祉サービス事業所の担当者へ配布を行っている。さらに、学校では福祉サービス事業所での児童生徒の生活の実態、支援目標や支援内容の情報を得ることで、学校での取組みに反映させている。

福祉サービス事業所を進路先に希望する高等部２・３年生は、６月と１１月に現場実習を行う。現場実習先において、個別の教育支援計画の説明を行うよう周知を行っている。高等部３年生の５月には、福祉サービス事業所、学級担任、進路指導主事が集まり、進路についての話し合いを行う進路行政相談会が開催される。進路行政相談会において、個別の教育支援計画の説明を行うようにしている。さらに、学校で行ってきた個別の教育支援計画の支援目標や支援内容（手立て）について、卒業後の生活に沿うように、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱ(移行支援用)（図５）（図６）の作成を行う。本校の個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱ(移行支援用)は、在学中に作成した個別の教育支援計画の様式とほぼ同様であり、在学中の支援内容に大きな変更を加えることなく作成できるようにしている。個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱ(移行支援用)をもとに、高等部３年生２月に行われる移行支援会議で支援内容や支援を行う担当者の検討を学校、保護者、進路先との間で行う。話し合った結果を、個別の教育支援計画（移行支援用)に反映させ、保護者、進路先に配布を行っている。

イ　医療機関との連携

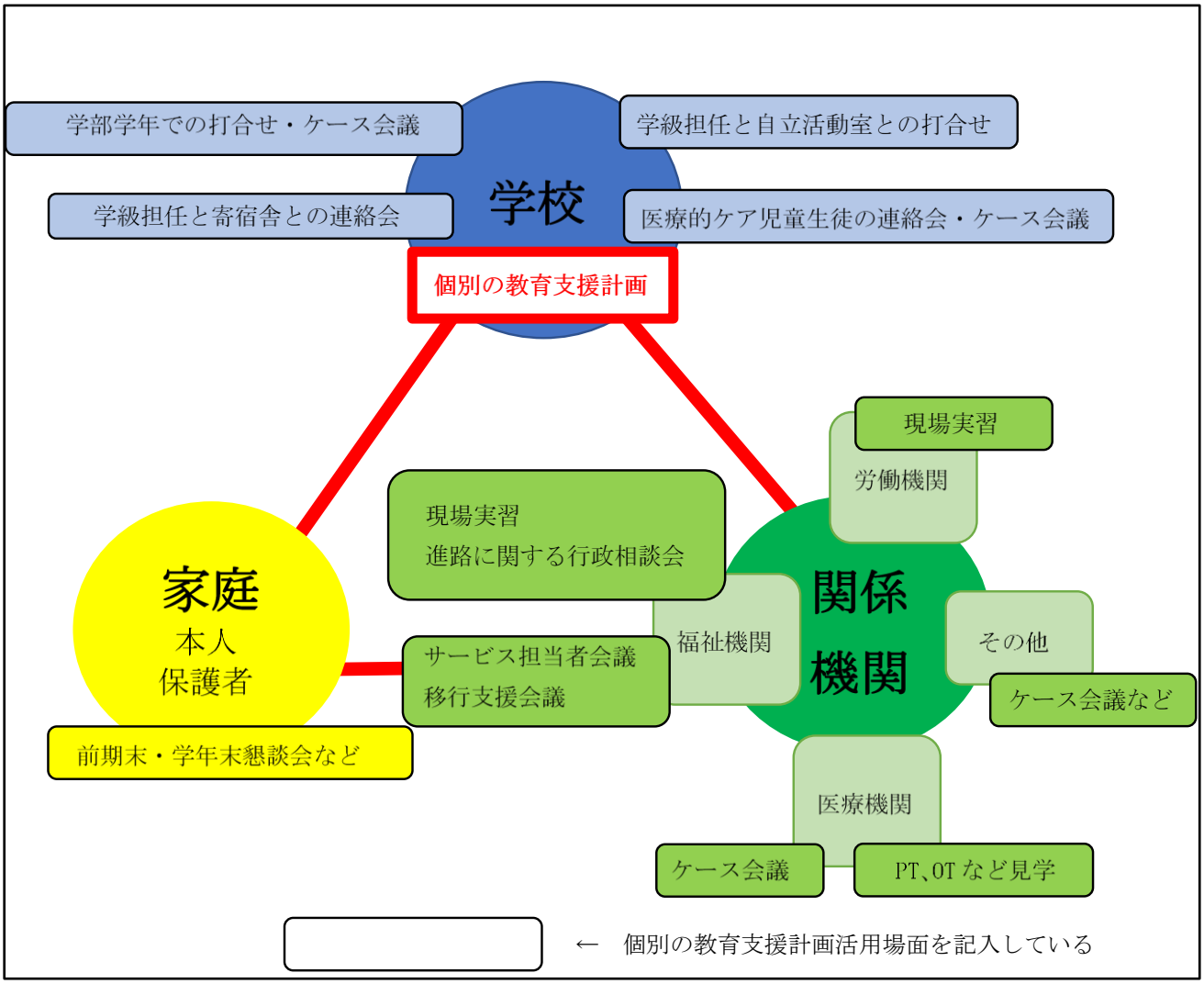
本校は、医療的ケアが必要な児童生徒だけではなく骨格の変形、てんかん発作、進行性の障害、障害から起こる疾病等、何らかの医療的対応が必要な児童生徒が大半を占めている。特に医療分野との関わりが多いのが、医師の指示のもと、障害等による運動機能が低下した状態にある人々に対し、運動機能の維持・改善を目的に行われる理学療法、作業に焦点を当てた治療・指導・援助を行う作業療法、視機能回復のための矯正訓練や検査を行う視能訓練である。担任が児童生徒の受けている理学療法、作業療法、視能訓練の見学へ行き、ＰＴ(理学療法士)、ＯＴ(作業療法士)、ＯＲＴ(視能訓練士)と学校での様子について情報交換を行い、個別の教育支援計画について共通理解を図ったり、支援内容について役割分担を行ったりする場合がある。その際、医療担当者の取組みが決まれば見学後、担任が個別の教育支援計画Ⅱに内容を反映させ更新を行い、更新した個別の教育支援計画は、保護者を通じて医療担当者へ配布を行っている。

ウ　労働機関との連携

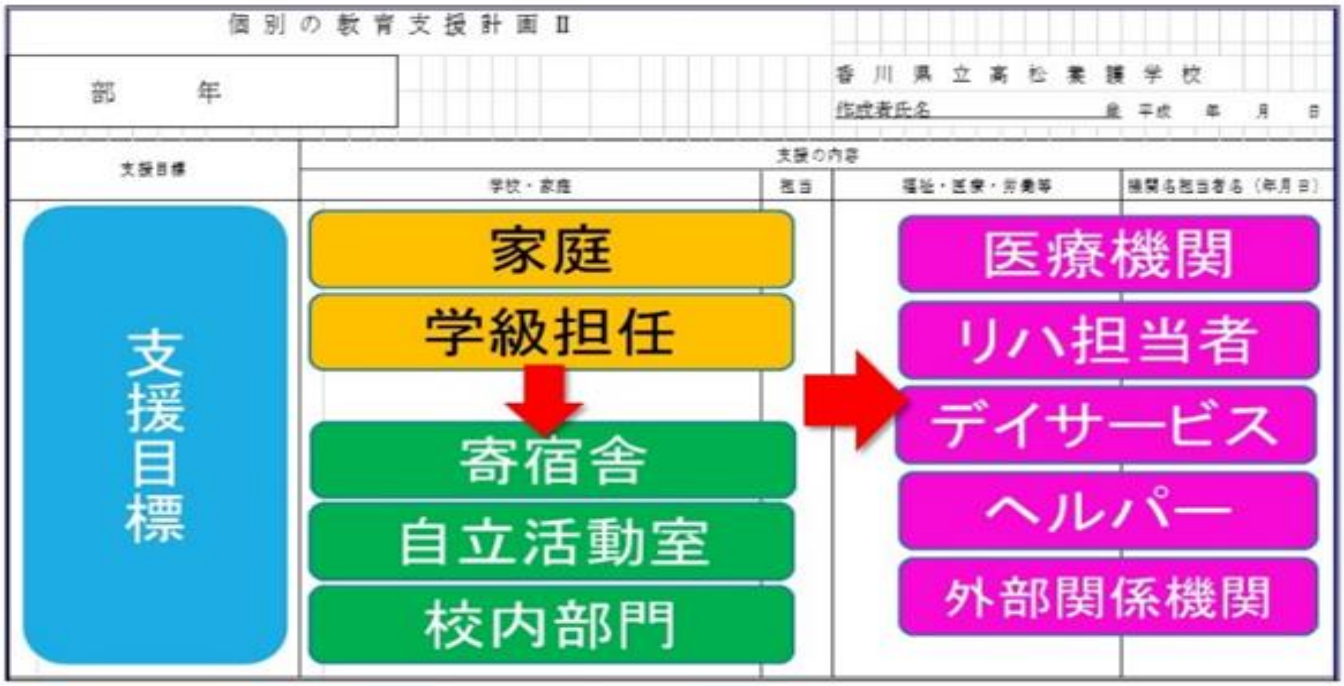
就職を希望する高等部２・３年生は、６月と１１月に現場実習を行う。現場実習先において、個別の教育支援計画の説明を行うよう周知を行っている。また３年生の５月に行われる進路行政相談会でも個別の教育支援計画の説明を行うよう周知している。

エ　その他

家庭での問題から本人が適切な支援を必要としている場合など、本人を取り巻く複数の関係機関が集まり支援方針や役割分担を決めるケース会議を行う場合がある。必要に応じて個別の教育支援計画の説明を行い、適切な支援に結びつくよう協議を行っている。



（図１２）児童生徒の個別の教育支援計画の具体的な活用場面



（図１３）本校の連携の考え方を現した支援計画Ⅱの様式

３．成果

（１）個別の教育支援計画の活用実践事例

本校の個別の教育支援計画活用場面の中から個別の教育支援計画を有効に活用させている事例の抽出を行った。事例に関与する学校関係者(17 名)、保護者(6 名)、関係機関(9 名)を対象に、個別の教育支援計画の内容について情報共有を行ったことで、児童生徒の支援や生活の質の改善につながったエピソード、個別の教育支援計画活用についての所感、課題についてアンケート調査(自由記述)を実施した。各事例には、アンケート結果(自由記述)の記載を行っている。

①保護者との連携による個別の教育支援計画の活用

【事例１　保護者との連携】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１４
アンケート調査対象者　　学級担任、保護者

②学校関係者との連携による個別の教育支援計画の活用

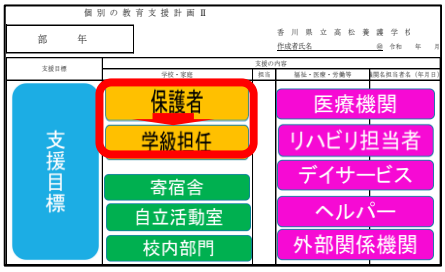
【事例２　寄宿舎との連絡会】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１７
アンケート調査対象者　　学級担任、寄宿舎指導員
【事例３　寄宿舎との連絡会】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２０
アンケート調査対象者　　学級担任、寄宿舎指導員

③学校関係者との連携、関係機関との連携による個別の教育支援計画の活用

【事例４　医療的ケア室との連携とサービス担当者会議】・・・・・・・・・・・・・Ｐ２３
アンケート調査対象者　　学校関係者(学級担任、学校看護師、自立活動室職員)、保護者、福祉サービス事業所

④関係機関との連携による個別の教育支援計画の活用

【事例５　サービス担当者会議】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２８
アンケート調査対象者　　学級担任、保護者、福祉サービス事業所
【事例６　サービス担当者会議】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３３
アンケート調査対象者　　学級担任、保護者、福祉サービス事業所
【事例７　移行支援会議】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３７
アンケート調査対象者　　学校関係者(学級担任、自立活動室職員)、保護者、福祉サービス事業所
【事例８　移行支援会議】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４１
アンケート調査対象者　　学校関係者(学級担任、自立活動室職員)、保護者、福祉サービス事業所



①保護者との連携による個別の教育支援計画の活用

【事例１　保護者との連携】

小学部２年生　男子

個別の教育支援計画　Ⅰ

現在の課題（困っていることなど）	本人	・歩く距離が長くなると疲れてしまう。 ・弟と遊んでいると、おもちゃを取って返してくれないことがある。
	保護者	・騒いだらいけないときに、わざと大きな声を出す。 ・要求が叶うまで言い続け、待つことが難しいときがある。 ・言葉遣いが乱暴になるときがある。
現在の願い（つけたい力など）	本人	・友達のところへ遊びに行くなど、自分で好きなところへ行きたい。 ・大好きな物に関する本などを、自分で読めるようになりたい。
	保護者	・歩行能力の維持、向上に努めるとともに、安全に車椅子で移動してほしい。 ・身の回りのことを自分でできるようになってほしい。 ・良好な人間関係を形成して、社会性を伸ばしてほしい。 ・家族以外の女性との適切な距離感を徐々に知ってほしい。 ・文字が書けるようになってほしい。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　筋力や体力をつけて、いろいろな手段で移動することができるようになる。
B　自分でできる身の回りのことを増やす。
C　見通しをもって過ごすことができるようになる。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・かがわ総合リハビリテーション病院ＰＴ（Ａ） ・かがわ総合リハビリテーション病院ＯＴ（Ｂ） ・かがわ総合リハビリテーション病院ＯＲＴ（ＡＢＣ） ・○○児童デイサービス（ＡＢＣ） ・△△児童デイサービス（ＢＣ） ・自立活動室（ＡＢ） ・○○親の会（Ａ） ・○○の会（Ａ） ・○○教室（Ａ）	

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

本人や保護者の現在の課題（困っていること）、現在の願い（つけたい力）を保護者から担任が聞き取った内容。

本人や保護者のニーズを受け「今より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）の内容。

保護者へ６月の個別の教育支援計画配布時にⅠ・Ⅱの説明を行い、支援内容の確認を行った。その後の前期末懇談会では、学校と家庭それぞれの個別の教育支援計画の進捗状況、見直し等の話し合いを行った。

個別の教育支援計画　Ⅱ

支援目標	支援の内容：学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
A　全身の筋力や体力をつけ、歩いて移動することができる。	A 歩行や手指操作を行いやすくするために、足首や股関節など体をゆるめる機会を設ける。 A ＰＣウォーカーでの移動を継続するとともに、杖歩行や後方からの腰支持でしっかりと踏みしめて歩く機会も設ける。	担任○○ 担任△△ □□（自） 保護者	A 公園に行くときは、なるべく歩くようにする。	児童デイサービス：○○さん （Ｒ１.５.30）
A　車椅子で安全に移動することができる。	A 校内で移動する機会を定期的に設けるとともに、校外に出かける際にも自分で移動する経験ができるようにする。 A 自分で乗降する練習をするとともに、移動の際に気を付けることを毎回確認したり、交通ルールについて学ぶ機会を設けたりする。	担任○○ 担任△△ 保護者		
B　自分の荷物や衣服を片付けたり、準備をしたりすることができる。	B 衣服については、畳む、ハンガーにかける、ボタンの操作をするなどの練習をする機会を設ける。 B 荷物については、かごやトレイなどを使用し、片付ける場所を決めて行う。	担任○○ 保護者		
C　読むことのできる文字や数字を増やし、見通しをもつことができる。	C 国語や算数などの授業だけでなく、日常生活のなかで遊びを通して平仮名や片仮名、数字に親しむ機会を設ける。 C 予定や時刻などが分かるように、カレンダーや時計の見方を学習する機会を設ける。	担任○○ 保護者		

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

個別の教育支援計画Ⅱ

学校と家庭が連携した進捗状況

＜　支援目標Ａ　全身の筋力や体力をつけ、歩いて移動することができる　＞

■　学級担任

・登下校や教室移動で、毎日 PC ウオーカーで歩く機会を設けたことで、楽に歩けるようになり、歩く距離も長くなった。昨年度は、保護者と一緒に教室まで歩いてきていたが、今年度は、教師と一緒に継続して歩くことができている。

■　保護者

・家の中では、四つ這いでの移動が多かったが、学校で PC ウオーカーなど歩く機会を設けてくれているため、家でつかまり立ちやつかまり歩行が増えている。

＜　支援目標Ａ　車椅子で安全に移動することができる　＞

■　学級担任

・車いすで校内を移動する時に、車いすの乗降や通行のルールなどの学習を行っている。校外に車いすで出かけた時にも同様の指導を行っている。指導の段階である。

■　保護者

・学校で交通のルールについての学習をお願いした。家庭では、買い物に出かけた時に、ルールを教えるようにしている。最初は車いすに乗ることが危険だと感じていたが最近では通路にお客さんがいて通れない時に「すみません」と言えるようになった。

＜　支援目標Ｂ　自分の荷物や衣服を片付けたり、準備をしたりすることができる　＞

■　学級担任

・登下校時の荷物の片付け、給食の準備や片付けを自分でできるようになった。自分では難しい場合、教師に依頼することができるようになった。衣服は、ハンガーにかけたり補助具を使ったりしてエプロンをたたむことができるようになっている。

■　保護者

・家庭でも取組めるよう、先生が少しずつ無理のない課題を設けてくれ、シールをもらえることを励みに、朝の支度で一人でもできることが増えた。

＜　支援目標Ｃ　読むことのできる文字や数字を増やし、見通しをもつことができる　＞

■　学級担任

・興味をもって取組めそうな題材で授業を行うことで、平仮名は全て読めるようになり、100 までの数唱や数字と数詞の一致などできるようになった。片仮名、カレンダー、時計の学習に取組んでいる。

■　保護者

・字が読めるようになると思っていなかったが先生が工夫してくださったおかげで字が読めるようになった。カレンダーなど家庭でも活用することで以前ほど不安がらずに落ち着いて生活ができるようになった。

学校と家庭との連携について

<個別の教育支援計画を活用した連携についての所感>

■　学級担任

・家庭において自分でできることを増やすために、保護者と相談し「靴下を自分で履く」「歯磨きをする」などの課題を決め、課題が達成できれば本児の好きなシールがもらえるようにしている。シールをもらえることを励みに、保護者が手伝おうとすると、自分で行うと主張し、自分で取組む意識が育ってきた。

・保護者のニーズとして、身体のケアをしながら学習ができることや、将来に向けて身につけておきたい内容など、たくさんあった。そのため、児童の発達段階や保護者のニーズの優先度の高いものを考慮し、個別の教育支援計画Ⅱを立てた。登校時や連絡帳で学校の様子を伝えたり、家庭での困り感を把握したりすることで連携を図っている。

・サービス担当者会議では、歩く機会を学校で設けたいといった話を行うと、放課後デイサービスでも歩く機会を取り入れてくれるようになり、連携した取組みができるようになった。

・校外機関の PT との連携を行い、PT から得た情報を校内で共有し取組むようになった。

■　保護者

・将来の豊かな生活に向けて何が必要かと考え、朝の支度を自分でできるといったことに気がついた。家庭と学校との間で、支度についてそれぞれの場でできることの情報共有を行うことで家庭での課題が分かり、取組むようになった。取組みについては、連絡帳や送迎時に口頭で伝えることで、進捗状況の確認を行った。子どもが困った時の言葉かけを教えてもらい、一人でも上手にできることが増えたと感じている。やらされたといった感じではなく、自ら取組むものといったことが子どもの中で理解されたのが、何よりよかったと感じている。

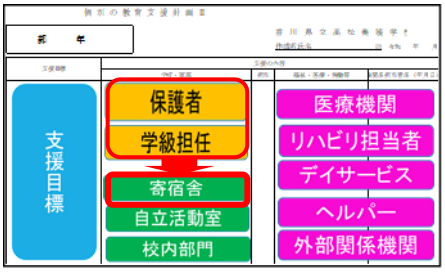
・個別の教育支援計画を基に学校と家庭が連携する取組みは、普段の生活や些細なことでも先生に伝えやすく、家庭での困り感などを改めて考えるきっかけになった。孤立しがちで、誰に相談したらよいのか分からないなど、漠然とした悩みを打ち明け、それを書面にすることで親としては安心感をもつことができる。

・サービス担当者会議では、放課後デイサービスが歩く機会や「順番を守る」など社会性を身につける内容について取り入れてくれるようになった。

・校外機関の PT では、PC ウオーカーや杖などのサイズ調整や杖の学校への導入について相談を行っている。

②学校関係者との連携による個別の教育支援計画の活用

【事例２　寄宿舎との連絡会】



中学部２年生　女子

個別の教育支援計画　Ⅰ		
現在の課題（困っていることなど）	本人	・言葉で意思表示することや、自分から他の人に働きかけることが難しい。 ・背中や股関節などがかたくなっていて、動きにくい。 ・水分の嚥下が難しい。食物をそしゃくすることが難しい。
	保護者	・便が出にくいことが心配。
現在の願い（つけたい力など）	本人	・自分の意思を伝えたい。 ・体が楽な状態で過ごしたい。 ・しっかり飲んだり食べたりできるようになりたい。
	保護者	・少しでも歩行ができるようになってほしい。
児童生徒のニーズ（より豊かな生活の実現のために必要なこと）		
A	筋緊張を軽減し、より適切な体の動かし方を身に付ける。それによって、摂食機能や排便機能、移動能力などを高めることができる。	
B	水分や食べ物の摂取が適切にできる。	
C	自分の意思をより的確に伝えることができ、自分から他の人に働きかけることができる。	

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・自立活動室（ＡＢＣ） ・寄宿舎（ＡＢＣ） ・かかわりハビリテーションセンター（Ａ） ・学校歯科医（Ｂ）	・自立活動室との情報交換会（H31.4.15） ・PT見学（R1.7.16） ・整形外科診(R1.11.7) ・○○Ｄｒ　による摂食指導(R2.2.17) ・寄宿舎との連絡会(R1.6.5,R1.10.11,R2.3.6)

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

本人や保護者の現在の課題（困っていること）、現在の願い（つけたい力）を１年生担任が学年末懇談会で聞き取り、２年生の４月に改めて担任から変更がないかの確認で決定した内容。

本人や保護者のニーズを受け「今より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）の内容。

寄宿舎連絡会では、寄宿舎担当指導員と担任が、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱをもとに話し合いを行った。

個 別 の 教 育 支 援 計 画 Ⅱ

支援目標	支援の内容：学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
A　全身の筋緊張を軽減し、摂食機能、排便機能、移動能力を高めることができる。	A 体に関する取り組みの時間をできるだけ毎日設ける。必要に応じて便秘マッサージなどにも取り組む。	担任○○ 副担△△ □□(自) ◇◇(舎)		
B　水分や食べ物の摂取が適切にできる。	B 上唇で食べ物を取り込み、あごを開閉させずに舌で押しつぶして食べることができるように援助する。 上唇を水面に付けて水分を吸い、あごを開閉させずに飲み込むことができるように援助する。	担任○○ 副担△△ □□(自) ◇◇(舎)		
C　自分の意思をより的確に伝えることができ、自分から他の人に働きかけることができる。	C 言葉の理解の幅を広げる学習に取り組む。自発性を引き出すために、教室配置を工夫し、電動車いすなどの利用に取り組む。また、身振りや声といった現在使用しているコミュニケーション手段に加え、iPadなどの支援機器を使うコミュニケーションの学習に取り組み、多様な手段を利用できるようにする。	担任○○ 副担△△ □□(自) ◇◇(舎)		
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項				

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

寄宿舎との連絡会後の変容

＜　支援目標Ａ　全身の筋緊張を軽減し、摂食機能、排便機能、移動能力を高めることができる　＞

■　寄宿舎指導員

・学級での取組みの情報や特設自立活動の授業見学から、寄宿舎生活の中で車いすから降りて正座やあぐら座位の姿勢をとる時間を設けたことで、筋緊張の軽減につながった。

・寝返りをする時間を設けたり、便秘マッサージを行ったりすることで、自力の排便が見られるようになった。

＜　支援目標Ｂ　水分や食べ物の摂取が適切にできる　＞

■　寄宿舎指導員

・水分の摂取が上手くいっていなかったが、学校と同じ方法で支援するようにしたところ、上手く飲めるようになった。

・水分摂取に関して、学校で行っている給食時や歯科医による摂食指導の見学をして、支援方法を寄宿舎指導員で共有することができた。

・学級担任の情報からさらに自立活動室と連携することで、口のマッサージを教えてもらい、口周りの緊張の軽減につながった。

＜　支援目標Ｃ　自分の意思をより的確に伝えることができ、自分から他の人に働きかけることができる　＞

■　学級担任

・自発的なコミュニケーションを増やすことが、本生徒の「豊かな生活」につながるといった教育的ニーズを念頭に寄宿舎との連携を図ってきた。「学校で取り組んでいることを寄宿舎の先生に伝えよう」といった宿題に毎日寄宿舎で取組むことにより、自発的なコミュニケーションの力が確実についた。また、寄宿舎と学校で、取組みについて、こまめに伝えあうことで、年度当初と比べて、飛躍的に自発的なコミュニケーションが増えた。

・中学部会で、自発的なコミュニケーションを増やすために寄宿舎と連携して取組んでいることを周知し、学部においても自発的なコミュニケーションを増やすといった支援に配慮した関わりについての理解を求めた。

■　寄宿舎指導員

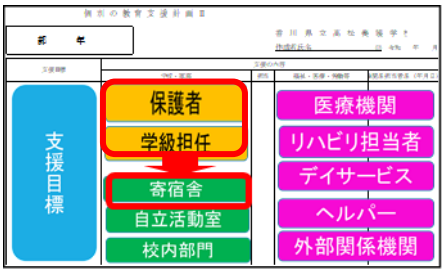
・学校で取組んでいる DropTalk を用いた宿題に毎日寄宿舎指導員と取組むようになった。宿題の答えのやり取りだけでなく、会話が広がり授業で行ったことを伝えたい、聞いてほしいといった自発的なコミュニケーションにつながっている。

・日課や当番活動に取組む中で、活動が終了したら声に出して伝えるようにした。終了したことを伝えるだけでなく、用事がある時にも「先生」とはっきり呼ぶようになった。

<寄宿舎連絡会で個別の教育支援計画を活用した連携についての保護者所感>

・学校と寄宿舎が、共通理解をして支援していることが伝わり、学校、寄宿舎共に信頼をしている。
・学校生活、寄宿舎生活を豊かに送ることができており、家庭においても以前より積極的に iPad の使用などを行っている。

【事例３　寄宿舎との連絡会】



高等部１年生　女子

個別の教育支援計画　Ⅰ

現在の課題（困っていることなど）	本人	・腕と肩こりがひどい。 ・疲れやすい。 ・忘れ物をすることがある。
	保護者	・疲れやすく、学習意欲や集中力が続かない。 ・空間認知が弱い。 ・みんなと一緒に行動することが少なかった。 ・気温が低くなると、手足が冷たくなって、下半身の感覚が鈍くなる。
現在の願い（つけたい力など）	本人	・自転車に乗れるようになりたい。 ・右腕の力をつけたい。 ・将来一人暮らしがしたい。 ・絵がうまくなりたい。
	保護者	・興味があるものをみつけてほしい。 ・コミュニケーションの力をつけてほしい。 ・生きる力、生活力をつけてほしい。 ・将来就職できるように勉強してほしい。 ・いろいろな人とのかかわりを広げてほしい。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　身体の自己管理をすることができる。
B　自分でスケジュール管理をすることができる。
C　卒業後の自分をイメージできるように、就職先について体験的に学習する。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・○○整形外科（A） ・自立活動室（A） ・進路指導部（C） ・寄宿舎（AB）	・自立活動室との打ち合わせ会（R1.5.13） ・寄宿舎連絡会（R1.6.3）(R1.10.15)(R2.3.2)

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

本人や保護者の現在の課題（困っていること）、現在の願い（つけたい力）を本人、保護者から高等部１年生担任が４月に聞き取った内容。

本人や保護者のニーズを受け「今より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）の内容。

寄宿舎連絡会では、寄宿舎担当指導員と担任が、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱをもとに話し合いを行った。

個 別 の 教 育 支 援 計 画 Ⅱ

支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	関係機関担当者名（年月日）
A　身体の自己管理をすることができる。	A　バランス感覚を養う運動や体をほぐすストレッチなど自分でできる方法をカードにして、自立活動や寄宿舎で取り組めるようにする。身体の負担がかからないよう配慮しながら、適度な運動量を確保する。 疲れたら、自分で休養をとるように促す。	担任○○ 副担△△ ◇◇(自) □□(舎)	リハビリでも自転車のペダル踏みを行う。	○○整形外科　○○先生 (H31.1.10)
B　自分でメモや連絡帳などを使って、スケジュール管理をすることができる。	B　朝、一日の予定を確認し、大事なことなどをホワイトボードに書いておく。必要なことは忘れないように、自分で連絡帳などにメモをとるように促す。 連絡帳に各教科の宿題や持ち物、予定などの枠を設ける。各教科の宿題や持ってくるものなど、忘れないようにその都度メモするように習慣づける。また、連絡事項や準備物等、自分でメモをとり、保護者に伝えるように習慣づける。	担任○○ 副担△△ ◇◇(自) □□(舎)		
C　卒業後の自分をイメージできるように、就職先について体験的に学習する。	C　「総合的な探究の時間」の調べ学習や校内実習、大学の体験学習で、将来のことを学ぶ機会を設けるとともに、自分で興味のある職業や学習分野について図書室や進路指導室、インターネットを活用して調べるよう促す。	担任○○ 副担△△ □□(自)		

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

寄宿舎との連絡会後の変容

＜　支援目標Ａ　身体の自己管理をすることができる　＞

■　学級担任

・「身体の自己管理をする」といった支援目標に対し、特設自立活動以外の時間にストレッチ表を用いてストレッチする時間を確保することが学級では難しく、寄宿舎で毎日時間をとって取組んでもらえるようになった。そうすることで、身体の可動域が広がり、本人の身体の調子が良くなった。

・学校と寄宿舎で連携して行ったことが、家庭でもできるようになった。

■　寄宿舎指導員

・「身体の自己管理をする」といった支援目標に対し、学校で取組んでいるバランス感覚を養う運動や身体をほぐす運動を、ストレッチ表を見ながら入浴前に行うことを習慣化することで、身体の調子が良くなったと本人が話をしている。

＜　支援目標Ｂ　自分でメモや連絡帳などを使って、スケジュール管理をすることができる　＞

■　学級担任

・スケジュール帳に自分から予定を書き込むことができるようになった。忘れ物をなくすための付箋などを使って、自分で宿題や持ち物をすぐにメモすることも定着してきた。忘れ物は少なくなってきており、手帳にメモをする習慣がついてきた。

・忘れ物について、手帳や付箋を使ってメモを取ることを寄宿舎だけでなく、さらに教科担当の教職員にも伝えることで、各教科でも同じように取組み、宿題の忘れ物が減った。

■　寄宿舎指導員

・寄宿舎でも忘れ物が多く、係の仕事も忘れてしまうことがあるため、一日の予定を書いたスケジュール帳やホワイトボードを確認したり、大事なことはメモを取ったりする習慣をつけるようにした。忘れ物は少なくなってきており、手帳にメモをする習慣がついてきた。

＜　支援目標Ｃ　卒業後の自分をイメージできるように、就職先について体験的に学習する　＞

■　学級担任

・寄宿舎と一緒に取組み、自転車に乗ることができるようになったり、週一回の掃除、月一回の調理を行うことで、できることが増えたりした。

■　寄宿舎指導員

・寄宿舎でも卒業後に向け、掃除、洗濯、調理などに取組み、自分でできることが増えた。また、将来の通勤や疲れやすいといった体力の面から、自転車の練習に取組むようになった。

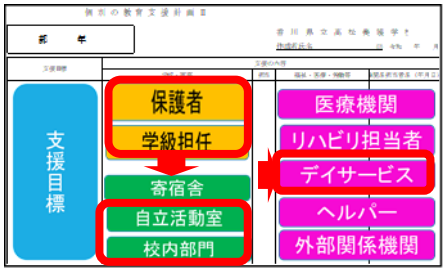
<寄宿舎連絡会で個別の教育支援計画を活用した連携についての保護者所感>

・家では、どうやって身体を動かす機会を設けたらよいのか分からなかったので、寄宿舎で体を動かす機会を設けてもらいありがたい。ストレッチ表を使い、家でも取組むようになった。

・卒業後に向けて、掃除、洗濯、調理などの身の回りのことができるようになっていること嬉しく思っている。卒業後に向けた資格取得などに前向きに取組めるようになった。

③学校関係者との連携、関係機関との連携による個別の教育支援計画の活用

【事例４　医療的ケア室との連携とサービス担当者会議】



小学部１年生　女子

個別の教育支援計画　Ⅰ		
（困っていることなど）現在の課題	本人	・着替えなど、1人でできたらいい。 ・身の回りのことを1人でしたいが、そうすると、姿勢が崩れる。
	保護者	・嫌なこと、分からないこと、できないことを伝えられない。 ・「やりなさい。」と言われたことを我慢してやってしまう。周囲の人が表情の変化でくみとるしかない。 ・水分を口に含むことを楽しむが、のどがゴロゴロするので吸引が必要になる。
（つけたい力など）現在の願い	本人	・学校に行く準備や片付けが自分でしたい。 ・いろんな勉強がしたい。
	保護者	・本人の思いを自分から伝えられるようになってほしい。 ・水分を自由に飲めるようになってほしい。 ・自分で決められるようになってほしい。（自由に…というのが苦手）

本人や保護者の現在の課題（困っていること）、現在の願い（つけたい力）を保護者から担任が聞き取った内容。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　体をゆるめたり休憩時間をとったりしながら、学習や活動に参加する。
B　いろいろな授業や学習方法を通して、基本的な知識を身につける。
C　自分の気持ちを相手に伝えることができる。

本人や保護者のニーズを受け「今より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）の内容。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・〇〇病院主治医 ・かがわ総合リハビリテーション病院ＰＴ ・かがわ総合リハビリテーション病院ＯＴ ・かがわ総合リハビリテーション病院ＯＲＴ ・自立活動室 ・医ケア室	・主治医との面談（R2.4.2） ・自立活動室との整形コラボ便（R2.4.8） ・医ケア室との連絡会（R2.4.5） ・自立活動室との打ち合わせ（R2.6.22） ・医ケア室とのケース会（R2.6.23） ・〇〇Dr.による摂食指導（R2.6.29） ・医ケア室とのケース会（R2.7.6） ・医ケア保護者会（R2.7.21）

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

保護者へ６月の個別の教育支援計画配布時にⅠ・Ⅱの説明を行い、支援内容の確認を行った。

「医ケア室とのケース会(R2.6.24)」で学校看護師と担任が、個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱをもとに話し合いを行った。その後、「医ケア室とのケース会(R2.7.6)」で学校看護師、担任、自立活動室が一同にして支援についての話し合いが行われた。

支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
A　安心して学校生活が送れるように、体調を調整しながら授業に参加することができる。	A 熱がこもらないよう、適宜車いすから降りて休憩したり、セラピーに座って授業を受けたりする時間を設ける。 A 特設自立活動や学級自立活動の時間などを利用して、学校生活をリラックスして過ごせるような姿勢作りや、体のゆるめを行うようにする。 A 体調を見ながら、たんを吸引したり、水分補給をしたりする。	担任〇〇 担任△△ 担任□□ ◇◇（自） 看護師 保護者		
B　授業で学習したことを、いろいろな方法で繰り返し学習することができる。	B 鉛筆で筆記をしたり、iPadを利用したりして、単語や言葉、数字の学習を行うようにする。 B 授業で習ったことを宿題として出し、家庭でも復習できるようにする。	担任〇〇 担任△△ 担任□□ ◇◇（自） 保護者		
C　自分の気持ちを伝えたり、いろいろな人と関わったりすることができる。	C 「楽しかった」、「ドキドキした」など、iPadのアプリケーション「Droptalk」を利用して二者択一で気持ちを伝えられるようにする。 C 学級の教師や友達を意識して、挨拶をしたり伝えたりすることから始め、一緒に勉強する他学年の教師や友達とも関わることができるように支援していく。	担任〇〇 担任△△ 担任□□ ◇◇（自）		
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項				
この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名				

個別の教育支援計画Ⅱ

学校と家庭、学校看護師、自立活動室が連携した進捗状況

<支援目標Ａ　安心して学校生活が送れるように、体調を調整しながら授業に参加することができる>

■　学級担任

・入学当初は、週１回程度、体調調整日を設けて身体を休ませたいといった保護者からの要望があったが、本児が学校に行きたいといったことから、現在は調整日を設けずに登校している。学校では、昼休みを中心に横になって休憩する時間を設けている。また、熱がこもらないように車いすから降りての授業に参加する場を設けている。

・痰の吸引回数は日によって違うが、自分で教えてくれるようになり、学校看護師にも慣れてきている。

■　学校看護師

・入学当初は、緊張していた様子であったが、次第に慣れてきて、本児から吸引のタイミングを教えてくれるようになり、学校看護師も吸引の癖を捉えてケアができるようになった。

・水分補給は保護者と相談し、季節に応じて時間、注入回数を変更して行っている。また、授業中、休憩時間を配慮し、状況に合わせて実施している。

・吸引、水分補給に関わらず、疑問に思ったことは、担任、保護者、他の学校看護師に相談し、情報の共有を行っている。

■　自立活動室

・学校生活におけるリラックスできる姿勢について、担任、学校看護師と情報の共有を行い、昼休みにはリラックスできる姿勢の確保ができている。

・車いすからセラピーマットに降りて行う授業での姿勢や補助具の安全確認について、自立活動室、担任、医療的ケア室の職員間でケース会議をもち、情報の共有を行った。

・特設自立活動の授業に身体の緩めや筋力アップのプログラム、座位の安定などに取組み、その状況について担任に伝えるようにしている。

■　保護者

・学校へ行くことが楽しくて、本人が無理してしまうことがあるので、家ではできるだけゆっくり過ごすようにしている。

学校関係者と家庭との連携について

<個別の教育支援計画を活用した連携についての所感>

■　学級担任

・学校看護師と個別の教育支援計画を共有したことで、医療的ケア室の看護師全員が支援目標や支援内容について意識して取組んでもらえるようになった。

・様々な視点をもった関係者が連携を行うことで、よりよい支援の方法を共有することができた。また、今後の支援の方向性なども一緒に検討することができた。

■　学校看護師

・本児は慣れない環境や突然の出来事に対してデリケートなところがあるので、関係者で対応策を共有することで、関係者が一貫した関わりや対応ができるようになった。

・学校看護師がいることで、様々な経験が中断されず授業に集中することができるようになっていると感じている。

・今まで、医療的ケア室での一面でしか本児を知ることはなかったが、多職種が連携することで、普段の学校生活や本児の興味関心、苦手なことなど多角的な方面から本児を知ることができた。担任、保護者との情報交換を密に行いながら、互いに協力して本児にこれからも関わっていきたい。

■　自立活動室

・昼休みに横になって休む時間を確保するなど、本児を中心として関係者が学校生活全般で配慮することや身につけたい力などの情報共有を行うことで、本児にとって安心安全に学校生活を送ることができている。

・年度初めに学級と個別の教育支援計画を介して、身体のケアや身体の指導等について協議を行った。その後も随時協議し、協力して本児の指導や支援の実施を行うことができている。

■　保護者

・子どもの小さな成長がたくさん見られるようになった。

・担任、学校看護師と子どもの状態について情報をもらうことができ、良い繋がりができていると感じている。

＜　連携の広がり　＞

サービス担当者会議

個別の教育支援計画　Ⅰ		
（困っていることなど）現在の課題	本人	・着替えなど、1人でできたらいい。 ・身の回りのことを1人でしたいが、そうすると、姿勢が崩れる。
	保護者	・嫌なこと、分からないこと、できないことを伝えられない。 ・「やりなさい。」と言われたことを我慢してやってしまう。周囲の人が表情の変化でくみとるしかない。 ・水分を口に含むことを楽しむが、のどがゴロゴロするので吸引が必要になる。
（つけたい力など）現在の願い	本人	・学校に行く準備や片付けが自分でしたい。 ・いろんな勉強がしたい。
	保護者	・本人の思いを自分から伝えられるようになってほしい。 ・水分を自由に飲めるようになってほしい。 ・自分で決められるようになってほしい。（自由に…というのが苦手）

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　体をゆるめたり休憩時間をとったりしながら、学習や活動に参加する。
B　いろいろな授業や学習方法を通して、基本的な知識を身につける。
C　自分の気持ちを相手に伝えることができる。
D　1人でできることを増やす。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・〇〇病院主治医 ・かがわ総合リハビリテーション病院ＰＴ ・かがわ総合リハビリテーション病院ＯＴ ・かがわ総合リハビリテーション病院ＯＲＴ ・自立活動室 ・医ケア室 ・児童デイサービス	・主治医との面談（R2.4.2） ・自立活動室との整形コラボ便（R2.4.8） ・医ケア室との連絡会（R2.4.5） ・自立活動室との打ち合わせ（R2.6.22） ・医ケア室とのケース会（R2.6.23） ・〇〇Dr.による摂食指導（R2.6.29） ・医ケア室とのケース会（R2.7.6） ・医ケア保護者会（R2.7.21） ・サービス担当者会議（R2.11.18）

サービス担当者会議が開催されるにあたり、相談支援専門員が保護者のニーズを確認したところ､｢身の回りのことができるようになってほしい｣といった願いが話された。サービス担当者会議では、相談支援専門員、児童が利用している放課後等デイサービス、保護者、担任、自立活動室、担当看護師、医療的ケア児等コーディネーター、部主事、特別支援教育コーディネーターが出席し､｢身の回りのことができるようになってほしい｣といった願いについて、また個別の教育支援計画の内容について話し合われた。そこで、話し合われた内容を、個別の教育支援計画Ⅰ、Ⅱに追記を行い、追記した(更新した)個別の教育支援計画を保護者、児童デイサービスに配布し、連携して支援を行うようになった。

サービス担当者会議後、追記した内容を赤字で示している。

支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
A　安心して学校生活が送れるように、体調を調整しながら授業に参加することができる。	A 熱がこもらないよう、適宜車いすから降りて休憩したり、セラピーに座って授業を受けたりする時間を設ける。 A 特設自立活動や学級自立活動の時間などを利用して、学校生活をリラックスして過ごせるような姿勢作りや、体のゆるめを行うようにする。 A 体調を見ながら、たんを吸引したり、水分補給をしたりする。	担任〇〇 担任△△ 担任□□ ◇◇(自) 看護師 保護者		
B　授業で学習したことを、いろいろな方法で繰り返し学習することができる。	B 鉛筆で筆記をしたり、iPadを利用したりして、単語や言葉、数字の学習を行うようにする。 B 授業で習ったことを宿題として出し、家庭でも復習できるようにする。	担任〇〇 担任△△ 担任□□ ◇◇(自) 保護者		
C　自分の気持ちを伝えたり、いろいろな人と関わったりすることができる。	C 「楽しかった」、「ドキドキした」など、iPadのアプリケーション「Droptalk」を利用して二者択一で気持ちを伝えられるようにする。 C 学級の教師や友達を意識して、挨拶をしたり伝えたりすることから始め、一緒に勉強する他学年の教師や友達とも関わることができるように支援していく。 C いろいろな看護師と関わることができるようにする。	担任〇〇 担任△△ 担任□□ ◇◇(自) 看護師	C コミュニケーションしやすい雰囲気をつくるようにする。	児童デイサービス 担当：〇〇さん （R2.11.18）
D　学校で必要な荷物を自分で準備することができる。	D 荷物のチェックリストを見ながら、必要なものを準備できるようにする。	担任〇〇 担任△△ 担任□□ 保護者	D 本人１人でできる活動場面を設定する。	児童デイサービス 担当：〇〇さん （R2.11.18）

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

学校と家庭、関係機関との連携について

<サービス担当者会議で個別の教育支援計画を活用した連携についての所感>

■　学級担任

・サービス担当者会議に参加することで、個別の教育支援計画をもとに学校での取組みや様子などを児童の関係機関に知ってもらうことができてよかった。また、保護者や関係機関と情報交換することにより、学校が立てた支援目標について、連携して行う支援内容が明確になった。

■　学校看護師

・たくさんの関係者が関わり支援の提供を行っていることに驚いた。誰がどのような役割分担を行い支援しているかが明確で分かりやすかった。また、それぞれの立場から専門的視点での意見を聞くことができ、関係機関と有意義な情報共有を図ることができた。関係機関と協働することで、支援目標が達成されていくことが実感できた。

■　自立活動室

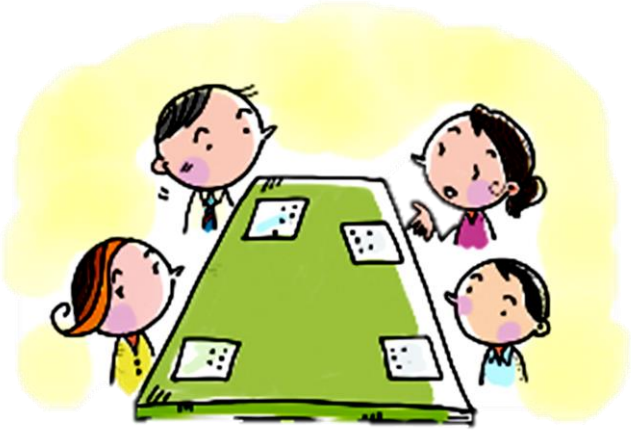
・関係機関での本児の活動の様子や配慮事項、方針を理解することができた。個別の教育支援計画に示されている支援目標について、関係機関が連携できることを共有できたことは、本児の今よりも豊かな生活に結びついていくと感じた。

■　保護者

・たくさんの関係者から子どもの様子を聞くことができ、家では見せない部分を多く知ることができ良かった。

■　福祉サービス事業所

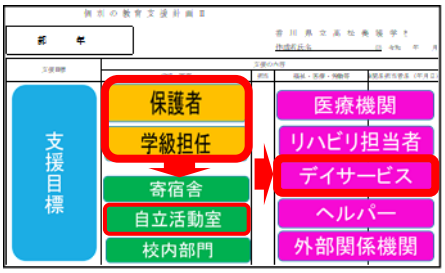
・たくさんの支援者の意見を聞くことができ、事業所以外の本児の様子がよく分かった。



④関係機関との連携による個別の教育支援計画の活用

【事例５　サービス担当者会議】

小学部４年生　女子



個別の教育支援計画　Ⅰ

現在の課題（困っていることなど）	本人	・自分でいろいろなことに取り組んでみたいが、なかなかできずにいる。 ・自分の気持ちをうまく伝えられない。 ・身体をスムーズに動かしたい。楽な姿勢で活動したり移動したりしたい。
	保護者	・自分の気持ちを伝えることが難しいときがあり、泣いたり騒いだりしてしまうことがある。 ・よだれが多い。
現在の願い（つけたい力など）	本人	・兄と同じようにいろいろなことがしたい。 ・自分でいろいろなところに移動できるようになりたい。 ・友達とたくさん話がしたい。 ・簡単な絵本を読めるようになりたい。
	保護者	・自分でできることを増やしてほしい。 ・相手や場面に応じて適切な言葉遣いで伝えることができるようになってほしい。 ・四つばいでの姿勢保持や歩行器などを利用し、身体をしっかり支えたり移動したりすることができるようになってほしい。 ・しっかり運動して体力を落とさないようにしてほしい。 ・社会に出て働けるように、読みや計算などの力を身に付けてほしい。 ・カレンダーやスケジュール帳を使い、予定の確認や管理ができるようになってほしい。 ・メリハリのある指導をしてほしい。 ・パソコン入力で自分の気持ちを伝えることができるようになってほしい。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　全身の筋力をつけ、粗大運動能力や微細運動能力を高めることができるようになる。
B　相手や場面に応じた言葉遣いを知り、適切に伝えることができるようになる。
C　教科学習に積極的に取り組み、様々な知識を身に付けることができるようになる。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・かがわ総合リハビリテーション病院ＰＴ、ＯＴ（Ａ） ・株式会社○○　○○工房（Ａ） ・児童デイサービス（ＡＢＣ） ・自立活動室（ＡＢ）	・サービス担当者会議（R1.5.10） ・自立活動室との情報交換会（R1.5.10） ・歩行器の調整（R1.12.25） ・○○Ｄｒによる摂食指導（R1.1.20）

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

本人や保護者の現在の課題（困っていること）、現在の願い（つけたい力）を保護者から担任が聞き取った内容。

本人や保護者のニーズを受け「今より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）の内容。

サービス担当者会議では、保護者、相談支援事業所、放課後等デイサービスが一同に集まり、担任から個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱの説明を行い、各担当者と連携を図ることを確認した。

個別の教育支援計画

支援目標	支援の内容：学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	関係機関名担当者名（年月日）
A　車いすの自走や電動車いす、ずりばい、歩行器での歩行など、いろいろな方法で移動する力をつけることができる。	A　学習や移動のときに、歩行器を使って歩いたり、車いすで自走したりする場面を設定する。 A　電動車いすに乗る時間を作り、操作の方法を理解して安全に気を付け、移動できるようにする。 A　背中を伸ばしたり、排せつ前後の脱ぎ着のときにつかまり立ちをしたりするなど、場面や状況に応じて自分で意識して姿勢を保持することができるように支援する。	担任○○ 担任△△ 担任□□	A　四つばいで移動できるようにする。 A　トイレの脱ぎ着では、児童がつかまり立ちをした状態で支援するようにする。 A　身体の成長や変化に合わせて、歩行器や短下肢装具を調整する。	児童デイサービス 担当：○○さん（R1.5.10） 株式会社○○ 担当：○○さん（R1.12.25）
A　よだれ防止のため、口周りの筋肉を使うような体操に取り組んだり、口を閉じてそしゃくをする意識を高めたりすることができる。	A　特設自立活動では、四つばいでの移動や肘ばいでの立位など、体幹を支える学習の時間を設ける。 A　口の体操に取り組む時間を設け、継続的に取り組む。食事の際には、口を閉じてかむことができるように、言葉かけをしたり、目の前に鏡を置いたりする。	担任○○ ◇◇（自 担任○○ ◇◇（自	A　身体の成長に合わせて、車いすを調整する。	○○工房（H29.10.18）
B　適切な言葉遣いや声の大きさについて知り、いろいろな人に伝えることができる。	B　丁寧な言葉遣いや場面に応じた声の大きさについて学習する。 B　指導者や友達などいろいろな人とやりとりする機会を設定することで、場面に応じた話し方を意識できるようにする。	担任○○ 担任△△	B　丁寧な言葉で伝えることができるように言葉かけを行い、年齢に合ったやりとりができるようにする。	児童デイサービス 担当：○○さん（R1.5.10）
C　平仮名で書かれた短い単語や、濁音や半濁音の平仮名を読んだりすることができる。数や量についての知識を身につけることができる。	C　興味をもって取り組むことができるような教材を準備する。 C　日常的に平仮名を読む場面を多く設定する。 C　宿題に取り組むことで、学習したことを復習できるようにする。	担任○○ 担任△△ 担任□□ 保護者	C　学校で学習した数字や文字を取り入れた活動を行い、褒められる経験を増やす。 C　１５～３０分間程度、学習の時間を設け、指導者と一緒に課題に取り組む。	児童デイサービス 担当：○○さん（R1.5.10）

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

サービス担当者会議での情報交換について

■　学級担任

・サービス担当者会議では、個別の教育支援計画を基に学校で取組んでいる支援目標、支援内容について説明を行った。さらに学校で取組んでいる内容について、福祉サービス事業所で同じように取組んでいる内容、新たに取組んでもらえる内容(個別の教育支援計画Ⅱ　　に示した内容)についての確認を行った。

・個別の教育支援計画以外に学校での学習状況を伝えたり、学校から放課後等デイサービスに行くことへの不安感をもっていたりすることについて共通理解を図ることができた。

サービス担当者会議後の状況

■　学級担任

・学校での学習状況を伝えることで、児童デイサービスでの個別課題の内容を本人にあったものに設定してもらうことができた。

・<u>スケジュール表</u>を使うことで、見通しをもち学校終了後、放課後等デイサービスへ行けるようになった。

児童デイサービスに行く日に、本児の好きなキャラクターのスタンプを押しておくことで、見通しをもてるようにしている。

<u>スケジュール表</u>

■　福祉サービス事業所

<支援目標Ａ　車いすの自走や電動車いす、ずりばい、歩行器での歩行など、いろいろな方法で移動する力をつけることができる ＞

・学校での身体に関する学習の情報をもらい、「トイレの移動、」「ドアを開ける」「電気のスイッチを入れる」など、デイサービスでも「日常生活」の生活動作につながるよう意識して活動してもらったり支援したりできるようになった。

・「学校で立つ、踏ん張る学習を頑張っているから背中が伸びてるね。しっかり立ってくれるから助かるわ。」と学校の身体の学習とデイサービスでの生活動作がつながるような声かけを行い、フィードバックしている。

・学校で歩行練習をしっかりと行っている情報をもらい、デイサービスでは、疲れている時は、身体を休めたり、リラックスしたりする活動を入れている。

<支援目標 Ｂ　適切な言葉遣いや声の大きさについて知り、いろいろな人に伝えることができる>

・友達とのやり取りを行う活動を取り入れるようになった。

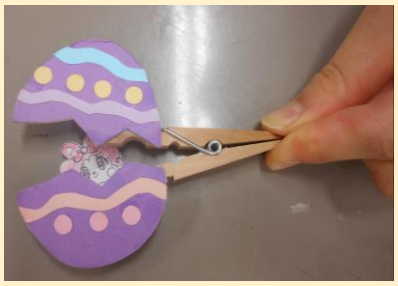
<支援目標 Ｃ　平仮名で書かれた短い単語や、濁音や半濁音の平仮名を読んだりすることができる。数や量についての知識を身につけることができる>

・学校で獲得したひらがなや数字を使っての遊びを取り入れるようになった。

・学習の時間を設け、職員と一緒に取組んでいる。

<その他>

・デイサービスに行くことを嫌がっていた時期に、**好きなキャラクターなどを使って学校でカレンダーの学習(スケジュール表)**を取り入れてもらったことで、本人の見通しや納得につながり、デイサービスへの通所の継続ができた。また、「昨日、今日、明日」の理解が深まり本人が「明日〇〇する」と言って予定を楽しみにする様子が多くなり、見通しをもち安心して過ごせるようになった。



洗濯バサミを上手につまむと子どもの好きなキャラクターが出てくる手作り教材

■　保護者

<支援目標Ｃ　平仮名で書かれた短い単語や、濁音や半濁音の平仮名を読んだりすることができる。数や量についての知識を身につけることができる>

・児童デイサービスで、洗濯ばさみを上手につまむと子どもの好きなキャラクターが出てくるといった手作りの教材を作り、つまむ課題を行ってくれた。そのおかげで上手に指が使えるようになった。

・ストローやボタンなど、苦手な課題を工夫して楽しみながら取組む支援をしてくれるようになった。ひらがなに興味をもった時には、かるたを取り入れてもらい、楽しみながら活動できた。

サービス担当者会議での連携について

<個別の教育支援計画を活用した連携についての所感>

■　学級担任

・サービス担当者会議の前に、保護者としっかり話し合いを行い個別の教育支援計画を作っていたので、説明をしやすかった。

・学校として目指している本人の目標を端的に説明することができた。

・学校として連携できることを考えることで、より具体的な支援につなげていけると思っている。

・成長とともに本人の身体や学習内容は変わっているので、支援目標や支援内容は毎年同じではない。年度初めに立てた支援目標や支援内容については、修正して最新の支援内容になる機会となっている。

■　福祉サービス事業所

・毎日子どもと関わっている学校の情報は豊富で、内容も深くとても参考になる。特に、食事場面での情報は、身体障害をもつ利用児には安全に関わる大切な情報なので、現状を理解することに役立っている。

・他の学校も是非、サービス担当者会議に参加してほしい。

・サービス担当者会議で支援内容と役割分担について確認でき、児童デイサービスのスタッフ間で情報共有を行うようになった。例えば、スタッフ間で話を行うことで、学校で獲得したひらがなや数字を使っての遊びや友達とのやり取りを行う活動を取り入れるようになった。

・自立活動室で作成した写真入りの「からだのケア」シートがとても参考になった。身体のケアについての情報がもらえ、とても助かっている。

<個別の教育支援計画を活用した連携についての所感>

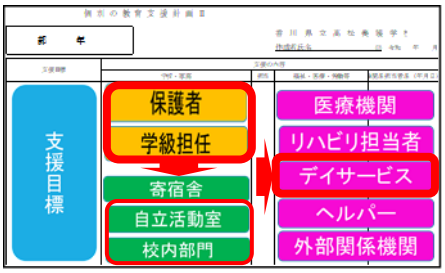
■　保護者

・学校、家庭、福祉事業所の連携は、子どもにとってプラスに伸びていると感じている。今以上に、情報共有の場が増えてほしい。

・会議で話し合いを行う中で、個別の教育支援計画を介し、子どものためにみんなが一緒にできる支援を考え、さらに今までの支援をより良いものに修正や追記をしてもらえるのは、とてもありがたく思っている。新たに修正や追記した「個別の教育支援計画」を関係機関に配布することで、再び関係機関が共通理解を行い支援に取組んでもらえることは、すばらしいと思う。

・子どもや親の願いを聞き入れてもらい、子どもにとってのよりよい支援を学校と福祉事業所が情報共有し、それぞれの各機関が共通理解を図って子どもの成長の支援にあたってくれていることに、とても感謝している。また、親の心の負担も軽くしてもらい、本当にありがたく思っている。

【事例６　サービス担当者会議】



中学部１年生　男子

個別の教育支援計画　Ⅰ

現在の課題（困っていることなど）	本人	・自分の言いたいことが伝わらず、分かってもらえない。 ・関わって欲しいだけなのに、物を投げたり、叩いたりしたように思われて叱られる。
	保護者	・物を投げたり、叩いたりしてしまうことが遊びたいという表現だということは分かっているが、どのようにして、上手に関わればよいのかを教えてあげられない。 ・力が強くなってきているので、叩くなど他者に及ぼす影響をどうにかしたい。 ・言っていることや思っていることが分かってあげられないことがある。
現在の願い（つけたい力など）	本人	・怒らずに、要求を伝える力をつけたい。 ・みんなと上手に関われるようになりたい。 ・しっかりと歩くことができるようになりたい。
	保護者	・「待つ」「だめ」「やめる」「しない」を理解し、危険な行動をしないようになってほしい。特に、してはいけないことはだめと分かってほしい。 ・自分の気持ちを伝えて、お互いに意思疎通ができるようになってほしい。 ・歩行力を向上してほしい。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　安定した歩行で、長い距離が歩くことができるようになる。
B　生活のなかで、簡単な見通しをもつことができるようになる。
C　他者とのコミュニケーションが上手にとれるようになる。
D　トイレの便器で排尿や排便ができるようになる。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・かがわ総合リハビリテーションセンターＰＴ（A） ・かがわ総合リハビリテーションセンターＯＴ（D）	・自立活動室との打合せ会（R元．５．１４） ・かがわ総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ ＰＴ見学、支援内容に関する相談 （R元．５．２７）
・児童デイサービス（B・C・D） ・自立活動室（A・C）	・サービス担当者会議（R元．６．２７）

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

小学部６年生から引継いだ本人や保護者の現在の課題（困っていること）、現在の願い（つけたい力）を、改めて４月に中学部新担任が保護者から聞き取った内容。

本人や保護者のニーズを受け「今より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）の内容。

サービス担当者会議では、保護者、相談支援事業所、放課後等デイサービスが一同に集まり、担任から個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱの説明を行い、各担当者と連携を図ることを確認した。

個別の教育支援計画Ⅱ

支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
A　階段や段差のある所などの歩行にも慣れ、しっかりとした足取りで歩くことができる。	A階段や段差のある所などの歩行の機会を設ける。また、粗大運動や体を使った遊びを取り入れ、体の使い方やバランスのとり方を学習し、安定した歩行につなげる。	担任○○ ◇◇（自）	A反り腰を減らして、きれいに歩行できるように、背中の緊張をゆるめる活動を実施する。	かがわ総合リハビリテーションセンター：○○ＰＴ(R1.5.27)
B　一日の生活の流れや活動内容が分かり、見通しをもって過ごすことができる。	B授業の活動内容が確認できるように、活動が始まる前に具体物を提示するようにする。活動への見通しがもてるように、具体物を使ったスケジュールを提示する。	担任○○他	B　精神的な緊張を減らすために、背中の緊張をゆるめる活動を実施する。	児童デイサービス 担当○○さん（R1.6.27）
C　自分の意思を身近な人に伝える場面を増やす。	C具体物を提示して、二者択一で選択する機会を設けたり、言葉でやりとりをしたりする。簡単なジェスチャーを使って伝えたいことを伝えるようにする。	担任○○他	Cコミュニケーションの向上を目指して、写真カードや具体物を提示するなど、視覚的な支援を行う。	児童デイサービス 担当○○さん（R1.6.27）
D　定時排尿や排便の際に、トイレットチェアで排せつをすることができる。	D便座での定時排尿や排便の習慣をつけるため、すぐに出なくても、本人の様子を見ながら一定時間座るようにする。	担任○○他 保護者	D排尿や排便の際は、便器に座る時間を設けて、便器に慣れるようにする。	児童デイサービス 担当○○さん（R1.6.27）

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

サービス担当者会議での情報交換について

■　学級担任

・サービス担当者会議では、個別の教育支援計画を基に学校で取組んでいる支援目標、支援内容について説明を行った。さらに学校で取組んでいる内容について、福祉サービス事業所で同じように取組んでいる内容、新たに取組んでもらえる内容(個別の教育支援計画Ⅱ　　に示した内容)についての確認を行った。

・学校では、教科の内容を示す具体物を入れた時間割表を使っており、教室移動を行う時には、透明のバッグに教科内容を示す具体物とともに、本生徒が好きな靴下を一緒に入れている支援グッズについて説明を行った。支援グッズに靴下を常に入れておくことで気持ちが落ち着き安定した歩行ができること、さらに具体物を常に確認できることで見通しをもって移動することができることを伝えた。

教科の内容を示す具体物を入れた時間割表

支援グッズ

サービス担当者会議後の状況

■　学級担任

・児童デイサービスで困らないように、本人の心の安定に必要なグッズ(靴下)をどこに入れているのか必ずお迎えの児童デイサービスの方に伝えるようにしている。併せて、何かに集中して取組んでほしい時には、グッズ(靴下)を見えないところに隠して、メリハリのあるグッズ(靴下)の扱い方も伝えるようにした。

・理学療法を見学した時、落ち着かない時、股関節をゆるめたり身体の緊張をほぐしたりすることが有効と、PT の先生からもらった情報を放課後等デイサービスの方に伝えるようにした。

・学校では、支援グッズの透明のバッグに靴下を入れなくても具体物のみで安定した歩行で教室移動できるようになった。

■　福祉サービス事業所

<支援目標 A　階段や段差のある所などの歩行にも慣れ、しっかりとした足取りで歩くことができる>
・安定した歩行ができるようになるために、天気の良い日は公園に出かけ、危険がないような場所を選び、歩行している。歩くことが辛くなると座りこむこともあるが、楽しい時は走り出す様子も見られる。

<支援目標 B　一日の生活の流れや活動内容が分かり、見通しをもって過ごすことができる>
・空腹時になると落ちつかずに歩き回ったり、物を投げたりといった行動をしていた。サービス担当者会議で学校の支援目標「一日の生活の流れや活動内容が分かり、見通しをもって過ごすことができる」についての話し合いを行ったことで、デイでも「ご飯の準備をするよ」の声かけ→手を洗う→いすに座る→エプロンをつける→スプーンを持ち配膳を待つ、といった簡単な言葉かけと行動を一定にし、繰り返し行うことで、落ち着いて行動できるようになった。

<支援目標 C　自分の意思を身近な人に伝える場面を増やす>
・支援グッズや写真入りの学校での取組みが分かりやすく、療育支援に大変役に立っている。

<支援目標 D　定時排尿や排便の際に、トイレットチェアで排せつをすることができる>
・トイレの便器で排せつができるように、2 時間おきに声掛けを行い、便座に座っている。排尿の成功する場面が見られるようになった。

■　保護者

<支援目標 B　一日の生活の流れや活動内容が分かり、見通しをもって過ごすことができる>
・家庭、学校、放課後等デイサービスのそれぞれの場所でパニックを起こさずに過ごせるようになった。
<支援目標 D　定時排尿や排便の際に、トイレットチェアで排せつをすることができる>
・学校、放課後等デイサービスでトイレの便器で排せつができるようになっているのが嬉しい。

<その他>
・学校や放課後等デイサービスで、自分でスプーンを持ち食べる取組みをしてもらったおかげで、その後、家庭でもスプーンを使って食べることができるようになった。

サービス担当者会議での連携について

<個別の教育支援計画を活用した連携についての所感>

■　学級担任

・サービス担当者会議に参加することで、生徒の下校後の生活の様子や休日の過ごし方が分かり、学校での教育活動をどのように取組んでいくのかを考えるきっかけとなった。

・各福祉事業所の取組みを知る機会になり、同時に生徒の目標を一同で共通理解できることがよかった。

■　福祉サービス事業所

・学校での授業内容や活動の様子を詳しく教えてもらえるので放課後等デイサービスでの相違点が明らかになり、とても有用な連携と感じている。

・学校から具体的な支援内容や方法を教えてもらえるので、放課後等デイサービスでも実践を行いながら、さらによりよい支援を目指している。

・個別の教育支援計画により、関係機関が共通の理解と支援を行うことが可能となり、本人にとって活動しやすい環境になった。

・個別の教育支援計画に記載されている内容について事業所の個別の支援計画に反映させ療育支援に役立てている。

・学校での成功体験を知ることで、放課後等デイサービスでも生かすことができた。

■　保護者

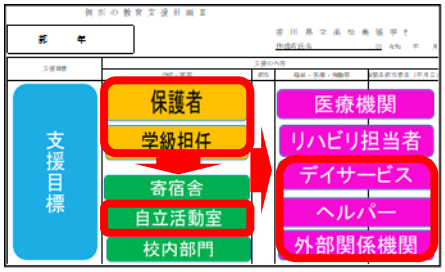
・学校、家庭、放課後等デイサービスが連携することで、子どもの特性を一同に共通理解してもらい子どもが落ち着いて過ごせていることが何よりもありがたく思っている。

・学校、児童デイサービスでトイレの便器で排せつができるようになっているのが嬉しい。

・個別の教育支援計画を丁寧に作成し、それをもとに情報共有を行っていることにありがたく思っている。

・子育てに行き詰まることがあるが、みなさんが一緒に考えアドバイスしてもらい励みになる。正直、大変な思いをすることが多く、嫌になることも多々あるが、一緒に悩み考えてくれていることにとても感謝している。

【事例７　移行支援会議】



高等部３年生　女子

個別の教育支援計画　Ⅰ（移行支援用）

現在の課題（困っていることなど）	本人	・自分の思いが伝わりにくい。
	保護者	・家では、口から食事や水分を取ることができない。
現在の願い（将来の生活についての希望など）	本人	・自分の思いを分かって欲しい。
	保護者	・さらにお互いにコミュニケーションがとれるようになってほしい。 ・左凸の側わんが進まないようにしたい。 ・母が家事をしているときなどに、いろいろな過ごし方ができるようになってほしい。

生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A いろいろな人といろいろな場所で牛乳を飲むことができる。
B いろいろな人とのやりとりを楽しむことができる。
C 歩行学習に継続的に取り組み、歩行能力の維持向上ができる。
D 背中や腰まわりを動かすことで体の変形を防止する。

必要な関係者・機関との連携について	本人のプロフイールなど
・福祉サービス事業所○○○（A　B　C　D）	〒○○○－○○○○ ○○市○○町○○－○○ 連絡先：０８７－○○○－○○○○ 保護者名：○○　○○ 保護者連絡先：○○○－○○○○－○○○○（母携帯） 出身校：香川県立高松養護学校 担当　進路指導主事　○○　○○ ０８７－８６５－４５００

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

個別の教育支援計画を基本に、卒業後の生活を見通して、内容を修正、加筆した内容。

本人や保護者のニーズを受け卒業後の「今より豊かな生活」実現のために必要な内容。

移行支援会議では、保護者、相談支援事業所、福祉サービス事業所、担任、進路指導主事が一同に集まり、担任から個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱの説明を行い、各担当者と連携を図ることを確認した。

個別の教育支援計画Ⅱ（移行支援用）

支援目標	支援の内容・合理的な配慮			
	家庭・進路先（福祉サービス事業所○○○）	担当	出身校・福祉・医療・労働等	機関・担当者名（年月日）
A　いろいろな人と牛乳を一定量（100ml）飲むことができる。	A　牛乳を飲む流れを決め、見通しをもって取り組むことができるようにする。また、落ち着いて取り組むことができるような環境設定や言葉かけをする。	保護者 福祉サービス事業所○○○		
B　あいさつや問いかけに対し、相手の声を聞いたり表情を見たりしてやりとりすることができる。	B　いろいろな人から言葉をかけられたときに、その場で立ち止まって相手の声を聞いたり、表情を見たりするように促す。また、本人の声が出やすいような言葉かけをする。	保護者 福祉サービス事業所○○○		
C　坂道や階段などいろいろな路面で、安定した歩行ができる。	C　坂道や階段などの歩行学習に取り組むようにする。家庭では、屋外や店内での歩行を行う。	保護者 福祉サービス事業所○○○		
D　左凸の側わんの進行を防ぐ。	D　側わんの進行を防いだり体幹の柔軟性を保ったりするために、背中や腰などをゆるめたり動かしたりする。	保護者 福祉サービス事業所○○○	D　在学中に取組んでいた身体ケアの引継ぎ資料を作成する。	D　高松養護学校 自立活動室：○○ （R2.6）

個別の教育支援計画(移行支援用)では、「担当」が学校から福祉サービス事業所へ移行。

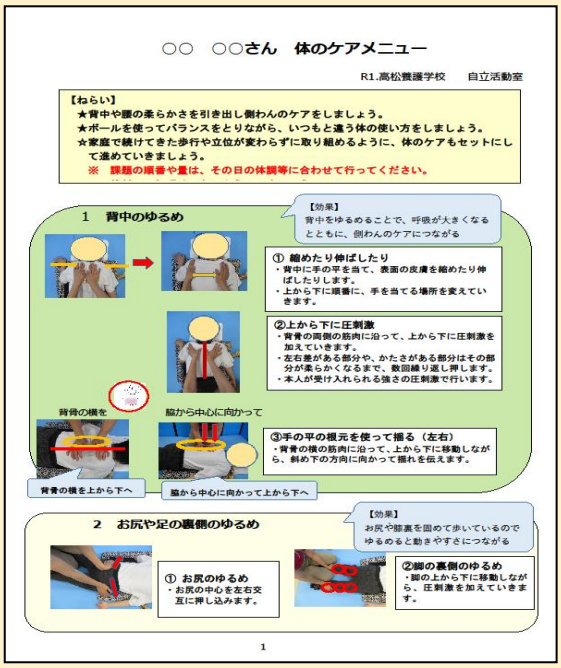
個別の教育支援計画(移行支援用)では、「関係機関」の一つが学校(出身校)になり、目標や手だてと関連させて、学校で行ってきた合理的な配慮について、進路先に引き継ぐ内容を記載。

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

移行支援会議での情報交換について

■　学級担任、自立活動室職員

・移行支援会議では、個別の教育支援計画(移行支援用)を基に在学中に取組んでいた支援内容について説明を行った。さらに自立活動室が作成した身体ケアの引継ぎ資料について情報交換を行った。その後学校での様子を知るため事業所の方が来校し、動画で撮影を行った。



○○　○○さん　体のケアメニュー

R1.高松養護学校　自立活動室

【ねらい】
★背中や腰の柔らかさを引き出し側わんのケアをしましょう。
★ボールを使ってバランスをとりながら、いつもと違う体の使い方をしましょう。
★家庭で続けてきた歩行や立位が変わらずに取り組めるように、体のケアもセットにして進めていきましょう。
※　課題の順番や量は、その日の体調等に合わせて行ってください。

1　背中のゆるめ

【効果】背中をゆるめることで、呼吸が大きくなるとともに、側わんのケアにつながる

① 縮めたり伸ばしたり
・背中に手の平を当て、表面の皮膚を縮めたり伸ばしたりします。
・上から下に順番に、手を当てる場所を変えていきます。

②上から下に圧刺激
・背骨の両側の筋肉に沿って、上から下に圧刺激を加えていきます。
・左右差がある部分や、かたさがある部分はその部分が楽らかくなるまで、数回繰り返し押します。
・本人が受け入れられる強さの圧刺激で行います。

③手の平の根元を使って揺る（左右）
・背骨の横の筋肉に沿って、上から下に移動しながら、斜め下の方向に向かって揺れを伝えます。

背骨の横を　脇から中心に向かって

背骨の横を上から下へ　脇から中心に向かって上から下へ

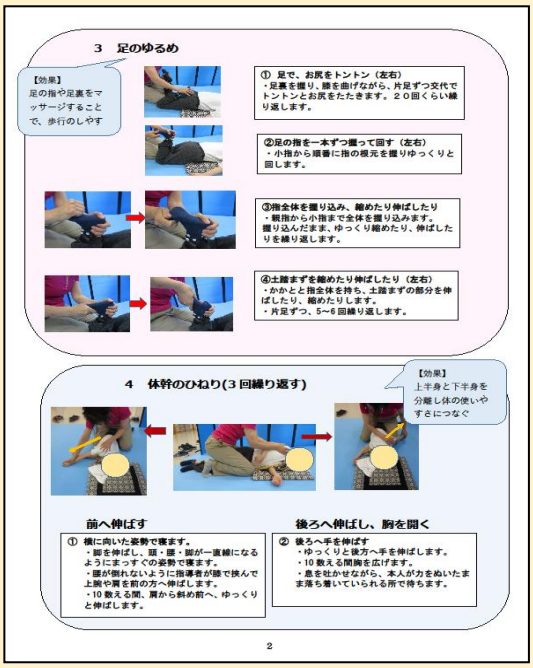
2　お尻や足の裏側のゆるめ

【効果】お尻や膝裏を固めて歩いているのでゆるめると動きやすさにつながる

① お尻のゆるめ
・お尻の中心を左右交互に押し込みます。

②脚の裏側のゆるめ
・脚の上から下に移動しながら、圧刺激を加えていきます。

1



3　足のゆるめ

【効果】足の指や足裏をマッサージすることで、歩行のしやすさ

① 足で、お尻をトントン（左右）
・足裏を揺り、膝を曲げながら、片足ずつ交代でトントンとお尻をたたきます。２０回くらい繰り返します。

②足の指を一本ずつ揺って回す（左右）
・小指から順番に指の根元を揺りゆっくりと回します。

③指全体を揺り込み、縮めたり伸ばしたり
・親指から小指まで全体を揺り込みます。揺り込んだまま、ゆっくり縮めたり、伸ばしたりを繰り返します。

④土踏まずを縮めたり伸ばしたり（左右）
・かかとと指全体を持ち、土踏まずの部分を伸ばしたり、縮めたりします。
・片足ずつ、5～6 回繰り返します。

4　体幹のひねり(3 回繰り返す)

【効果】上半身と下半身を分離し体の使いやすさにつなぐ

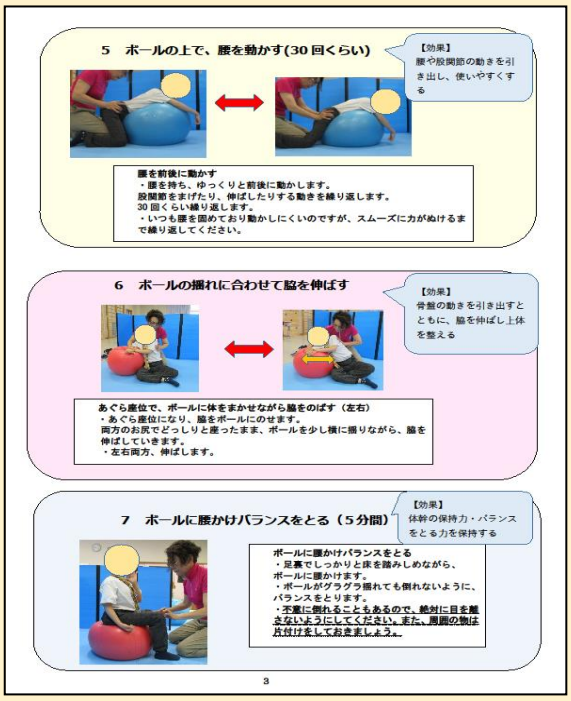
前へ伸ばす

① 横に向いた姿勢で寝ます。
・脚を伸ばし、頭・腰・脚が一直線になるようにまっすぐの姿勢で寝ます。
・腰が倒れないように指導者が膝で挟んで上腕や肩を前の方へ伸ばします。
・10 数える間、肩から斜め前へ、ゆっくりと伸ばします。

後ろへ伸ばし、胸を開く

② 後ろへ手を伸ばす
・ゆっくりと後方へ手を伸ばします。
・10 数える間胸を広げます。
・息を吐かせながら、本人が力をぬいたまま落ち着いていられる所で待ちます。

2



5　ボールの上で、腰を動かす(30 回くらい)

【効果】腰や股関節の動きを引き出し、使いやすくする

腰を前後に動かす
・腰を持ち、ゆっくりと前後に動かします。
股関節をまげたり、伸ばしたりする動きを繰り返します。
30 回くらい繰り返します。
・いつも腰を固めており動かしにくいのですが、スムーズに力がぬけるまで繰り返してください。

6　ボールの揺れに合わせて脇を伸ばす

【効果】骨盤の動きを引き出すとともに、脇を伸ばし上体を整える

あぐら座位で、ボールに体をまかせながら脇をのばす（左右）
・あぐら座位になり、脇をボールにのせます。
両方のお尻でどっしりと座ったまま、ボールを少し横に揺りながら、脇を伸ばしていきます。
・左右両方、伸ばします。

7　ボールに腰かけバランスをとる（5 分間）

【効果】体幹の保持力・バランスをとる力を保持する

ボールに腰かけバランスをとる
・足裏でしっかりと床を踏みしめながら、ボールに腰かけます。
・ボールがグラグラ揺れても倒れないように、バランスをとります。
・不意に倒れることもあるので、絶対に目を離さないようにしてください。また、周囲の物は片付けをしておきましょう。

3

身体ケアの引継ぎ資料

卒業後

<個別の教育支援計画(移行支援会議)を活用したことで、進路先に円滑に移行できた内容>

■　福祉サービス事業所

<支援目標 A　いろいろな人と牛乳を一定量（100ml）飲むことができる >
・様々な職員が関わっているが、誰とでも牛乳を飲めたり、歯磨き、トイレ、歩行を行ったりすることができている。
・牛乳を口から摂取することが毎日実施できている。

<支援目標 B　あいさつや問いかけに対し、相手の声を聞いたり表情を見たりしてやりとりすることができる>
・在学中の現場実習では、落ち着かない状態が多々あったが、言葉かけや好きな歌を聞くことで穏やかに過ごすことができている。
・眠たい時、気持ちがのらない時、表情や発声、行動で気持ちを表出している。気分を上げる手段を、どの職員も理解しており、対応を行うことで、笑顔が見られている。

<支援目標 C　坂道や階段などいろいろな路面で、安定した歩行ができる >
・学校からの情報を基に身体のケア(側わん、足を中心としたゆるめ)を行う時間を確保して取組むことで、立位や歩行の安定が見られている。

<支援目標 D　左凸の側わんの進行を防ぐ>
・卒業後、事業所で学校からの情報を基に身体のケア(側わん、足を中心としたゆるめ)を行う時間を確保して取組んでいる。

移行支援会議の連携について

<個別の教育支援計画(移行支援用)を活用した連携についての所感>

■　学級担任、自立活動室職員

・学校、家庭、事業所が同じ場を共有し、顔を合わせて卒業後の本生徒の豊かな生活について、話を進めて行くことができ、大変有意義な会議であった。

・学校で行っていたことを、そのまま事業所で続けていくというより、本生徒にとって大切なポイント(支援目標)①牛乳を飲むこと②コミュニケーション③歩行④身体のケア(ゆるめ)について説明を行い、事業所で可能な範囲で取組んでほしいといった思いを共通理解できたと思っている。

■　保護者

・安心して進路先に行くことができて大変よかった。

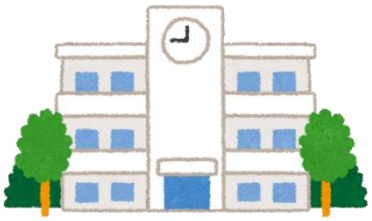
・口から牛乳を飲んでほしい事を学校から伝えてもらい、事業所では、子どもが楽しんでチャレンジできるよう様々な工夫をして取組んでいることに、ありがたく思っている。

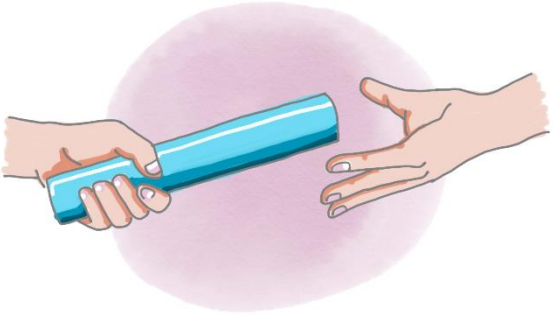
■　福祉サービス事業所

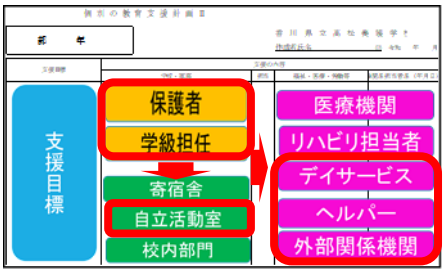
・細かく連携を図ることができたことで、進路先での健康面、安全面が保たれていることが多い。

・意思を言葉で伝えることが難しい本人にとって、周囲が連携して本人を支援し対応していくことが、とても重要だと感じた。

・排泄状況、体重管理、体調面において、家庭や学校の情報を基に対処することができている。







【事例８　移行支援会議】

高等部３年生　女子

個別の教育支援計画　Ⅰ（移行支援用）

現在の課題（困っていることなど）	本人	・体調が悪くなったときに伝えられない。
	保護者	・忙しく手が離せないとき、泣いて伝えてきてもすぐにそばに行ってあげられない。 ・特定の場所や人と一緒でないとお茶を飲むことが難しい。
現在の願い（将来の生活についての希望など）	本人	・タブレット型情報端末を活用して余暇を楽しみたい。 ・バランスを崩さず座位姿勢がとれる時間を確保したい。 ・むせることなく安全に食べたり飲んだりしたい。 ・母の体調が悪いときでも通所したい。
	保護者	・いつでも誰とでもお茶を一定量摂取してほしい。 ・ゆるめや立位や歩行の時間を確保してほしい。 ・自分の体調が悪く事業所までの送迎が困難なときに、サービスを利用したい。

生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　摂食機能を維持し、安全に適切な量の水分や食事を摂取することができる。
B　いろいろな人とコミュニケーションをとったり、タブレット型情報端末を活用したりすることで、余暇活動を楽しむことができる。
C　家庭や事業所でゆるめをする時間を確保したり、定期的に訓練に通ったりすることで、体幹の支持力を維持したり、側わんの進行を防いだりする。

必要な関係者・機関との連携について	本人のプロフイールなど
・作業療法士（A） ・理学療法士（C） ・○○歯科（A） ・福祉サービス事業所○○（A　B　C） ・福祉サービス事業所△△（A　B　C）	住所：〒○○○－○○○○ ○○郡○○町○○○ 連絡先：○○○－○○○○－○○○○ 保護者名：○○　○○ 保護者連絡先：○○○－○○○○－○○○○（母携帯） 出身校：香川県立高松養護学校 担当　進路指導主事　○○　○○ ０８７－８６５－４５００

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

個別の教育支援計画を基本に、卒業後の生活を見通して、内容を修正、加筆した内容。

本人や保護者のニーズを受け卒業後の「今より豊かな生活」実現のために必要な内容。

移行支援会議では、保護者、相談支援事業所、福祉サービス事業所、担任、進路指導主事が一同に集まり、担任から個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱの説明を行い、各担当者と連携を図ることを確認した。

個別の教育支援計画(移行支援用)では、「関係機関」の一つが学校(出身校)になり、目標や手だてと関連させて、学校で行ってきた合理的な配慮について、進路先に引き継ぐ内容を記載。

個 別 の 教 育 支 援 計 画 Ⅱ（移行支援用）

支援目標	支援の内容・合理的な配慮			
	家庭・進路先（瀬戸療護園・きりん）	担当	出身校・福祉・医療・労働等	機関・担当者名（年月日）
A　正しい姿勢と食形態で安全に食べ物や水分を取り込むことができる。	A　食形態をとろみやおかゆで調整する。下あごを軽く引くように支援することで、首を反らさずに安全に取り込むことができるようにする。	保護者 福祉サービス事業所○○ 福祉サービス事業所△△	A　在学中に取り組んでいた摂食指導や１月末に実施したVF検査結果の引き継ぎ資料を作成する。	高松養護学校 自立活動室○○ （R2.2）
B　様々な場面で、二つの選択肢から一つを選び、発声や視線等で伝えることができる。	B　実物はもちろん、理解できている慣れ親しんでいる指導員さんや友達、活動等は発問だけで発声や表情等での意思表示ができるような言葉かけをする。	保護者 福祉サービス事業所○○ 福祉サービス事業所△△		
C　側わんの進行を防いだり、体幹の支持力を維持するために、首を反らさずにあぐら座位の姿勢を一定時間保持したりすることができる。	C　側わんの進行を防ぐために、背中や腰などをゆるめたり動かしたりする。　自分で前傾姿勢が保持できるようにするために、丸めた座布団に上体をあずけたあぐら座位に取り組むようにする。	保護者 福祉サービス事業所○○ 福祉サービス事業所△△	C　在学中に取り組んでいた身体ケアの引き継ぎ資料を作成する。	高松養護学校 自立活動室○○ （R2.2）

個別の教育支援計画(移行支援用)では、「担当」が学校から福祉サービス事業所へ移行。

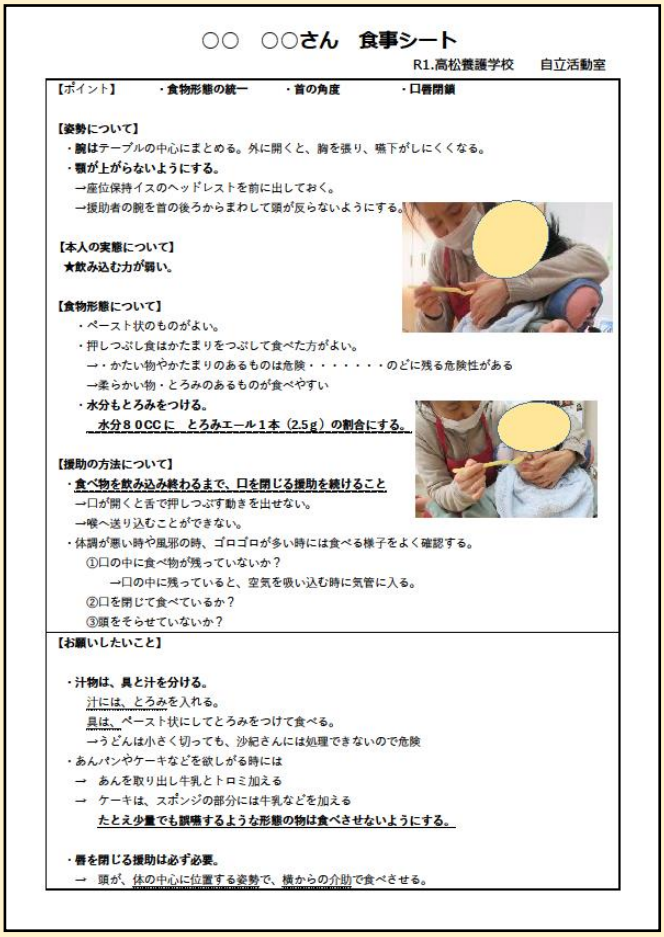
この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

移行支援会議での情報交換について

■　学級担任、自立活動室職員

・移行支援会議では、個別の教育支援計画(移行支援用)を基に、学校から本生徒に関する移行する上で大切な三つのポイント(①食事、②コミュニケーション③身体のケア)について説明を行った。その内容について、卒業後に利用する二つの事業所が情報を共有し、お互いが連携しながら支援を行っていくといった話が行われた。本生徒にとって卒業後も学校が提示した内容を引継ぎ、一貫した支援が受けられると感じた。

・食事シートの引継ぎ資料、身体のケアシート、VF 検査の資料、発熱時の対応についての資料を作成することで、家庭、事業所で資料を参考に取組みをしてもらうよう提案した。



○○　○○さん　食事シート

R1.高松養護学校　自立活動室

【ポイント】　・食物形態の統一　・首の角度　・口唇閉鎖

【姿勢について】

・腕はテーブルの中心にまとめる。外に開くと、胸を張り、嚥下がしにくくなる。

・顎が上がらないようにする。

→座位保持イスのヘッドレストを前に出しておく。

→援助者の腕を首の後ろからまわして頭が反らないようにする。

【本人の実態について】

★飲み込む力が弱い。

【食物形態について】

・ペースト状のものがよい。

・押しつぶし食はかたまりをつぶして食べた方がよい。

→・かたい物やかたまりのあるものは危険・・・・・・・のどに残る危険性がある

→柔らかい物・とろみのあるものが食べやすい

・水分もとろみをつける。

水分８０CCに　とろみエール１本（2.5g）の割合にする。

【援助の方法について】

・食べ物を飲み込み終わるまで、口を閉じる援助を続けること

→口が開くと舌で押しつぶす動きを出せない。

→喉へ送り込むことができない。

・体調が悪い時や風邪の時、ゴロゴロが多い時には食べる様子をよく確認する。

①口の中に食べ物が残っていないか？

→口の中に残っていると、空気を吸い込む時に気管に入る。

②口を閉じて食べているか？

③頭をそらせていないか？

【お願いしたいこと】

・汁物は、具と汁を分ける。

汁には、とろみを入れる。

具は、ペースト状にしてとろみをつけて食べる。

→うどんは小さく切っても、沙紀さんには処理できないので危険

・あんパンやケーキなどを欲しがる時には

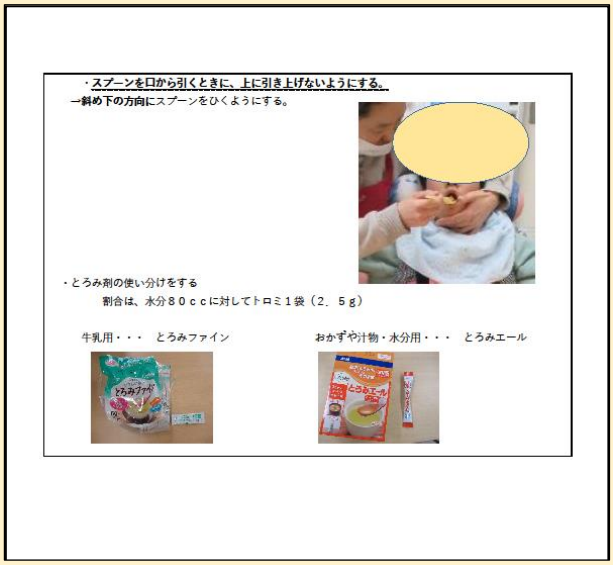
→　あんを取り出し牛乳とトロミ加える

→　ケーキは、スポンジの部分には牛乳などを加える

たとえ少量でも誤嚥するような形態の物は食べさせないようにする。

・唇を閉じる援助は必ず必要。

→　頭が、体の中心に位置する姿勢で、横からの介助で食べさせる。



・スプーンを口から引くときに、上に引き上げないようにする。

→斜め下の方向にスプーンをひくようにする。

・とろみ剤の使い分けをする

割合は、水分８０ｃｃに対してトロミ１袋（2．５ｇ）

牛乳用・・・　とろみファイン

おかずや汁物・水分用・・・　とろみエール

食事シートの引継ぎ資料

卒業後の状況

<個別の教育支援計画(移行支援会議)を活用したことで、進路先に円滑に移行できた内容>

■　福祉サービス事業所

<支援目標Ａ　正しい姿勢と食形態で安全に食べ物や水分を取り込むことができる>
・食事、水分摂取では、頭頸部を常に安定させ、取込み、嚥下が安全にできるように留意している。水分摂取を嫌がる場合は、パンに牛乳を混ぜる等で十分な水分が摂れるようにしている。また、本人の好きな話題でやり取りし、気分を変えながら水分補給を行っている。

<支援目標Ｂ　様々な場面で、二つの選択肢から一つを選び、発声や視線等で伝えることができる>
・制作活動で、色の選択、したい作業の選択、楽器や本の選択など、実物を見せて、視線もしくは手で触れることで選ぶ機会を作っている。呼名すると発声や手をあげるジェスチャー等が自発的に行えている。

<支援目標Ｃ　側わんの進行を防いだり、体幹の支持力を維持するために、首を反らさずにあぐら座位の姿勢を一定時間保持したりできる>
・側臥位やうつ伏せで、肩回りや背中の左右差を修正できるよう、ゆるめる時間を設け、スタッフの誰もが実施できるようにしている。本人のモチベーションに配慮しながら、活動場面にあぐら座位で手を使う活動を設けている。また、集中できる環境に配慮し、工夫をしている。

移行支援会議の連携について

<個別の教育支援計画(移行支援用)を活用した連携についての所感>

■　学級担任、自立活動室職員

・移行支援会議で、学校、家庭、事業所が卒業後の本生徒の豊かな生活をイメージした話を進めることができ、大変有意義な会議であった。

・学校で行っていたことを、そのまま事業所で続けていくというより、本生徒にとって大切なポイント(支援目標)①食事②コミュニケーション③身体のケア(ゆるめ)について説明を行い、事業所で可能な範囲で取組んでほしいといった思いを共通理解できたと思っている。

・個別の教育支援計画を基に、学校、家庭、事業所が情報を共有することで、学校で培ってきた力を継続して生活の場でも支えてもらえるといった安心感を得ることができた。

■　保護者

・進路先の事業所が、学校に足を運び学校での様子を見て、他の職員にも情報を共有してもらったおかげで、子どもが安心して進路先に移行することができた。

・二つの事業所が、学校が作成した食事や水分摂取、身体のケアについて、分かりやすく書いた資料を参考に、子どもに携わってくれている。

・水分を摂りたがらない子どもではあるが、積極的に水分摂取ができるように工夫してくれている。

■　福祉サービス事業所

・学校から具体的な支援方法の提示があり、職員間で共有でき、非常に参考になった。

・卒業後は、家庭と事業所で学校からのもらった情報を継続して取組んでいる。

・食事等、最初は学校と家庭、事業所といった連携体制から、徐々に学校からの情報を基に、母親との連携体制に移り生活全般の支援を行うことができるようになった。

（２）個別の教育支援計画活用について「よかった」と評価された理由

本校の個別の教育支援計画活用場面の中から個別の教育支援計画を有効に活用させている事例を抽出し、学校関係者（１７名）、保護者（６名）、関係機関（９名）を対象に、個別の教育支援計画活用についての有益性、効果、課題についてアンケート調査（自由記述）を実施した。調査の記述内容を分析し、その要点をまとめたものが（表１）である。

（表１）個別の教育支援計画活用について「よかった」と評価された理由

	主な内容	人数	%
学校関係者	指導や支援の情報交換、共通理解、連携に関する内容	１７	１００
	児童生徒の成果に関する内容	１１	６４
	支援目標や支援内容に関する内容	１０	５９
保護者	指導や支援の情報交換、共通理解、連携に関する内容	6	１００
	児童生徒の成果に関する内容	5	８３
	心理的な内容	5	８３
関係機関	指導や支援の情報交換、共通理解、連携に関する内容	9	１００
	学校が取組んでいる指導支援のデイサービスでの汎化	7	７８
	事業所での支援についての見通しに関する内容	6	６７

①学校関係者の回答

「よかった」といった回答が大半を占め、カテゴリーに分けると主に、「指導や支援の情報交換、共通理解、連携に関する内容」（１７名）、「児童生徒の成果に関する内容」（１１名）、支援内容を再考するきっかけとなった、支援目標や支援内容が明確化された等「支援目標や支援内容に関する内容」（１０名）であった。その他、保護者の思いに寄り添う視点が関係者間で共有されよかった、個別の教育支援計画を通して学級担任だけでなく学校内での連携が取りやすくなったといった回答があった。

課題としての回答は、個別の教育支援計画には書かれていない支援内容にも取組んでいるが、書面に表れていない内容をどのように保護者や関係機関に伝えればいいのかといった「個別の教育支援計画の記入に関する内容」、家庭と協力して作成していくものであるが家庭が受け身になってしまうことが多いといった回答があった。

②保護者の回答

「よかった」といった回答が大半を占め、カテゴリーに分けると主に、「指導や支援の情報交換、共通理解、連携に関する内容」（６名）、「児童生徒の成果に関する内容」（５名）、願いを受け止めてもらえた、不安が解消された、安心して進路先に行くことができた等「心理的な内容」（５名）であった。それ以外には、子どもの状態に合わせて随時、個別の教育支援計画を修正追記してもらえること、個別の教育支援計画を関係機関に配布することで伝え忘れがなく確実に支援を伝えるこ

とができるので助かっているといった回答があった。

③関係機関の回答

「よかった」といった回答が大半を占め、カテゴリーに分けると主に、「指導や支援の情報交換、共通理解、連携に関する内容」（９名）、学校での取組みをデイサービスでも取り入れることで過ごしやすくなったといった「学校が取組んでいる指導支援のデイサービスでの汎化に関する内容」（７名）、デイサービスでの支援目標が明確になり、それに応じたサービスの提供を行うといった「事業所での支援についての見通しに関する内容」（６名）であった。その他、個別の教育支援計画について関係機関が適切な支援を効果的に行うことができるように計画されている、学校が作成した支援シートや教材がとても参考になったといった回答があった。

課題としては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会議が少なくなり、今後の連携が上手く取れるか心配であるといった回答、個別の教育支援計画に細かな配慮事項が書かれていれば、より分かりやすいといった回答があった。

（３）本校の個別の教育支援計画取組みの趣旨を伝えるためのリーフレット（図１４―１～４）

個別の教育支援計画の作成や活用についての本校の取組みについてリーフレットを作成した。今後、本校の保護者への説明、作成や活用を模索している他校の参考となるよう活用を行う予定である。

香川県立高松養護学校

個別の教育支援計画

**子どもたちの
より豊かな生活の
実現を目指して**

個別の教育支援計画とは･･･

個別の教育支援計画とは、本人や保護者の希望を踏まえ、障害のある児童生徒一人一人に必要とされる教育的ニーズを関係機関(教育、医療、保健、福祉、労働等)と連携して正確に把握し、幼児期から学校卒業までを通じて一貫して適切な支援を行うことを目的として作成されます。

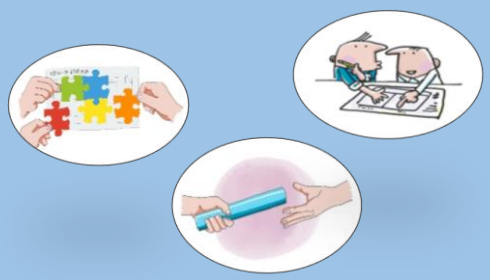
【香川県教育委員会「すべての教員のための特別支援教育ハンドブック」より】

**子どもたちの将来に繋がる
大切な計画書です**

A　より豊かな生活をイメージして、教育的ニーズを整理するためのツール

B　連携のためのツール

C　必要な支援を引き継ぐためのツール



（図１４―１）本校の個別の教育支援計画取組みの趣旨を伝えるためのリーフレット

POINT① A「より豊かな生活をイメージして、教育的ニーズを整理するためのツール」

個別の教育支援計画を作成する前に、まずは本人・保護者・担任で「より豊かな生活」をイメージします。

そして、そのために必要な支援について、本人・保護者・担任が話し合いながら、個別の教育支援計画を作成します。

現在の願いや課題を知り、「より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）を考えます

本校様式：個別の教育支援計画Ⅰ

個別の教育支援計画　Ⅰ

○○部　　年

香川県立高松養護学校
作成者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿㊞　令和　年　月

（現在の課題（困っていることなど））　本人　保護者：現在の生活の充実や将来のより豊かな生活の実現に向けての課題について記入します

（現在の願い（つけたい力など））　本人　保護者：より豊かな生活の実現に向けて取り組んでもらいたいことや、支援してほしいことを記入します

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

上欄を踏まえて、本人や保護者、担任で、協議し、教育的ニーズを整理します

連携する関係機関等	連携の記録・履歴

この支援計画を了承します。　令和　年　月　日　氏名

本人や保護者の
現在の課題（困っていること）
現在の願い（つけたい力）
を明確にします

本人・保護者・担任で「より豊かな生活」のイメージを話しあいます

実現のために必要なこと（教育的ニーズ）を考え、整理します

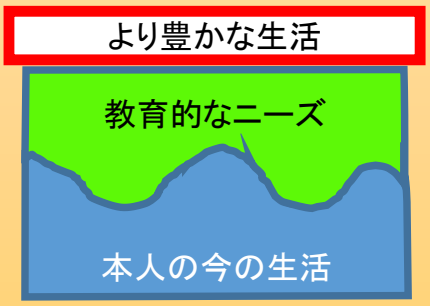
必要な連携機関を書き出し、実際に行った連携の履歴を記入します

教育的ニーズって？

子どもの「より豊かな生活」の実現のために必要なことを教育的ニーズと言います。

いくつもの教育的ニーズを網羅的に支援することは、限られた学校生活の中だけでは到底難しく、重点的に行うことを絞り、整理することが必要になります。そこで、本校では、整理するポイントを以下の２点とし、教育的ニーズの整理を行っています。

＜整理するポイント＞
①優先度の高いもの
②実現できる可能性の高いもの



（図１４―２）本校の個別の教育支援計画取組みの趣旨を伝えるためのリーフレット

POINT② B「連携のためのツール」

子どもの「より豊かな生活」を実現するためには、学校だけでなく、広い視野で子どもの生活を把握し、支援していく必要があります。

校内の関係者や校外の関係機関と情報交換するだけでなく、それぞれの立場でできることを話し合い、役割分担するためのツールとしても個別の教育支援計画を使っています。

高松養護学校では、個別の教育支援計画を校内・校外の会議に持ち込み、校内・校外関係機関との連携ツールとして活用をしています。

児童生徒を支援する関係者・機関が集まり、個別の教育支援計画をもとに、支援目標や支援内容について情報を共有します。そして、支援目標に対して、具体的に「誰が」「いつ」「何をするのか」といった支援の役割分担まで話し合います。

＜校内における活用例＞
- 前期・学年末懇談会
- 自立活動室・寄宿舎との打合せ
- 医療的ケア児の連絡会
- その他のケース会

＜校外の関係機関を含む会議等での活用例＞
- サービス担当者会議
- PT・OT・STなどのリハビリ見学
- 現場実習や進路に関する会議
- その他のケース会

「より豊かな生活」の実現のために、
学校・家庭・関係機関が連携した具体的な計画を立てます

本校様式：個別の教育支援計画Ⅱ

個 別 の 教 育 支 援 計 画 Ⅱ

〇〇部　　年

香 川 県 立 高 松 養 護 学
作成者氏名　　㊞　令和　年　月

支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）

支援目標に対して、誰が、いつ、何をするのかを具体的に決めます

教育支援計画Ⅰの「児童生徒のニーズ」に対応した今年度の支援目標を記入します

学級、家庭での支援内容を保護者と話し合い記入します

学級や家庭、連携して支援を行う教科担任、自立活動室、寄宿舎、学校看護師等を記入します

支援目標に対応した校外の関係機関(デイサービス、ヘルパー、PT、OT等)の支援内容や支援を行う機関名、担当者名を記入します

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

年度末（1月～2月）に、一年間の取組の評価を記入します

この支援計画を了承します。　　令和　年　月　日　氏名

より豊かな生活を考えるヒント

「より豊かな生活」を考える際に大切なことは、将来を漠然とイメージするのではなく、〇年後の「より豊かな生活」について具体的に考えます。小学部に入学したばかりの児童であれば、2、3年後の生活のイメージになりますし、高等部の生徒は、間近に迫った卒業後の生活を見据えたイメージになります。

また、以下の2つの視点を加えることで、より具体的な生活をイメージすることができます。

①現在の生活における課題を解決することで、自分らしく輝ける生活ってどんな生活ですか？
②社会参加や自立に向けて、本人の得意なことを活かして、どんなことができるようになるとよいですか？

（図１４―３）本校の個別の教育支援計画取組みの趣旨を伝えるためのリーフレット

POINT③　C「必要な支援を引き継ぐためのツール」

毎年、新しく作成するのではなく、旧担任から引き継ぎ、支援内容を追加・更新し、さらに、次の担任に引き継いでいくものです。

個別の教育支援計画作成・活用しての効果

■ 保護者の声
- 漠然とした悩みを打ち明け、それを書面にすることで親としては安心感をもつことができました。
- 個別の教育支援計画を介し、子どものためにみんなで支援を考え、今までの支援をより良いものに修正や追記をしてもらえるのは、とてもありがたいです。また新たに修正や追記した個別の教育支援計画を関係機関に配布することで、学校、家庭、福祉事業所が連携して支援を行うことができており、子どもにとってプラスになっていると感じます。

■ 関係機関の声
- 毎日子どもと関わっている学校の情報は豊富で、内容も深くとても参考になります。サービス担当者会議で確認した支援内容や役割分担を、放課後等デイサービスのスタッフ間で共有しています。活動の中に、学校での学習や身体のケアを取り入れるようになりました。
- 卒業後も、家庭と事業所で学校からもらった情報を継続して取り組むことができています。

■ 教員の声
- 成長とともに本人の身体や学習内容は変わっているので、年度初めに立てた支援目標や支援内容については、サービス担当者会議をきっかけに、修正して最新の支援内容になる機会となっています。
- 学校の関係者間で、個別の教育支援計画の支援目標や支援内容の情報を共有することで、各教科の担当の先生も同じように取組みを行ってもらうことができ、課題であった行動が解消されました。

個別の教育支援計画の様式

個別の教育支援計画の様式、具体的な記入方法や年間スケジュールなどを高松養護学校のホームページに載せています。

また、個別の教育支援計画の様式をダウンロードすることができます。ぜひ、ご活用ください。

香川県立高松養護学校ホームページ
https://www.kagawa-edu.jp/takayo02/htdocs/

個別の教育支援計画を作成するにあたり、子どもの基礎情報を収集するための調査票があります。(本校様式：調査票①②)

「からだと学びの相談センター」

「からだと学びの相談センター」(担当：支援教育部)では、個別の教育支援計画についてのご相談を、随時お受けしてしています。

例えば・・・・

・個別の教育支援計画の立て方、活用の仕方について教えてほしい。

・自分なりに作成してみたけど、足りない視点や内容がないか、アドバイスしてもらいたい。

香川県立高松養護学校
〒761-8057　香川県高松市田村町1098番地1
TEL:087-865-4500　　Email:takayo01@kagawa-edu.jp

（図１４－４）本校の個別の教育支援計画取組の趣旨を伝えるためのリーフレット

４．今後の課題

取組みの背景でも触れているが、藤井(2017)は、個別の教育支援計画を有効に活用させるための方策として、個別の教育支援計画が学校間の引継ぎのみならず学校と関係機関をも含めた一貫した支援に寄与するような趣旨で策定されることが期待されると述べている。本校の前年度の取組みでは、個別の教育支援計画の整備とともに校内や関係機関との連携といった個別の教育支援計画活用の基盤の整備について報告を行った。さらに今年度は、それを基に個別の教育支援計画の具体的な活用の場や効果的な活用の仕方を示すことができた。藤井(2017)が期待した校内学部間の引継ぎのみならず、関係機関を含めた一貫した支援の実現が、本研究により実証されたと言える。

さらに個別の教育支援計画の活用に関する、学校、保護者、関係機関の指導や支援の情報交換、共通理解、連携に関しての評価は良好な現状であることも明らかになった。保護者にとっては、学校とともに個別の教育支援計画作成を行うこと、関係機関と連携して支援を考えていくことが、現在の悩みや困り感を学校や関係機関と一緒に共有しながら問題を解決していくことになり、安心感につながっていた。関係機関では、学校での指導支援の取組みの情報共有を行うことで、児童生徒が利用している福祉サービス事業所でも学校と同じ取組みが行われるようになり、福祉サービス事業所でも落ち着いて過ごすことができたり、学校は福祉サービス事業所での情報を知ることで、よりよい支援目標や支援内容の見直しを行ったりする機会になった。個別の教育支援計画の活用を行うことで、学校、保護者、関係機関の効果的な連携を生み出し、それぞれの場で障害のある子ども一人一人のニーズに応じた支援が可能となった。しかし、課題も明らかになった。

（１）合理的配慮の記載

個別の教育支援計画活用に関する学校関係者の自由記述回答に、「個別の教育支援計画には書かれていない支援内容にも取組んでいるが、書面に表れていない内容をどのように保護者や関係機関に伝えればいいのか」また、関係機関から「個別の教育支援計画の書面に表れていない細かい配慮事項を知りたい」といった回答があった。本校では、個別の教育支援計画とともに、学校での指導内容・方法の工夫（環境や働き掛けの工夫、支援のこつ、情緒的に不安定になったときの対応など）や配慮事項、支援内容などを観点ごとに記入する引継ぎ用シートを全児童生徒について作成している。将来的には、保護者や関係機関のニーズに応じて個別の教育支援計画とともに、細かな配慮事項や支援内容が書かれている引継ぎ用シートを配布するよう考えている。しかし、現時点では個人情報の公開における課題、記入の仕方についてばらつきがあるといった課題があり、配布するには十分ではない状態である。今後、引継ぎ用シート配布に向けて整備を行っていく必要があると考える。

（２）本校個別の教育支援計画取組みの趣旨を伝えるためのリーフレットの活用（図１４－１～４）

特別支援学校のセンター的機能「からだと学びの相談センター」事業の一環として、連携訪問、巡回相談等で他校に出向いた際、または教育相談での小学校や中学校などの地域の学校からの相談内容から個別の教育支援計画の作成や活用について地域の学校が抱える課題を 3 点あげる。①どのように作成すればよいのか分からないなど作成に関する悩み、②個別の教育支援計画と個別の指導計

画の関係性が曖昧であるといった課題、③個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成は行っているが活用にまで至っていないといった課題である。
その課題に応えるよう本校個別の教育支援計画取組みの趣旨を伝えるためのリーフレットを作成した。それと併せて、保護者への個別の教育支援計画の説明は、年度初めに個別の教育支援計画周知会で説明を受けた担任に任されている状況から、担任から保護者にリーフレットを見せながらより分かりやすく説明できるよう考慮して作成を行った。

今後、本校の教育支援計画取組みの趣旨を発信していくことで、個別の教育支援計画の理解促進、地域の学校における作成活用の充実が望まれる。

（３）サービス担当者会議の参加の在り方

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためサービス担当者会議が行われなかったり、本校を会場にしてのサービス担当者会議が減少したりした。本校を会場にしてのサービス担当者会議が難しい時期に、保護者よりオンラインでのサービス担当者会議の要望があがった。しかし、学校ではオンライン会議が開催できるシステムが整っていたが、関係機関では整っておらず、オンライン会議での連携はできない状況であった。今後は、オンライン化が加速している現状から関係機関でのオンライン会議でのシステムが整っていく可能性が考えられる。また、本校の児童生徒の中には感染症に罹患すると重篤な症状に陥る重度の障害をもつ児童生徒が多く在籍している。インフルエンザ等の感染症が流行しだすと登校が難しくなり、保護者も会議のため学校に来校することが難しくなる。そのようなことを考慮し、将来的には学校、家庭、関係機関がオンラインでつながることができる状態になれば、関係機関や保護者の移動コストが不要になり、また感染症対策にもなり、会議に参加しやすくなるケースが出てくるのではないだろうか。オンライン会議は開催の在り方の選択肢の一つとして今後期待される。

参考文献

１）茨城県教育委員会：個別の教育支援計画活用ガイドブック
https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/tokubetsushien/siryou1.html(2020 年 12 月 4 日現在)

２）愛媛県総合教育センター：個別の教育支援計画の作成と活用
https://center.esnet.ed.jp/shiryo_top/kenkyuseika_h22(2020 年 12 月 4 日現在)

３）沖縄県教育委員会：「個別の教育支援計画」活用の手引、特別支援教育指導資料集（第 34 集）
https://www.pref.okinawa.jp/edu/kenritsu/jujitsu/data/kehatsu.html(2020 年 12 月 4 日現在)

４）香川県教育委員会：すべての教員のための特別支援教育ハンドブック
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/tokubetsushien/syokai/organization/kfvn.html(2020 年 12 月 4 日現在)

５）絹見睦美　寺川志奈子(2012)：特別支援学校における「個別の教育支援計画」の有効活用―保護者への質問紙調査より―、地域学論集　第 9 巻　第 2 号

６）城間園子　緒方茂樹(2020)：個別の教育支援計画の活用促進の一考察：システム教育学の観点から、琉球大学学術リポジトリ　高度教職実践専攻紀要.4.11-24

７）全国特別支援学校長会　全国特別支援学級設置学校長会(2007)：「個別の教育支援計画」の策定と活用、ジアース教育新社

８）全国特別支援教育推進連盟(2019)：「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用、ジアース教育新社

９）全国特殊学校長会(2004)：盲・聾・養護学校における「個別の教育支援計画」、ジアース教育新社

10）全国特殊学校長会(2006)：「個別の教育支援計画」策定・実施・評価の実際、ジアース教育新社

11）東京都教育委員会：個別の教育支援計画
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/special_needs_education/current_plan.html
(2020 年 12 月 4 日現在)

12）豊橋市教育委員会(2017)：個別の教育支援計画の活用と引き継ぎの手引き
http://www.city.toyohashi.lg.jp/secure/8960/shienkeikaku.pdf(2020 年 12 月 4 日現在)

13）藤井慶博　高田屋陽子(2017)：個別の教育支援計画の作成と活用に関する現状と今後の方策、秋田大学教育文化学部研究紀要.72.93-101

14）宮崎英憲(2004)：個別の教育支援計画に基づく個別移行支援計画の展開、ジアース教育新社

15)文部科学省(2018)：教育と福祉の一層の連携等の推進について（通知）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1404500.htm

16)文部科学省(2018)：学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行等について(通知)

17）山梨県教育委員会：個別の教育支援計画
https://www.pref.yamanashi.jp/koukai-tokushi/tokubetsushien/siennkeikaku.html(2020 年 12 月 4 日現在)

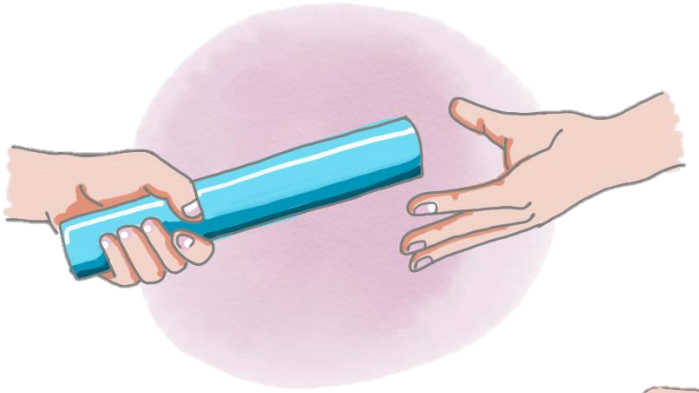
18）和田充紀　栗林睦美　池田弘紀(2015)：特別支援学校における「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用に関する一考察、人間発達科学部紀要　第 10 巻　第 1 号

資　料

個別の教育支援計画

更新・作成の手引き

（令和２年４月改訂）



1　個別の教育支援計画について（目的と活用）　P.1～

2　年間の運用のイメージ　P.3～

3　様式ごとの記入の仕方や注意点　P.4

4　「随時更新」の例　P.16～

5　引継ぎ用シートについて　P.17

（別資料）提出前チェックリスト

「サービス担当者会議」への参加の取組について

今年度の年間スケジュール

個別の教育支援計画について

特別支援教育は、学校での教育を土台としつつ、「いろいろな関係機関や人とのつながりを作りながら」支援することが必要です。

個別の教育支援計画とは・・・

（1） 教育的なニーズを検討し、そのニーズを具体的にどんな取組を、どんな体制で、実現していくかの計画書です。

（2） 支援を引継ぎ、積み重ね、次へ受け渡すためのツールです。

1．本人・保護者と話し合い、「教育的なニーズ」を整理する　→本校の「調査票」「支援計画Ⅰ」

教育活動や生活支援を進めていく上での、方向性を示す大切なものです。本人・保護者・学級担任などで話し合い、まずはここを押さえることがスタートです。

（1） 本人・保護者の願いや感じている困難さの聞き取り

- 今の生活や学習状況の情報を確認、収集することが大切です。

（2） 話し合って「今よりも豊かな生活（学校生活や学習に限りません）」について想像する。

- 目指す生活のイメージを膨らますには、関係する支援サービスなどの知識や情報も必要です。少しずつ情報を得るようにして下さい。

【今よりも豊かな生活を考えるには】

- 本人・保護者の感じていることや願いを中心にして、「○年後にこんな姿になるといいな」という実現可能な具体的な様子を考えるようにします。２～３年間程度を想定すると良いと思います。

（3） 「今よりも豊かな生活」に近づくために必要なこと＝「教育的ニーズ」を考える

- 個々の教師の発達や教育的な知識や、経験が生きてきます。
- たくさん出た「児童生徒のニーズ（教育的）ニーズ」の中から、優先度の高いものや実現可能性の高いものを絞り込んでください。
- 絞り込んだ「児童生徒のニーズ」をもとに保護者と担任が話し合いを行い、意見交換をします。

2．「教育的なニーズ」を具体的な計画にする（目標設定、役割分担）　→本校の「支援計画Ⅱ」

（1）支援目標を考える。

教育的ニーズにできるだけ直接つながる支援目標を設定します。以下のような視点があります。

- 前任者から引き継いで取組むもの、今後も引き継いで取組む必要があるもの
- 少し長期的に取組むもの
- 学校以外の、家庭や、校内や校外の人と連携、協力して取組む必要のあるもの
- 教科や領域の個々の指導をこえて、学習や生活全般に関わるもの

（２）役割分担・連携を検討、準備する。

支援目標が決まったら、誰が、どんな取組を、いつ、どこでするのかを検討していきます。
まず、連携・役割分担の最小単位は、「本人」「家族」「学級担任」です。まずはここをしっかりと確認します。
その上で、
〇自立活動室や寄宿舎などの「校内部門」
〇福祉・医療機関などの「外部関係機関」
へ視野を広げながら、支援のピースを計画にはめていって下さい。

３．個別の教育支援計画の随時更新で、取組の鮮度を保ちましょう

個別の教育支援計画は、これまでの教育や支援を引き継いで実施し、ブラッシュアップ（より良いものにする）を加えて次の担当者に受け渡すことが目的のツールです。
年度初めなどのタイミングで新しく「作成」するのではなく、入学（転入）時に作成した計画書を、高等部卒業まで、柔軟に「随時更新」を重ねながら使っていくものです。

（１）　前年度からの在校生については、すでに前担任が、年度初めの更新案を用意してくれています。まずは、前任者が行ってきた支援計画を確認して、それに沿って指導や支援を始めて下さい。

なぜなら･･･

- すでに、前年度末の懇談会等で、保護者のニーズや支援の方向性について保護者確認が取れている支援計画です。
- 前年度1年間の取組を踏まえて、随時更新を加えた実績のある計画書です。

（２）　更新案に書いてある内容を確認して下さい。

- 不明な点を、前担任等に確認する。
- 一緒に取り組むことになっている校内部門や、校外関係機関に、「この内容を引き継いでいますが、変更などないですか？」と確認する。（登下校時などの機会を使うなど）
- 4月、5月の指導の中で、修正したり加えたりした方が良い支援目標があれば、加えてください。

「随時更新」とは・・・

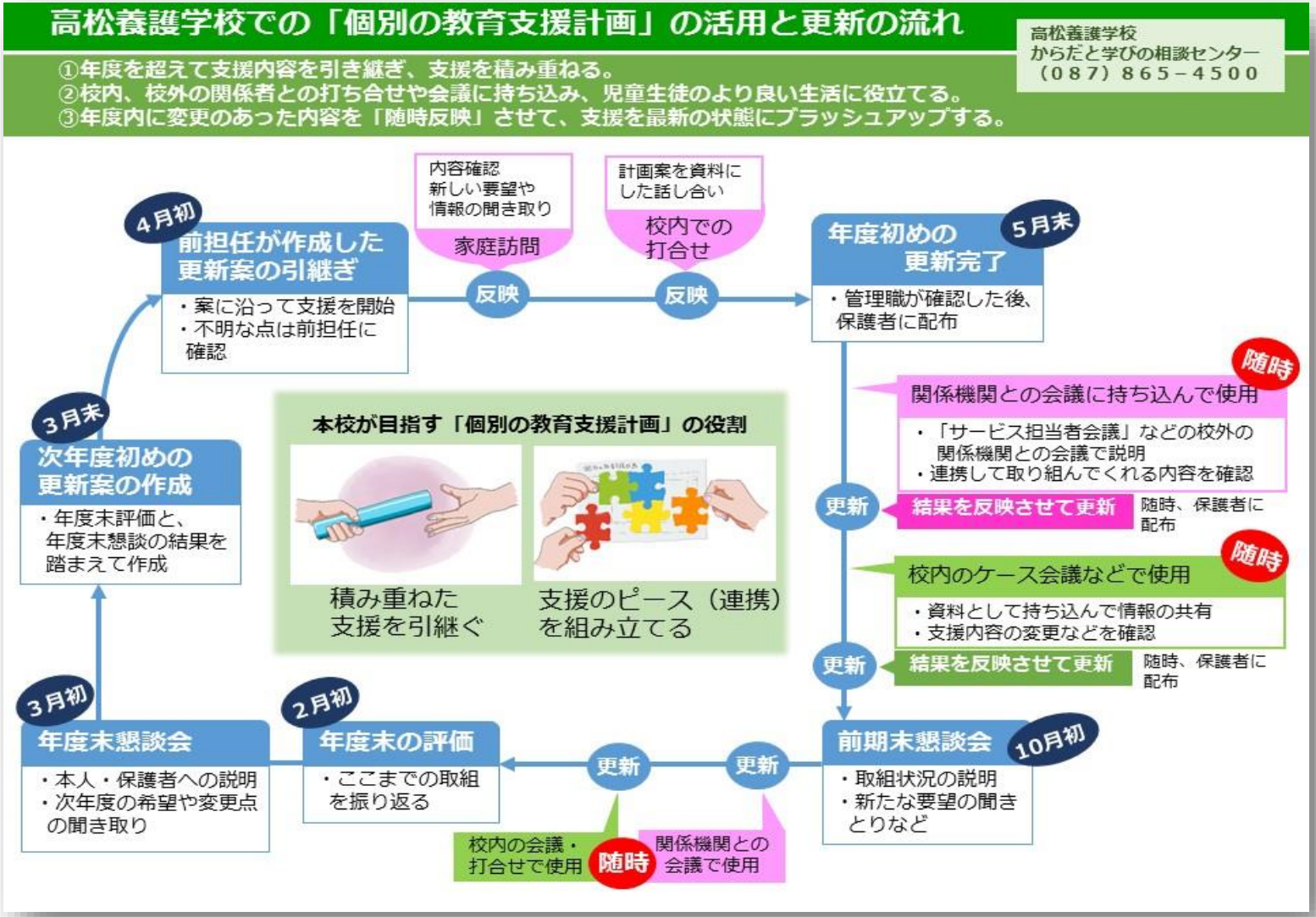
文字通り「随時」で、年度初めや前期末、後期末などの「節目」の更新だけを指すものではありません。「節目」の更新作業だけでは、計画した支援が実行されなかったり、情報の鮮度が失われてしまったりします。
以下の会には、個別の教育支援計画を持参して話し合いの材料にし、支援内容や分担を見直して下さい。そして会の中で分かったことや決まったことを、必ず追記、修正して「更新」し、常に最新の状態にして下さい。

① 家庭訪問（4･5月）
② 自立活動室との打ち合わせ（4･5月、10月）
③ 寄宿舎との連絡会(年3回)
④ 前期末懇談会（9月）
⑤ 年度末懇談会（2･3月）
⑥サービス担当者会議（校外関係者との会議です）
⑦センターケース会
⑧その他の、校内／校外でのケース会など

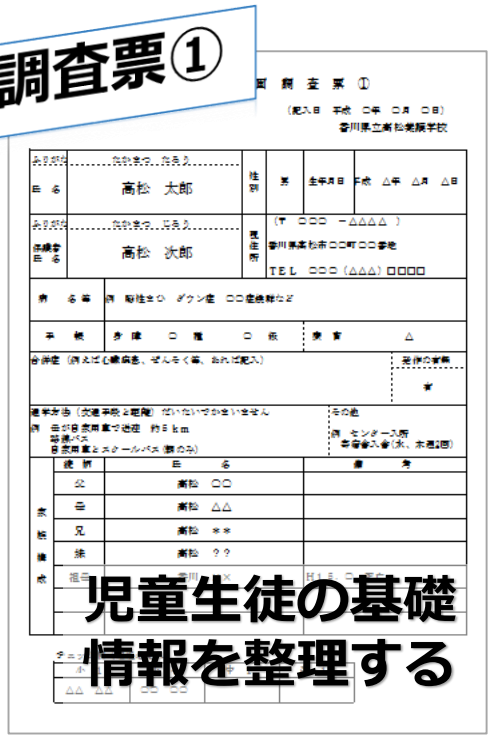
※会議や打ち合わせ以外にも、日常的な保護者や関係機関とのやりとりを通して更新を行うこともあります。

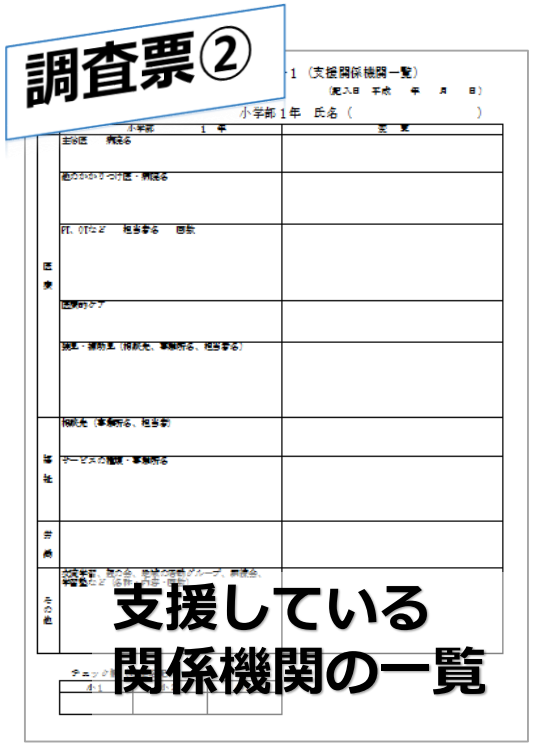
○年間の運用のイメージ

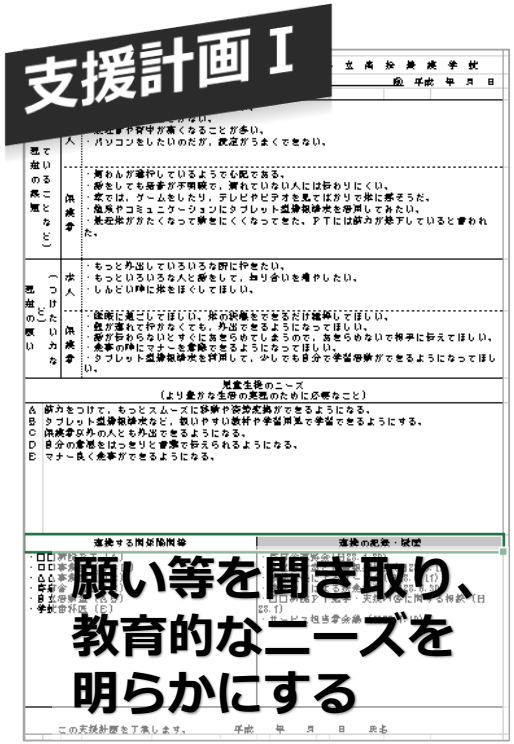
・年度初めに、**校外からの新転入生**は新規作成、**前年度からの在校生**は前担任から引き継いだシートをもとに内容を確認し、必要な加筆・修正点を加えます。
・**年度途中にも「随時更新」**を加えながら使っていきます（詳しい運用スケジュールは別資料）。

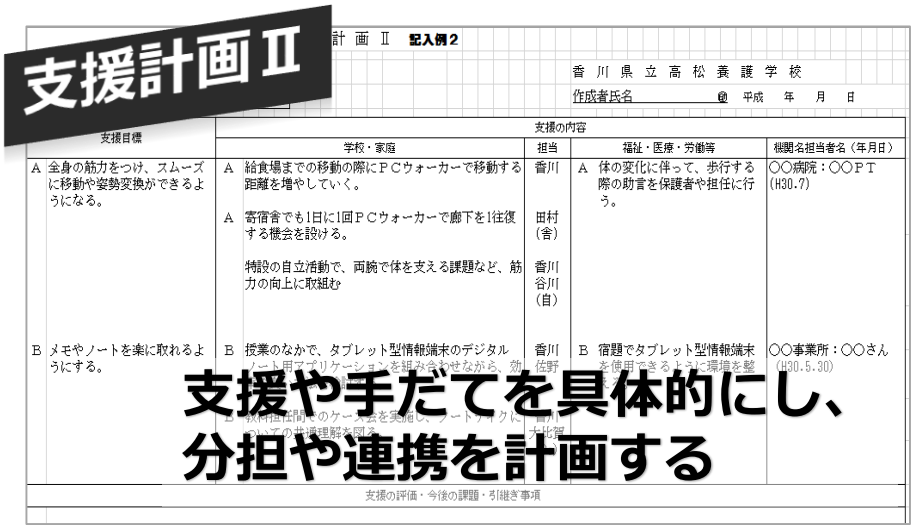


○本校の個別の教育支援計画の構成





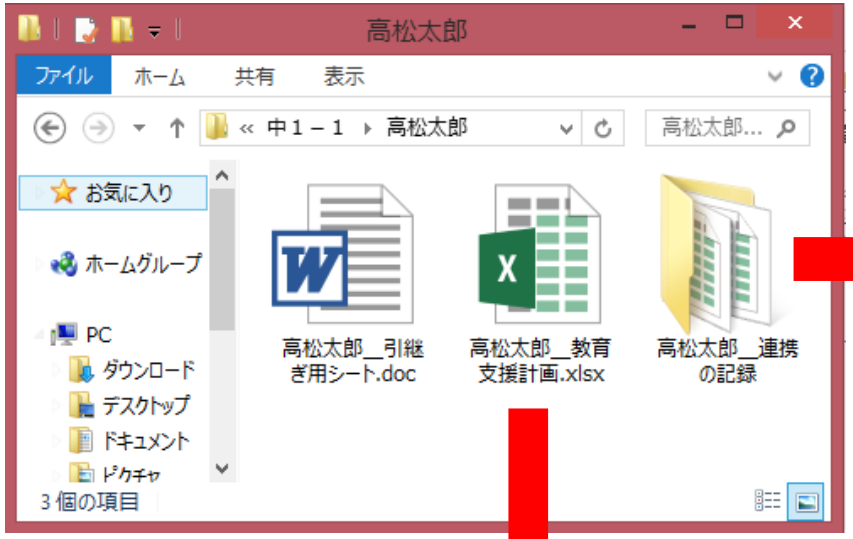


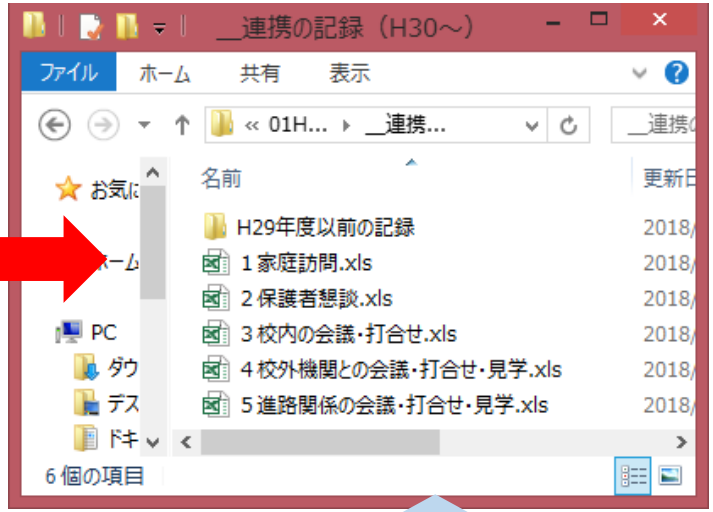


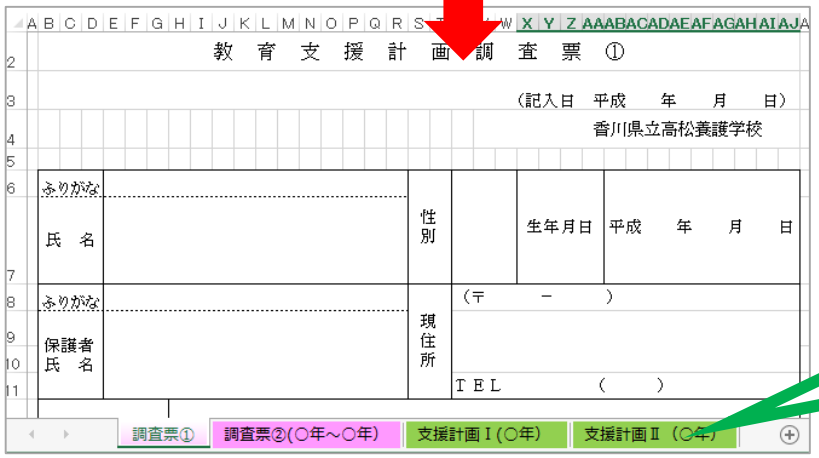
- ✓ 「調査票①②」で**情報を整理**し、
- ✓ 「支援計画Ⅰ」で、児童生徒や保護者の意見を踏まえて**教育的なニーズを明らかに**し、
- ✓ 保護者や校内外の関係者と連携して**「誰が」「何をするか」を具体的に計画**していきます。

○本校の個別の教育支援計画は、ここに入っています

順に開いていって下さい
PC ⇒ disk1 ⇒ 児童生徒個人データ ⇒ データ作成・保存フォルダ ⇒ 個別の教育支援計画 ⇒ ○年度 ⇒ 各学部のフォルダ ⇒ 各学級のフォルダ ⇒ 児童生徒のフォルダ
※ファイルにはパスワードをかけています。今年度は「　　」です。







校内や校外で行われた支援に関する懇談や会議、打合せの詳しい記録を書いていく「連携の記録」の様式が入っています。（本手引きP.13）
<u>※※保護者対応や外部機関との連携等、支援に関する重要事項も含まれています。年度当初には必ず目を通すようにして下さい。</u>

調査票①、調査票②、支援計画Ⅰ、支援計画Ⅱの様式がまとめて入っています。
また、過去の計画書も一緒になっています。

調査票①の記入の仕方

記入例　教育支援計画調査票①

（更新日　令和２年　５月３０日）

香川県立高松養護学校

ふりがな 氏　名	たかまつ　たろう 高松　太郎	性別	男	生年月日	平成　△年　△月　△日
ふりがな 保護者氏　名	たかまつ　じろう 高松　次郎	現住所	（〒　〇〇〇　－△△△△　） 香川県高松市〇〇町〇〇番地 ＴＥＬ　〇〇〇（△△△）□□□□		
病　名等	例　脳性まひ　ダウン症　〇〇症候群など				
手　帳	身障　〇　種　〇　級	療育	△		
合併症（例えば心臓疾患、ぜんそく等、あれば記入）		発作の有無 有			
通学方法（交通手段と距離）だいたいでかまいません 例　母が自家用車で送迎　約５ｋｍ 路線バス 自家用車とスクールバス（朝のみ）		その他 例　センター入所 寄宿舎入舎（水、木週2回）			

家族構成	続柄	氏名	備考
	父	高松　〇〇	
	母	高松　△△	
	兄	高松　＊＊	
	妹	高松　？？	
	祖母	香川　××	

チェック欄（担任名記入）

小　1	小　2	小　3	小　4	小　5	小　6
~~田中一郎~~ 香川三郎	山田花子				
中　1	中　2	中　3	高　1	高　2	高　3

確認や修正をした日を記入します。

年度途中に変更があった場合は、上書き修正をします。
※変更前の情報を残す必要はありません。

※家族構成に関して、離婚や逝去等があった場合は、消去します。

年度始めに記入内容の確認・修正を行った担任名を記入します。
担任が変わった際には、取消線を入れて、下に追記します。

調査票②の記入の仕方（１）　使い方

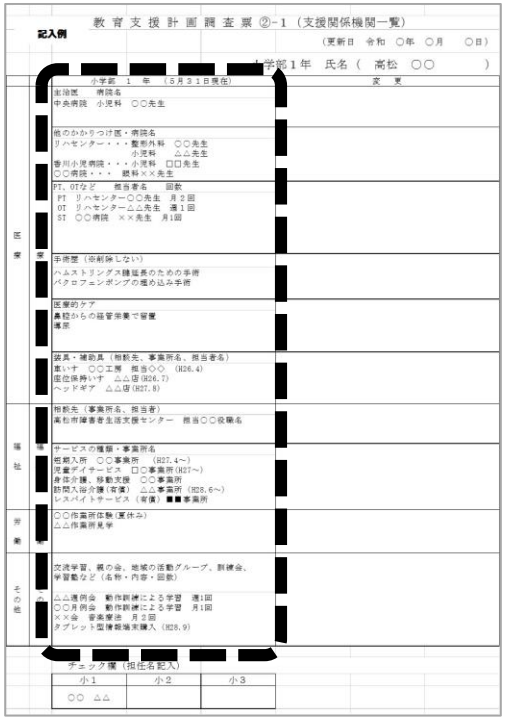
調査票②には、
「調査票②-1(小1･2･3用）」「調査票②-2(小4･5･6用）」「調査票②-3(中1･2･3用）」「調査票②-4(高1･2･3用）」
の4種類のシートが入っています。
それぞれ3年間、情報を変更・追記しながら使い、小１、小４、中１、高１の時にシートを作りなおします。

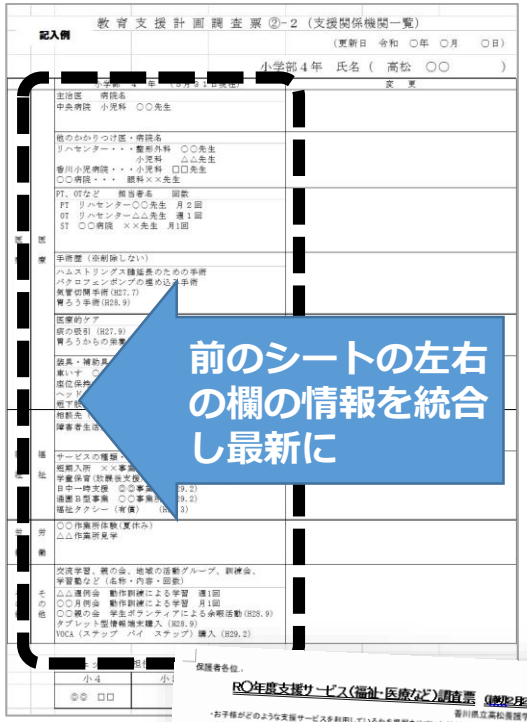
【例】「調査票②-1（小1･2･3用）」の場合

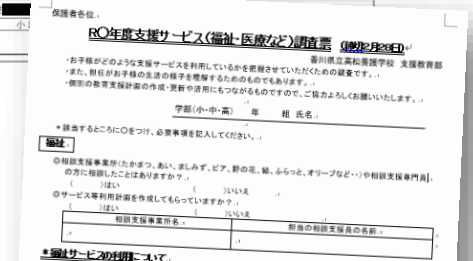
小１の５月末時点
（小1･2･3用のシートの左欄に記載します）

⇒ 小１の６月以降から小３まで
(左欄は触らず、右欄に追記していきます)

⇒ 小４になる時
（**「調査票②-2（小4･5･6用）」のシートに**、左右の欄の情報を統合します）







※「支援サービス（福祉・医療など）調査票」を元に記入し、保護者懇談や家庭訪問で内容の確認をします、

調査票②の記入の仕方（２）

3年間変更しません。　現学年を記入します。

小１、小4、中１、高1の5月末までの情報を記入します。（前ページ参照）

確認や修正をした日を記入します。

3年間の変更・追記事項を年・月を付けて記入します（詳細は前ページ）。

・変更や追記事項がある場合は、年度途中でも右欄に記入します。

・履歴が分かるように、前の情報に取消線を入れて、変更事項をその下に書きます。

・リハやサービスの利用が中止になった場合は、取消線を入れます。

手術歴について

・次のシートで情報を統合するときには（前ページ参照）、前の情報を消さない。

医療的ケアについて

・医療的ケアに関する手術は「手術歴」の欄に記入します。

装具・補助具について

・担当者は製作した事業所で直接かかわる人を分かる範囲で記入します。

サービスの種類・事業所名について

・現在利用している福祉サービス等について、利用を開始した年・月を付けて記入します。

労働について

・労働、進路指導に関する経験（学校行事含む）があれば記入します。

・高等部は、本人の進路選択に関わる事項のみ記入します。

・次のシートで情報を統合するときには（前ページ参照）、前の情報を消さない。

その他について

・タブレット型情報端末の就学奨励費での購入、日常生活用具での支援機器の購入があった場合はここに記入します。

年度始めに記入内容を保護者に確認後、確認した担任名を記入します。

記入例　教育支援計画調査票②（支援関係機関一覧）

（記入日　令和　○年　○月　○日）

中学部２年　氏名（　高松　太郎　）

	中学部　1　年	変　更
医療	主治医　病院名 中央病院　小児科　○○先生	
	他のかかりつけ医・病院名 リハセンター・・・整形外科　○○先生 小児科　△△先生 香川小児病院・・・小児科　□□先生 ○○病院・・・　眼科××先生	小児科　○○病院△△先生(H30.5) 訪問看護　△△病院□□看護師（H30.4）
	PT、OTなど　担当者名　回数 PT　リハセンター○○先生　月２回 OT　リハセンター△△先生　週１回 ST　○○病院　××先生　月1回	~~PT　リハセンター××先生　月1回(H30.6)~~ PT　リハセンター●●先生　月1回(R2.5)
	医療的ケア 鼻腔からの栄養注入 導尿	気管切開手術(H30.7) 胃ろう造設手術(H30.9)
	装具・補助具（相談先、事業所名、担当者名） 車いす　○○工房　担当◇◇　(H26.4) 座位保持いす　△△店(H26.7) ヘッドギア　△△店(H27.8)	短下肢装具　○○工房　(H30.7) ＰＣウォーカー　△△店　(H30.8)
福祉	相談先（事業所名、担当者） 高松市障害者生活支援センター　担当○○相談員	障害者生活支援センター　◇◇　担当△△相談員(H31.
	サービスの種類・事業所名 短期入所　○○事業所　(H27.4～) 放課後等デイサービス　□○事業所(H27～) 身体介護、移動支援　○○事業所	短期入所　××事業所に変更(H30.8) 放課後等デイサービス　◎◎事業所利用開始（H31.2）
労働	○○作業所体験(H28.10) △△作業所見学(H30.11)	××施設見学(R1.12)
その他	交流学習、親の会、地域の活動グループ、訓練会、学習塾など（名称・内容・回数） ○○月例会　動作等の学習　月1回 ××会　音楽療法　月２回 タブレット型情報端末購入（H30.9）	○○親の会　月例会プール班参加（H30.5） VOCA（ステップ　バイ　ステップ）購入（H31.2）

チェック欄（担任名記入）

中１	中２	中３
○○　△△		

支援計画Ｉの記入の仕方（１）　　このシートの作成のねらい

記入例　　個別の教育支援計画　Ｉ

○○部　○ 年　　高松太郎

香 川 県 立 高 松 養 護 学 校

作成者氏名　　㊞　令和　年　月　日

（困っていることなど）現在の課題	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・最近首や背中が痛くなることが多い。 ・パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
	保護者	・話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。 ・勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。 ・最近体がかたく動きにくくなってきた。ＰＴには筋力が低下していると言われた。
（つけたい力など）現在の願い	本人	・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の状態をできるだけ維持してほしい。 ・親が連れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・タブレット型情報端末を利用して、少しでも自分で学習活動ができるようになってほしい。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　筋力をつけて、もっとスムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B　タブレット型情報端末など、扱いやすい教材や学習用具で学習できるようにする。
C　自分の意思をはっきりと言葉で伝えられるようになる。

教育的なニーズのことです。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・□□病院ＰＴ（Ａ） ・○○事業所（ＢＣ） ・寄宿舎（ＡＢＣ） ・自立活動室（ＡＣ）	・寄宿舎との連絡会（H28.4） ・自立活動室との打ち合せ（H28.5） ・□□病院ＰＴ見学・支援内容に関する相談（H28.7） ・サービス担当者会議（H28.7）

この支援計画を了承します。　　令和　　年　　月　　日　　氏名

本人や保護者の**現在の課題（困っていること）**、**現在の願い（つけたい力）**を明確にして

本人・保護者・担任で「今より豊かな生活」のイメージを話しあい、

「今より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）を考え、優先度や実現できる可能性の高いものを絞り込みます。

この欄には、児童生徒のニーズを実現するために必要な連携機関を書き出し、実際に行った連携の履歴を残していきます。

支援計画Ｉの記入の仕方（２）　※①～③について家庭訪問等で話し合います。

記入例　個別の教育支援計画　Ｉ

○○部　○ 年　高松太郎	香川県立高松養護学校 作成者氏名　㊞　令和　年　月　日

（困っていることなど）現在の課題	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・最近首や背中が痛くなることが多い。 ・パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
	保護者	・話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。 ・勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。 ・最近体がかたく動きにくくなってきた。ＰＴには筋力が低下していると言われた。
（つけたい力など）現在の願い	本人	・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の状態をできるだけ維持してほしい。 ・親が連れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・タブレット型情報端末を利用して、少しでも自分で学習活動ができるようになってほしい。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　筋力をつけて、もっとスムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B　タブレット型情報端末など、扱いやすい教材や学習用具で学習できるようにする。
C　自分の意思をはっきりと言葉で伝えられるようになる。

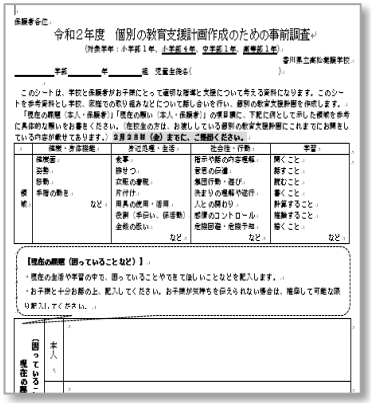
連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・□□病院ＰＴ（A） ・○○事業所（ＢＣ） ・寄宿舎（ＡＢＣ） ・自立活動室（ＡＣ）	・寄宿舎との連絡会（H28.4） ・自立活動室との打ち合せ（H28.5） ・□□病院ＰＴ見学・支援内容に関する相談（H28.7） ・サービス担当者会議（H28.7）

この支援計画を了承します。　令和　年　月　日　氏名

①　本人、保護者が感じている課題や、願いを聞き取ります。

・**校外からの新転入生**は、「個別の教育支援計画作成のための事前調査（右）」が　入学式の日に届くので、その内容を転記し、家庭訪問等で確認をします。

・**前年度からの在校生**は、すでに前担任が、本人・保護者から聞き取りを行って記入しています。家庭訪問等でその内容を確認し必要な追加や修正を加えます。


保護者各位

令和２年度　個別の教育支援計画作成のための事前調査

（対象学年：小学部１年、小学部５年、中学部１年、高等部１年）

香川県立高松養護学校

＿＿＿学部＿＿＿年＿＿＿組　児童生徒名（　　）

このシートは、学校と保護者がお子様にとって適切な指導と支援について考える資料になります。このシートを参考資料とし学校、家庭での取り組みなどについて話し合いを行い、個別の教育支援計画を作成します。

「現在の課題（本人・保護者）」「現在の願い（本人・保護者）」の項目欄に、下記に例として示した領域を参考に具体的な難しさお書き（たとい、「自閉症の方は、お話ししている最中の教室天井眺めにこれまでにお聞きしている内容が変化してあります。」※具体的に（例）までに、ご相談ください。

	領域・身体機能	身辺処理・生活	社会性・行動	学習
領域	排泄： 歩行： 移動： 手指の動き： など：	食事： 睡眠： 衣服の着脱： 片付け： 用具の使用・活用： 色彩（手伝い、保護者） 金銭の扱い： など：	指示や話の内容理解： 家族の伝達： 集団行動・遊び： 決まりの理解や遵行： 人との関わり： 感情のコントロール： 危険回避・危険予知： など：	聞くこと： 話すこと： 読むこと： 書くこと： 計算すること： 理解すること： 解くこと： など：

【現在の課題（困っていることなど）】

・現在の生活や学習の中で、困っていることやできて欲しいことなどを記入します。

・お子様と十分お話の上、記入してください。お子様が気持ちを伝えられない場合は、推測して可能な限り記入してください。

現在の課題（困っていること）	本人	

②　①の聞き取りを踏まえて「より豊かな生活」について考え、話し合います。

・様式に欄を設けてはいませんが、大切な検討です。

・①の聞き取りに合わせて話し合いをしてください。

「より豊かな生活」はどう考えるの？

本人、保護者の願い等に、教員の教育的な視点を加えて、「○年後にこんな姿になるといいな」という実現可能な具体的な様子を考えるようにします。２～３年間を想定すると良いと思います。

③　②で想定した「より豊かな生活」の実現に向けて必要なこと、取り組むべきことを協議し、その中から優先度の高いものを「３つ程度」記入します。

・上から順にA、B、Cとアルファベット記号に続けて記入します。

・「～ができるようになる」「～する」など児童生徒の立場で表現します。

・高等部生で就学奨励費でICT機器を購入した場合は、その活用目的が含まれるようにしてください。

支援計画Ｉの記入の仕方（３）

記入例　個別の教育支援計画　Ｉ

○○部　○ 年　高松太郎

香川県立高松養護学校
作成者氏名　㊞　令和　年　月　日

（困っていることなど）現在の課題	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・最近首や背中が痛くなることが多い。 ・パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
	保護者	・話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。 ・勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。 ・最近体がかたく動きにくくなってきた。ＰＴには筋力が低下していると言われた。
（つけたい力など）現在の願い	本人	・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の状態をできるだけ維持してほしい。 ・親が連れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・タブレット型情報端末を利用して、少しでも自分で学習活動ができるようになってほしい。

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A　筋力をつけて、もっとスムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B　タブレット型情報端末など、扱いやすい教材や学習用具で学習できるようにする。
C　自分の意思をはっきりと言葉で伝えられるようになる。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・□□病院ＰＴ（Ａ） ・○○事業所（ＢＣ） ・寄宿舎（ＡＢＣ） ・自立活動室（ＡＣ）	・寄宿舎との連絡会(H28.4) ・自立活動室との打ち合せ(H28.5) ・□□病院ＰＴ見学・支援内容に関する相談（H28.7） ・サービス担当者会議（H28.7）

この支援計画を了承します。　令和　年　月　日　氏名

作成、更新した日を記入し、作成者の名前を書きます。

「児童生徒のニーズ」欄に書いたことを実現するために、必要と思われる校内分掌や、校外機関の名称を記入します。

・年度初めの更新・作成時に想定される連携先（名称のみ）を書きます。
・「児童生徒のニーズ」のどれに関係するかが分かるように、アルファベット記号を付けます。

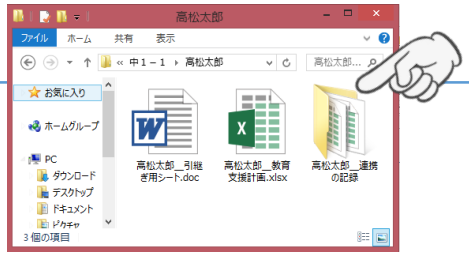
年度内に実際に行った連携（関係機関との会議等）について履歴を記入します。

・校内で実施したケース会等についても記入します。
・会議等の**「名称と実施日のみ」を記入**します。**参加者や内容は、別のファイル「連携の記録」**（次ページ）に書きます。

【必ず記入する連携】
（校内）寄宿舎との連絡会、自立活動室との打ち合せ、歯科医による摂食指導、進路に関する懇談会等
（校外）サービス担当者会議、センターケース会、PT見学、OT見学、ST見学、ORT見学、外部機関とのケース会
※それ以外の連携については、必要度に応じて記入します。

作成・更新の度に保護者に最新版を渡します。
保護者が日付と署名をして持ち帰ります。

【「連携の記録」ファイルの使い方】



支援計画Ⅰの右下の「連携の記録・履歴」欄（前ページ参照）に記入した、連携のための会や見学の詳しい内容を記入します。「連携の記録」フォルダの中に、家庭訪問や保護者懇談用を含めて５種類のエクセル書類が入っています。

1　家庭訪問

2　保護者懇談

※家庭訪問と前期末懇談、後期末懇談については、実施しない年があってもシートを追加し「実施せず」と記入しておきます。実施しなかった理由が特にあれば書きます。

※送迎時等に行った保護者との懇談でも、記録に残しておいた方が良い、引き継いだ方が良い内容があれば作成します。

3　校内の打ち合わせ

・寄宿舎との連絡会、自立活動室との打ち合せ、校内でのケース会等で、記録を残す必要のあるもの。

4　校外機関との会議・打ち合せ・見学

・サービス担当者会議、センターケース会、校外機関とのケース会等
（それ以外のリハの見学等は必要に応じて記入します）

5　進路関係の会議・打ち合せ・見学

・校内の進路懇談会、行政相談会等
・進路指導に関する事業所見学等

（例）

校外機関との会議･打合せ･見学

会議の名称	サービス担当者会議
児童生徒名	小学部3年　高松　太郎
日　　時	令和2年　6月　10日　15 :30 ～ 16:55
場　　所	本校　小3教室
参 加 者	相談支援事業所〇〇田中氏、放課後等支援サービス△△山田氏、居宅支援事業所□□鈴木さん、佐藤さん 中山部主事、岡本（担任）、塩路コーディネーター
内　　容	＜情報交換＞ （相談支援事業所〇〇、田中さんより） ・今後、短期入所の利用が始まる。 ・いろいろな支援者と楽しくやりとりをしたり、自分で考えて行動したりできるように支援する。 （△△、□□での様子） ・自分から人と関わっていこうとする姿が見られている。友達との関係も少しずつ進歩している。 ・熱が夕方頃にこもってくるので、貼る冷却シートで対応している。（37.5度を目安） （担任より、個別の教育支援計画に沿って取組や様子を説明） ・グループ学習など、他の学年の友達に刺激を受けながら楽しく学習できている。 ・司会など、嫌がったりしぶったりすることがあるので、選択肢を設けて聞くようにしている。 （連携について） ・車いすから降りて体を動かす時間を設ける。（△△） ・遊びや絵本を選ぶ時に、2～3つの選択肢を示すようにする。（△△、□□）

小１PT見学　小２サービス担当者会議　小２ケース会議　小３サービス担当者会議

支援計画Ⅰの「連携の記録・履歴」の表記と合わせます。

シートのタグの名前は「学年 会議等名」とします。端的に表記します。

※保護者対応や外部機関との連携等、支援に関する重要事項も含まれています。年度当初に必ず目を通してください。

※次年度以降の担当者が閲覧、追記に困らないよう次のルールを守ってください。

●フォルダ内にファイルを増やさない。●ファイルの複製を作成しない。●ファイル名を変更しない。

支援計画Ⅱの記入の仕方（１）　このシート作成のねらい

個別の教育支援計画Ⅱ

部　　年

香川県立高松養護学校

作成者氏名　　㊞　令和　年　月　日

支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）

教育支援計画Ⅰの「児童生徒のニーズ」に対応した今年度の支援目標を記入します。

学級、家庭での支援内容を保護者と話し合い記入します。

教科担任や自立活動室、寄宿舎、養護教諭、学校看護師等との連携について「誰が」「何をするか」を記入します。

支援目標に対応した校外の関係機関での支援内容や担当する機関や人を記入します。

前年度の支援計画や、サービス担当者会議等で「誰が」「何をするか」を確認し、必要に応じて修正します。

「○○をする」⇐「誰が」　**「○○をする」⇐「誰が」**

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

年度末（1月～2月）に、一年間の取組の評価を記入します。

この支援計画を了承します。　　令和　年　月　日　氏名

作成・更新の度に保護者に最新版を渡します。保護者が日付と署名をして家庭用ファイルに綴じます。

支援計画Ⅱの記入の仕方（２）

支援目標に対応して、
校内、校外の支援内容を
横に揃えて記入します。

「誰が」を担当欄に、
「○○をする」を学校・家庭欄に書きます。
・担当者が主語になる表現で書きます。

作成、更新した日を記入し、
作成者の名前を書きます。

記入例

○○部　○年　高松　太郎

個別の教育支援計画Ⅱ

香川県立高松養護学校
作成者氏名　　㊞　令和　年　月　日

支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
A 全身の筋力をつけ、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。	A 給食場までの移動の際にＰＣウォーカーで移動する距離を増やしていく。 A 寄宿舎でも1日に1回ＰＣウォーカーで廊下を1往復する機会を設ける。	高松 香川 田村(舎)	A 体の変化に伴って、歩行する際の助言を保護者や担任に行う。	○○病院：○○ＰＴ (H28.7)
B メモやノートを楽に取れるようにする。	B 授業のなかで、タブレット型情報端末のデジタルノート用アプリケーションを組み合わせながら、効率の良い方法を検討する。 B 教科担任間でのケース会を実施し、ノートテイクについての共通理解を図る。	香川 高山 教科担任	B 放課後等デイサービスで宿題に取り組む時にも、タブレット型情報端末を使用できるように環境を整える。	○○事業所：○○さん （H28.5.30）
C 促しがあれば、保護者や学級担任以外の人にもに自分の意思を伝えようとできる。	C 早口になっていたら、ゆっくりしたペースにするよう言葉かけをする。 C 10月より携帯型情報端末のコミュニケーション支援用アプリケーションを使って、意思を相手に伝える学習を開始する。	高松 香川 谷口(自)	C 意思が伝わるまで、根気よく聞くよう職員間で共通理解を図る。 サービス担当者会議で支援方法の共有を行った。	○○サポート：○○ヘルパー（H28.7.10） ○○相談センター：○○さん（H28.7.10）

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

A 毎日ＰＣウォーカーを使って移動することで、徐々に移動距離が伸び、１１月頃からは給食場までの往復をウォーカーでできるようになった。寄宿舎では、移動に自信が付いてきた後期より、自らウォーカー移動に取り組もうとするなど、意欲的な様子が見られた。また脚や体幹、腕などの筋力も付き、姿勢変換や四つばいでの移動がスムーズになったり、側わんが軽減したりしてきている。
B 取り組み当初は、タブレット型情報端末の扱いに時間を有した。全ての教科でデジタルノート用アプリケーションでのノートテイクを始めた頃から、機器を扱う機会が増えたことで、扱いになれ、スムーズに入力できるようになった。授業後にデジタルノートを見返す機会が増え、復習に活用できるようになっている。
C 外出に移動支援を利用する際に、ヘルパーや店員の方にスマートフォンを使って意思を伝え、買い物を楽しむことができるようになってきている。

年度末に、支援目標のアルファベット記号に対応して記入します。

この支援計画を了承します。　　令和　年　月　日　　氏名

支援計画Ⅰの児童生徒のニーズに対応した支援目標を記入します。
・支援計画Ⅰの「児童生徒のニーズ」に対応した具体的な目標を立てます。
・どのニーズに関する目標か分かるよう、左端にアルファベット記号を書きます。

「誰が」を担当欄に、「○○をする」を福祉・医療・労働欄に書きます。
・「情報交換をした」「アドバイスを受けた」「見学を行った」という履歴は書きません。関係機関が行う支援内容を記入します。
・担当者名には、確認した年・月を付けます。

福祉、医療、労働の欄が空白になっている場合
・前年度の連携が転記されていない可能性があります。必ず前年度のシートを確認して確実に反映させてください。

年度内の「随時更新」

【ケース１ 】関係機関に一緒に取組んでもらえることが確認できた場合

①支援計画Ⅰに「会議名・実施日」を記入

個別の教育支援計画 Ⅰ 記入例２

○○部 ○ 年 高松太郎

香川県

作成者氏名

令和2年9月20日

現在の願い（困っていることなど）	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・帰宅後にすることがない。
	保護者	・側わんが進行しているようで心配である。 ・話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。
現在の願い（つけたい力など）	本人	・もっと外出していろいろな所に行きたい。 ・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の成長をできるだけ維持してほしい。 ・疲れが溜れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・話が伝わらないとすぐにあきらめてしまうので、あきらめないで相手に伝えてほしい。

２ページ

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A 筋力をつけて、もっとスムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B タブレット型情報端末など、使いやすい教材や学習用具で学習できるようにする。
C 保護者以外の人とも外出できるようになる。

連携する関係機関等	連携の記録・展開
・□□病院ＰＴ［A］ ・○○事業所［B C D］ ・△△事業所［D E］ ・学校医［A B D E］ ・自立活動教室［A B］ ・学校教育課［E］	サービス担当者会議（R2.9）

②支援計画Ⅱに「だれが（担当者）」「○○をする」を追記

記入例

個別の教育支援計画Ⅱ

○○部 ○年 高松 太郎

香川県立高

作成者氏名

令和2年9月20日

支援目標	支援の内容：学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
A 全身の筋力をつけ、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。	A 給食場までの移動の際にＰＣウォーカーで移動する距離を設ける。 A 寄宿舎でも1日に1回ＰＣウォーカーで歩行する時間を設ける。 会を設ける。	高松 香川	A 体の変化に伴って、歩行する際の助言を保護者や担任に行う。	○○病院：○○ＰＴ（H28.7）
B メモやノートを楽に取れるようにする。	B 授業のなかで、タブレット型情報端末のデジタルノート用アプリケーションを組み合わせながら、効率の良い方法を検討する。 B 教科担任間でのケース会を実施し、ノートテイクについての共通理解を図る。	香川 高山 教科担任	B 放課後等デイサービスで宿題に取り組む時にも、タブレット型情報端末を使用できるように環境を整える。	○○事業所：○○さん（R2.5.30）

Ａウォーカーで散歩をする時間を設ける。

○○サービス：○○さん（R2.9）

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

この支援計画を了承します。 令和 年 月 日 氏名

・「福祉・医療・労働」欄に、関係する支援目標に対応させて（横の位置）に、アルファベット記号を付けて記入します。具体的に「○○する」と書きます。

③「連携の記録」の「校外機関との会議・打ち合せ・見学」のファイルにシートを追加し、会議内容の概要を記入します。

校外機関との会議・打合せ・見学

会議の名称	サービス担当者会議
児童生徒名	高松 太郎
日 時	令和２年９月２０日 15:30～16:30
場 所	支援センター○○
参加者	本人、保護者、○○相談支援専門員、・・・・・
内 容	・・・・・・ ・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・ ・・・・・

④支援計画Ⅰ、支援計画Ⅱを、学年主任、部主事に回覧したのち、保護者に配布する。

・配布後に、保護者は、各シートの下の確認欄に日付と署名を記入して、サービス担当者会議に参加した関係機関に届ける。
・また、家庭に配布してある支援計画の家庭用ファイルに綴じこみます。

年度内の「随時更新」

【ケース２ 】校内や校外の関係機関との会議や見学をしたが、直接、支援目標に関係する取組の追加等はなかった場合

①支援計画Ⅰに「会議名・実施日」を記入

個別の教育支援計画 Ⅰ 記入例２

○○部 ○ 年 高松太郎

香川県

作成者氏名

令和2年6月13日

現在の様子（困っていることなど）	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・帰宅後にすることがない。
	保護者	・側わんが進行しているようで心配である。 ・話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。
現在の願い（つけたい力など）	本人	・もっと外出していろいろな所に行きたい。 ・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の成長をできるだけ維持してほしい。 ・疲れが溜まって行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・話が伝わらないとすぐにあきらめてしまうので、あきらめないで相手に伝えてほしい。

２ページ

児童生徒のニーズ
（より豊かな生活の実現のために必要なこと）

A 筋力をつけて、もっとスムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B タブレット型情報端末など、使いやすい教材や学習用具で学習できるようにする。
C 保護者以外の人とも外出できるようになる。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・□□病院ＰＴ［A］ ・○○事業所［B･C･D］ ・△△事業所［D･E］ ・学校医［A･B･D･E］ ・自立活動室［A･B］ ・学校歯科医［E］	健康保持に関する情報交換会（R2.6）

②支援計画Ⅱへ更新は必要ありません

記入例

個別の教育支援計画Ⅱ

○○部 ○年 高松 太郎

香川県立高松養護学校

作成者氏名 ㊞ 令和 年 月 日

支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	職場・家庭・地域	関係機関・当事者（期日）
A 全身の筋力をつけ、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。	A 給食場までの移動の際にＰＣウォーカーで移動する距離を増やしていく。 A 寄宿舎でも1日に1回ＰＣウォーカーで廊下を往復する機会を設ける。	高松 香川 田村(舎)	A 体の変化に伴って、歩行する際の助言を保護者や担任に行う。	○○病院：○○ＰＴ (H28.7)
B メモやノートを楽に取れるようにする。	B 授業のなかで、タブレット型情報端末の使用アプリケーションを組み合わせながら、効率の良い方法を検討する。 B 教科担任間でのケース会を実施し、ノートテイクについての共通理解を図る。	香川 高山 教科担任	B 放課後デイサービスで宿題に取り組む時間を、タブレット型情報端末を使用できるように環境を整える。	○○事業所：○○さん (H28.5.30)

更新は不要です

支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項

この支援計画を了承します。 令和 年 月 日 氏名

③「連携の記録」の「校内の会議・打ち合せ」のファイルにシートを追加し、会議内容の概要を記入します。

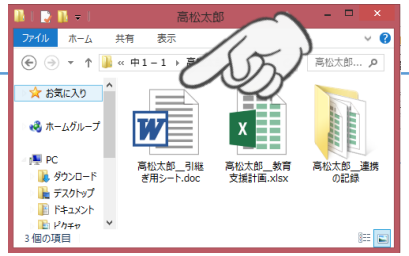
校外機関との会議･打合せ･見学

会議の名称	健康保持に関する情報交換会
児童生徒名	小学部3年 高松 太郎
日 時	令和2年 6月 13日 15 :30 ～ 16:55
場 所	本校 会議室
参 加 者	香川病院田中医師（主治医）、居宅支援事業所□□鈴木さん 中山部主事、岡本（担任）、塩路コーディネーター
	＜各担当からの報告＞ …… …… ＜今後の対応の方向性＞ …… ……

④支援計画Ⅱに更新を加えなかった場合は、回覧や保護者配布は必要ありません。

・データの修正、更新のみで構いません。

【「引継ぎシート」について】



児童生徒に対して、学校生活や学習の様々な場面で行っている支援や配慮を引き継ぐための資料です。
引継ぎを受けて約１～２か月くらいの期間に活用し、児童生徒が新しい学級や先生との生活のスタートをスムーズに行えることを目的にしています。
前担任が年度末に更新を加え（上書き保存とパスワード変更）、次年度に引き継ぎます。

令和元年度末　引継ぎ用シート

中学部　１年　氏名（　高松　太郎　）　作成者（　香川　花子　）

１　継続して取り組んでほしい内容や配慮事項

※　これまで大切にしてきた指導内容・方法の工夫（環境や働きかけの工夫、支援のこつ、情緒的に不安定になったときの対応など）や配慮事項などを強調する項目の番号を赤い文字で記入します。

	項　目	配慮・支援
健康・身体機能	① 健康面に関する配慮	心臓疾患があり、（運動制限はない）風邪をひきやすい。鼻水や咳が出る症状が１週間以上続くことが多い。冬場などは感染症予防のためマスクを着用。
	② 視覚	注視や追視が可能。視線を動かして選択することができる。
	③ 聴覚	
	④ 姿勢保持	右股関節脱臼者。姿勢変換などで痛みが出ることがあるので注意。低緊張のため姿勢が崩れやすい。
	⑤ 移動	
	⑥ 手指の動き	自分で大きく動かせる手は左手。補助具をもってひもをひっぱるときなどには左手を使う。
	⑦ その他（手術歴・服薬等）	H２３年７月、H２６年１０月に右股関節脱臼の手術。術後は過度の緊張が入ると痛みを訴えることが多くなり、毎日就寝前にダイアップを使用して対処している。
身辺処理・生活	① 食事	給食はペースト食。バナナは普通食をつぶして食べる。ほぼ毎日完食。
	② 水分	給食の牛乳やお汁はとろみ剤を使用して、飲むヨーグルト程の固さにしている。休み時間の水分はストローマグを使用してお茶を飲む。１日２００ｍｌは飲むように。飲むときには首が大きく動いてむせることもあるため、あごや首を支えて一口ずつ飲むようにする。
	③ 排せつ	おむつを使用し、全介助。１－２時間ごとに排尿でオムツ交換。排便は学校では少ない。
	④ 衣服の着脱	着るときは右手から、脱ぐときは左手から介助する。
	⑤ 片付け	
	⑥ 用具の使用・活用	鉛筆やマジックは指導者と一緒に。両面テープは補助具を使用すると、自分ではがせる。
	⑦ 役割（手伝い、係活動など）	
	⑧ 金銭	
	⑨ その他（　　）	

活用の流れ

4月

○前担任が作っている引継ぎシートを確認し、それにそって支援や配慮を開始します。
○不明な点などは、前担任等に確認します。
（校外からの新転入生には引継ぎシートはありません）

２～３月

○**前年度からの在校生**は、引継ぎシートの内容と、今年度行ってきた支援や配慮を照らし合わせて、必要な変更や追加を加えます。**まれに「実態」についての説明になっているケースがありますので注意して下さい。**
○**校外からの新転入生**は、新しく引継ぎシートを作成します。
※パスワードを次年度用に変更してください。

3月末

○学年主任に提出します。学年主任は内容を確認（必要抜応じて訂正）

※※お願い※※

・様式に沿って引継ぎを受けた人が読んで理解しやすいように書きますが、量が増えすぎると要点の理解が難しくなります。原則として２ページ、多くても３ページに収まるようにします。
・教科の学習内容等などは、個別の指導計画に記載されますので、このシートでは指導する上での配慮点のみを書くようにします。

まず先生方に知ってほしい

香川県立高松養護学校

「サービス担当者会議」への参加の取組について

福祉サービス事業所との連携がなぜ必要なの？

特別支援教育では「一人一人の**教育的ニーズ**の把握」がキーワードとなっています。**教育的ニーズ**とは、児童生徒一人一人に想定される**「今よりも豊かな生活」**を実現するために、今、身につけておきたい力のことです。

教育的ニーズの把握の元になる、この**「今よりも豊かな生活」の想定**は学校での学習や生活だけを指すものではなく、学校以外の生活の様子も含まれるものです。

こういう考え方から、学校以外の生活や活動の様子を知ったり、学校での取組や変容を他の生活の場に広げたりするために、**「医療や福祉等の関係機関との連携を行う」**よう、学校教育法施行規則や学習指導要領に示されています。

しかし、実際に連携を行うには３つの課題があると言われています（丸山2018）。

学校と福祉（放課後等デイサービス等）との連携の3つの課題

- 連携のための時間・場所の確保
- 教員の福祉事業所への理解
- お互いの支援計画の活用

そこで「サービス担当者会議」への参加を行っています。

本校ではこの3つの課題への対応として、平成27年度から「サービス担当者会議」への参加を行っています。

「サービス担当者会議」とは…

デイサービス等の支援の給付に必要な手続きとして、利用者個々に対して年１～２回開かれ、本人や家族、利用する福祉事業所の担当者が集まり、支援目標や役割分担を確認・協議する福祉関係者の会議。

すでに児童生徒に年1～２回行うことになっている「サービス担当者会議」に参加させてもらうことで、学校が主導してケース会議を企画することなく、より多くの児童生徒について、福祉サービス事業所との連携の機会を確保しよう、という趣旨です。

参加の詳しい手順等につきましては、個別に特別支援教育コーディネーターから説明します。

「サービス担当者会議」に参加する主な目的は、次の２つ。

①学校以外での生活や活動の様子、関わっている人を知る。
②学校での支援目標や取組を知ってもらい、連携して一緒に取組んでもらえることがないか、協力を依頼する。

この目的の説明とともに、サービス担当者会議への参加を、学校から福祉サービス事業所（相談支援担当者）に、毎年依頼をしています。

連携促進の工夫

学校と、福祉サービス事業所では、児童生徒を預かる時間がちょうど反対になる関係で、時間の調整に難しさがあります。そこで本校では、先方からの**「学校での開催」「授業時間での参加」**の希望や相談に、可能な範囲で応じられる旨を周知しています。

その相談があった際には、授業担当者の補欠等の調整が必要になりますが、ご理解の上、ご配慮をお願いいたします（令和元年度の授業時間開催は、37会議中12回ありました）。

●参加した先生の声

・学校以外の家やデイサービスでの生活の様子が分かって良かった。
・保護者の悩みを共有することで、今後の接し方を家庭、デイサービス、学校で共通するきっかけになった。
・顔合わせができたので、夏休み中の見学などがスムーズに行えた。

●児童生徒の生活の変化の事例

・学校でしか水分補給ができていなかったが、方法などをデイサービスで共通理解し取り組んでもらえるようになった。その結果、デイサービスでも水分補給ができるようになった。さらに家庭でも取組んでくれるようになり、現在では家庭でも水分がスムーズにとれるようになった。

・子どものちょっと困った行動について、学校と福祉サービス事業所で共通した対応や指導を行うことで解決することができた。

不明な点や、質問がありましたら、特別支援教育コーディネーターにおたずねください。